

第2期千葉市・区地域福祉計画の推進状況について

1. 市地域福祉計画 (P 1～)

- 基本テーマ1 情報提供・相談体制 (P 1～)
- 基本テーマ2 居場所の確保・社会参加 (P 4～)
- 基本テーマ3 支え合いの仕組みづくり (P 8～)
- 基本テーマ4 意識啓発・人材育成 (P 13～)
- 基本テーマ5 基盤づくり (P 17～)

2. 各区地域福祉計画 (P 20～)

- (1) 第2期計画の重点項目における主な成果 (H26.3.31時点)
各区の重点項目における、区全体の主な成果を記載
- (2) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状 (H26.3.31時点)
各区の重点項目における、各地区部会エリアの現状を記載
- (3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)
各区の重点項目における、各地区部会エリアの主な成果・課題を記載

- 中央区 (P 20～)
- 花見川区 (P 26～)
- 稲毛区 (P 30～)
- 若葉区 (P 34～)
- 緑区 (P 40～)
- 美浜区 (P 43～)

千葉市地域福祉計画 事業一覧（目次）

1 情報提供・相談体制			ページ
①情報・サービス提供方法の充実			1
1	様々な組織・団体等への働きかけ		
2	地域住民や団体が参加できる場の設定		
3	地域福祉計画ホームページの充実		
4	地域福祉活動事例紹介の充実		
5	電子申請サービスの拡大		
6	市役所コールセンター		
②相談体制の充実			2
7	ア) 総合相談	保健福祉センター「保健福祉総合相談窓口」	
8	イ) 高齢者・介護	あんしんケアセンターにおける相談対応	
9		介護相談員派遣事業の充実	
10		障害者相談	
11	ウ) 障害者・児	こころの健康センターでの支援	
12		発達障害者支援センターの運営	
13		教育相談事業	
★ 14	子どもの相談・支援体制の強化		3
15	子育て支援館の運営		
16	エ) 出産・子育て	出産、育児の相談	
17	子どもと親の相談員等活用事業		
18	子育てサポーター・家庭教育アドバイザー配置事業		
19	オ) 女性相談	ハーモニー相談室	
2 居場所の確保・社会参加			
③居場所・交流の場づくり			
20	ア) 高齢者(介護予防も含む)	いきいきセンターの利用促進	
21		老人クラブ活動の充実強化	
22		ワークホームの運営支援	
23	イ) 障害者・児	精神障害者共同作業所の運営支援	
24		地域活動支援センターの運営支援	
25		障害者福祉大会の開催	
26		長柄げんきキャンプ	
27	ウ) こども	トイライブラリー運営事業	
28		こどもカフェ(仮称)の整備事業	
29		子ども交流館	
30		千葉市科学館の利用促進	
31	エ) 子育て家庭	放課後子ども教室推進事業	
32		子育てリラックス館の充実	
33	オ) 多世代・地域の交流	育児サークルの支援	
34		既存施設の有効活用	
35		学校体育施設開放事業	
36		多世代交流の推進	
37		保育所(園)地域活動事業	
38	学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業		
④社会参加の機会促進			7
39	シルバー人材センターの充実		
40	ことぶき大学校		
41	障害者福祉センター・療育センター・ふれあいの家における各種講座の開催		
42	障害者スポーツ大会等の開催		
43	障害者の就労支援		
44	母子家庭等の就業自立支援		
45	千葉市ふるさとハローワーク事業		
3 支え合いの仕組みづくり			8
⑤ネットワークの充実			
46	ア) ボランティアネットワークの機能強化	ボランティアズカフェ	
47		ボランティア保険制度	
★ 48	イ) 安否確認ネットワークの充実	安心電話・緊急通報装置の設置、SOSネットワークの整備、認知症への支援	
49	ウ) 子育てネットワークづくり支援	次世代育成支援対策の推進体制の検討	
50		子育てフォーラムへの支援	
51		「千葉市職員の子育て支援計画」に位置付けられている、子ども・子育てに関する地域貢献活動への市職員の参加の促進	
52	エ) 虐待への対応ネットワークの充実	地域保健推進員活動	
53		ファミリー・サポート・センターの充実	
54		高齢者虐待への対応	
55	児童虐待・DVへの対応		9

3 支え合いの仕組みづくり			ページ
⑤ネットワークの充実			9
56		地域見守り活動支援事業	
57		社協地区部会活動の活性化へ向けた支援	
58	オ) 団体等の活動推進・連携支援	市民活動センターによるNPOなどの団体間の連携強化	
59		大学等と連携した地域活動の推進	
60		コミュニティビジネスの支援	
61	カ) サービス利用や法律行為の支援充実	日常生活自立支援事業への支援、成年後見制度の利用促進	
62	キ) ホームレスの自立支援ネットワーク	ホームレス対策	
⑥防犯体制の充実・安全確保			11
★ 63	市民防犯活動の支援		
64	地域防犯ネットワークの推進		
65	高齢者の消費生活サポートネットワーク		
66	学校セーフティウォッチ		
67	こども110番のいえ		
68	交通安全総点検		
⑦防災体制の強化・支援			12
69	土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備		
70	自主防災組織の育成		
71	災害情報ネットワーク		
★ 72	災害時要援護者への対応		
4 意識啓発・人材育成			
⑧福祉への意識を高める			13
73		取り組みにつなげるための支援	
74		市職員による出前講座	
75	ア) 啓発活動	児童福祉週間、障害者週間における啓発活動	
76		児童虐待防止推進月間における啓発活動	
77		敬老事業を通じての高齢者を敬う意識啓発	
78		人権週間等における人権啓発活動	
79	イ) 福祉教育	学校における総合的な学習の時間を通しての福祉教育	
80		ボランティア教育の推進	
⑨担い手の確保			15
★ 81	ア) 担い手の創出	新たな担い手の創出	
82		シニア(団塊)世代地域活動支援セミナー	
83		社会福祉研修センターの運営	
84		民生委員・児童委員、主任児童委員の研修	
85	イ) 担い手の養成	生涯学習センター・公民館等における指導者及び各種ボランティア養成	
86		ヘルスサポーターの養成	
87		ボランティア育成・活動支援の推進	
88		認知症サポーターの養成講座	
89	ウ) ボランティアの実践支援	食生活改善推進員の養成	
90		ユースリーダーの養成	
91		障害のある子どもの学校生活サポート	
5 基盤づくり			
⑩福祉基盤の整備・活用			17
92	バリアフリーのまちづくりの推進		
93	交通アクセスの確保		
94	保健福祉センターの活用		
⑪各区地域福祉計画推進のための支援			18
—		(再掲)様々な組織・団体等への働きかけ(新規)	
—		(再掲)取り組みにつなげるための支援(新規)	
95	ア) 広報・意識啓発	区計画を推進するための、多方面からのサポート	
—		(再掲)地域福祉計画ホームページの充実	
—		(再掲)地域福祉活動事例紹介の充実	
—		(再掲)新たな担い手の創出(新規)	
—	イ) 担い手を確保するための支援	(再掲)ボランティアズカフェ	
—		(再掲)社協地区部会活動の活性化へ向けた支援	
96	ウ) 活動資金・拠点を確保するための支援	地域における活動資金づくりへの支援	
—		(再掲)既存施設の有効活用	
—		(再掲)様々な組織・団体等への働きかけ(新規)	19
—	エ) 地域の連携支援	(再掲)地域住民や団体が参加できる場の設定(新規)	
97		各区地域福祉計画推進協議会における積極的な情報提供・交換	

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ1：情報提供・相談体制》 ①情報・サービス提供方法の充実

No.	主な取り組み	所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
1	様々な組織・団体等への働きかけ	地域福祉課	庁内関係各課と調整の上、コミュニティソーシャルワーカー（関係機関や地域住民のネットワーク化を進めることで、地域福祉に係る課題に対応する専門スタッフ）を配する社協各区事務所とも連携し、社協地区部会をはじめ、町内自治会、ボランティア団体や福祉団体等への直接の説明機会などを充実させることにより、市計画・区計画の理解・普及に努めます。	市及び各区社協地区部会連絡会の場において、第2期地域福祉計画の概要、及び計画推進過程において見つかった問題点等について説明を行った後、社会福祉協議会との連携により作成した、次期計画策定方針（案）及び各区地域福祉計画（案）の説明を行った。	各区区連協及び各区民児協理事会の場においても、次期計画策定方針（案）及び各区地域福祉計画（案）について説明を行う。
		各区保健福祉センター		社協区事務所や区地域振興課等と連携し、社協地区部会や町内自治会等に出向き地域福祉計画の説明を行ったほか、地域ケア会議においても説明を行う等、区計画の理解・普及に努めた。	引き続き地域の団体への説明を行う。
2	地域住民や団体が参加できる場の設定	地域福祉課	体験談・先進事例の紹介などを行うフォーラムを開催します。	各区地域福祉計画推進協議会等において、地域の実践事例を紹介し、意見交換等を行った。 【各区開催回数】 ○ 中央区 4回 ○ 花見川区 3回 ○ 稲毛区 3回 ○ 若葉区 4回 ○ 緑区 4回 ○ 美浜区 2回	引き続き各区地域福祉計画推進協議会を開催し、事例の紹介、意見交換等を行っていく。
		各区保健福祉センター			
3	地域福祉計画ホームページの充実	地域福祉課	相互の情報交換機能の追加など充実に努めます。	各区推進協の開催状況や広報誌（推進協だより）、地域福祉専門分科会の開催状況などを掲載し、地域福祉に関する情報の提供に努めた。	引き続き地域福祉に関する情報の提供に努める。
4	地域福祉活動事例紹介の充実	地域福祉課	地域福祉活動を実践している団体への活動の参加など、体験を通じた紹介を充実します。	各区地域福祉計画推進協議会において、地域の先進事例や取り組みについて紹介を行った。 【各区の状況】 ○ 中央区 16事例を紹介 ○ 花見川区 7事例を紹介 ○ 稲毛区 3事例を紹介 ○ 若葉区 6事例を紹介 ○ 緑区 21事例を紹介 ○ 美浜区 2事例を紹介	引き続き各区地域福祉計画推進協議会等にて事例の紹介を行っていく。
5	電子申請サービスの拡大	業務改革推進課	インターネットを介して自宅などから市への申請・届出等の行政手続を行うことができる電子申請サービスについて、利用者ニーズが高い手続きや携帯電話からの申請・届出を可能とするなど、利用者の利便性の向上を図ります。	市役所内では、市政だよりに掲載する市主催の講座・イベント等申し込みについて原則電子申請を利用することとしている。また、電子申請手続きの導入を検討している所管課の職員等を対象として、システム操作研修を実施することで、利用可能手続き数が拡大した。 （H24）128件 → （H25）257件	引き続き電子申請システムの運用を継続し、利用件数と手続き数の拡大を図っていく。
6	市役所コールセンター	広聴課	行政サービスやイベントなどに関する電話等の問い合わせへ、一元的に対応します。	61,617件（受付件数）	引き続き実施していく。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ1：情報提供・相談体制》 ②相談体制の充実

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の取組状況	平成26年度の取組予定
7	ア)総合相談	保健福祉センター「保健福祉総合相談窓口」	保健福祉総務課	高齢者、障害者、子ども等に係る総合的な相談業務の充実に努めます。	取扱件数 44,539件(6区合計)	引き続き相談業務の充実に努める。
			各区保健福祉センター		高齢者、障害者、子ども等に関する相談に対して、担当窓口を案内し、サービス利用等につながるよう支援を行った。	引き続き相談業務の充実に努める。
8	イ)高齢者・介護	あんしんケアセンターにおける相談対応	高齢福祉課	高齢者やその家族に対する総合的な相談・支援や、要介護状態の軽減や悪化を防止するための介護予防ケアマネジメント、また、権利擁護事業などを行う総合的な窓口としての機能の充実に努めます。	1 高齢者やその家族からの相談に対応した（相談件数 29,869件）。 2 二次予防事業対象者へアセスメントを実施し、介護予防事業の参加につなげた（参加者 1,079名）。 3 地域包括ケアシステムの構築に向けて、「地域ケア会議」を開催し、地域の関係者との連携を図った。	1 高齢者やその家族に対する総合的な相談・支援を行う。 2 二次予防事業対象者や要支援者に対し、自立へ向けての介護予防ケアマネジメントを実施する。 3 高齢者の身近な相談窓口として、引き続き市民への周知をするとともに、地域包括ケアシステムの構築に努める。
9		介護相談員派遣事業の充実	介護保険課	介護相談員が、介護保険施設などの事業所を訪問し、利用者や家族の相談に応じることにより、利用者と事業者の橋渡しをしながら、問題の改善やサービスの質の向上を目指します。	月1回、2人一組で57事業所を訪問。(延べ683回、1,360人)相談員と介護保険課の連絡会議を、年11回開催した。(相談員と受入事業所、介護保険課の意見交換会は台風の為中止となった。) 5月に22事業所の入れ替えを実施した。	・平成25年度に引き続き、月1回、2人一組で57事業所の訪問を継続する。 ・相談員と受入事業所、介護保険課の意見交換会を年1回、相談員と介護保険課の連絡会議を年11回開催する。 ・21事業所の入れ替えを実施する。
10	ウ)障害者・児	障害者相談	障害企画課	障害者が地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、様々な相談に応じ支援します。	市内の障害児(者)施設に委託して、7か所で障害者相談支援事業を行った。	引き続き、市内の障害児(者)施設に委託して、障害者相談支援事業を実施する。
11		こころの健康センターでの支援	こころの健康センター	精神的健康の保持増進、精神障害の予防、精神障害者の社会復帰促進などの援助を行います。	精神保健福祉相談員や嘱託精神科医師による精神保健福祉相談を実施するとともに、相談専用電話「こころの電話」を設置し、市民のこころの健康に関する相談に対応した。 精神保健福祉相談 1,756 件 こころの電話 2,943 件 また、自殺対策の強化を図るため、市民講演会やゲートキーパー養成研修の他、新たにうつ病集団認知行動療法を実施した。	引き続き、精神保健福祉相談及び自殺対策事業を実施していく。
12		発達障害者支援センターの運営	障害者自立支援課	自閉症やアスペルガー症候群、学習障害、ADHD(注意欠陥多動性障害)などの発達障害者、及びその家族からの相談に応じ、指導、または助言を行うとともに、関係機関と連携し、地域における支援体制の充実に努めます。	千葉市社会福祉事業団に委託して、障害者本人及び家族からの発達障害に関する相談や就労に関する相談に応じるとともに、保育所等の施設職員に対する支援を行った。	引き続き、千葉市社会福祉事業団に委託して、発達障害に関する各種相談に応じるとともに、保育所等施設職員に対する支援を行う。
13		教育相談事業	教育委員会養護教育センター	障害等がある子ども及びその保護者、教職員からの電話相談・来所相談・学校訪問相談等ニーズに応じた指導・助言をすることで学校生活が円滑に送れるように支援します。	障害等のある幼児・児童生徒及びその保護者に対して、来所相談 1,160件 相談回数6,974 回、電話相談1,914 回、医療相談62回、グループ活動50 回 を実施した。 また、保護者や教職員等の要望に応じて、656回の学校訪問相談を実施した。	障害等のある幼児・児童生徒及びその保護者に対して、来所相談、電話相談、医療相談、グループ活動を実施する。 また、保護者や教職員等の要望に応じて、学校訪問相談を実施する。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ1：情報提供・相談体制》 ②相談体制の充実

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の取組状況	平成26年度の取組予定
14		子どもの相談・支援体制の強化	健全育成課	子どもに関する様々な問題に対応するため、児童相談所や区家庭児童相談室、児童家庭支援センターなどと連携し、子どもの相談・支援体制の充実に努めます。また、地域子育て支援センターにおいて、遊びを通じた親子のふれあいの場の提供、各種相談指導、子育てサークルへの支援、子育てに関する情報提供を行います。	ニートやひきこもり、不登校等の問題を有する子ども・若者及びその家族の様々な相談に一元的に応じるワンストップ相談窓口「千葉市子ども・若者総合相談センター（Link）」にて、電話相談、来所相談を実施した。 内閣府のモデル事業として、支援機関・団体との連携強化、相談員のスキルアップを図った。 平成25年度より人的強化が図られ、正規職員1名が追加配置され、訪問相談、同行支援を実施することとした。 相談件数 539件（月平均 44.9件、一日平均 2.1件） 関係機関・団体による代表者会議 2回 関係機関を招いての実務者会議 3回 個別ケース検討会議 4回	今年度は内閣府によるスーパーバイズ事業の指定を受け、スーパーバイザーによる講演、個別ケース検討会議での助言等を受け、相談員の資質の向上を図る。また、相談者の状況に応じた的確な支援ができるよう、相談事例の蓄積や関係機関との連携強化に努める。 さらに、「子ども・若者総合相談センター」のポスター及びリーフレットを学校や地域に配布して周知に努め、相談件数600件を目標とする。
			児童相談所		来所及び電話（状況によっては家庭訪問）による相談対応を実施した。関係者会議や情報交換等、他機関とも連携し対応を図っている。	引き続き、来所及び電話等による相談業務を実施。情報交換・共有等、施設その他関係機関と連携して対応を図り、相談業務の充実に努める。
			保育支援課		市内7箇所の地域子育て支援センターにおいて、遊びを通じた親子のふれあいの場の提供、各種相談指導、子育てサークルへの支援、子育てに関する情報提供を行った。	引き続き、地域子育て支援センター内事業の充実に努める。
					子育て支援コンシェルジュ（非常勤嘱託職員）が、保育をはじめとした子育て支援サービス全般の利用に関する相談・情報提供などを行う事業を開始した。 平成25年10月から中央区と稲毛区に配置し、相談業務等を開始した。 平成25年度相談延べ件数 895件（中央区436件、稲毛区459件）	中央区と稲毛区に続き、平成26年10月から、花見川区・若葉区・緑区・美浜区にも子育て支援コンシェルジュを配置し、相談業務等を開始する。
15		子育て支援館の運営	保育支援課	子育てコーディネーターが各種子育てサービスの情報収集、インターネット等を活用した情報提供を行います。また、子育てに関する相談を受け、必要な援助や関係機関との連絡調整を行います。	子育てコーディネーターが、各種の子育てサービスの情報収集、インターネット等を活用した情報提供を行った。 また、施設職員が子育てに関する相談を受け、必要な援助や関係機関との連絡調整を行った。	引き続き、子育てコーディネーターが情報の収集・提供を行うとともに、施設職員が子育てに関する相談の対応にあたる。
16		出産、育児の相談	健康支援課	出産する病院の情報提供や新生児の育児の相談の充実に努めます。	里帰り出産される方も妊婦健診受診票が使用できるように、委託医療機関を増やすよう配慮した。 ・妊婦健診の委託医療機関数（751医療機関） 母子健康手帳交付時から、出産や育児についての相談に対応し、妊娠中から支援を開始するよう努めた。 出生通知書受理数：4,141件、電子申請数：795件	引き続き、妊娠期からの早期支援等に取り組む。
			各区保健福祉センター健康課			
17		子どもと親の相談員等活用事業	教育委員会指導課	小学校に「子どもと親の相談員」を配置します。不登校や問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努めます。	※平成24年度末で廃止	
18		子育てサポーター・家庭教育アドバイザー配置事業	教育委員会生涯学習振興課	公民館で活動している子育てサークルや子育てに悩みや不安を持つ親を対象に、気軽に相談できる子育てサポーターを派遣します。家庭教育アドバイザーが、より専門的な立場から相談に応じるほか、子育てサポーターへの助言等も行います。	・公民館での活動 子育てサロン事業「子育てママのおしゃべりタイム」 305回 2,615人 各種家庭教育事業 ・サポーター研修の実施 年3回	引き続き、公民館での子育てサロン事業や各種家庭教育事業、サポーター研修を実施し、子育ての悩み、不安の解消に努める。
19		オ）女性相談	ハーモニー相談室	男女共同参画課	家族、健康、対人関係など、様々な女性の悩みや不安について相談を行います。 平成25年度実績（平成26年3月末） 相談人数：1,182人 相談件数：7,689件	引き続き、女性のあらゆる悩みに関して相談を行う。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ2：居場所の確保・社会参加》 ③居場所・交流の場づくり

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
20	ア) 高齢者（介護予防も含む）	いきいきセンターの利用促進	高齢施設課	高齢者の健康と生きがいを高め、余暇活動や自主的な活動の活性化を図るとともに、介護予防と交流を促進する拠点として運営します。	高齢者の健康と生きがいを高め、余暇活動や自主的な活動の活性化を図ることのできる講座や講演会、レクリエーション活動等を促進した。 利用者数延べ155,125人	引き続き、高齢者福祉活動の拠点として運営を行っていく。 予定利用者数延べ150,000人
21		老人クラブ活動の充実強化	高齢福祉課	老人クラブの生きがいづくりや健康づくりに係る各種活動、社会奉仕活動を促進するとともに、老人クラブ活動のリーダーを育成するための指導者研修等を充実します。	1 老人クラブの生きがいづくりや健康づくりに係る各種活動、社会奉仕活動を促進した。 2 老人クラブ活動のリーダーを育成するための指導者研修会を平成26年2月に実施した。[参加人数 約300名]	引き続き、老人クラブの各種活動、社会奉仕活動を促進するとともに、リーダー育成のための指導者研修会を実施する。 ※平成27年2月に予定。[参加人数 約300名]
22	イ) 障害者・児	ワークホームの運営支援	障害企画課	障害者やその家族などが運営主体となり、家族的な雰囲気の中で軽作業などの活動を行い、企業で働くことが困難な障害者の働く場としての機能のほか、日常的な相談支援や仲間づくりの支援などの機能を果たしているワークホームの運営を支援します。	ワークホーム17か所に対して、運営上に必要な補助金を交付した。	引き続き、運営を支援していく。
23		精神障害者共同作業所の運営支援	障害企画課	在宅の精神障害者が軽作業などの活動を行い、働く意欲の増進を図る機能を果たしている精神障害者共同作業所の運営を支援します。	精神共同作業所3か所に対して、運営上に必要な補助金を交付した。	引き続き、運営上に必要な補助金を予算の範囲内で、精神共同作業所3か所に交付して運営を支援していく。
24		地域活動支援センターの運営支援	障害企画課	創作的活動や生産活動、社会との交流促進など多様な活動の場を提供するとともに、地域の障害者等の福祉に関する相談に応じ、必要な情報提供や援助を行う地域活動支援センターの運営を支援します。	精神保健福祉士等の専門職員を配置し、医療・福祉・地域の社会基盤との連携強化のための調整等を行うⅠ型については、市内の社会福祉法人に委託して、6か所で実施するとともに、機能強化として、機能訓練、社会適応訓練等を行うⅡ型・Ⅲ型については、市内14か所の事業者に対して運営補助を行った。	引き続き、Ⅰ型については、市内の社会福祉法人に委託して実施するとともに、Ⅱ型・Ⅲ型については、事業者に対する補助を行う。
25		障害者福祉大会の開催	障害者自立支援課	障害のある方とない方との交流を促進し、相互の理解を広め、人と人とのふれあいの輪を広げるため、障害者福祉大会を開催します。	日時：平成25年12月7日（土）9時20分～12時20分 場所：千葉市ハーモニープラザ多目的ホール 参加者数：358名（介助・付添者含む）	日時：平成26年12月6日（土）9時40分～12時20分 場所：千葉市ハーモニープラザ多目的ホール
26		長柄げんきキャンプ	教育委員会指導課	少年自然の家で市立小・中学校の特別支援学級及び特別支援学校の児童・生徒による宿泊学習を行います。	平成25年5月30日から平成26年1月17日までの間に、特別支援学校2校、小学校66校、中学校27校の特別支援学級に通う886名の児童生徒が参加し、千葉市少年自然の家での宿泊体験活動を実施。	特別支援学校2校、小学校75校、中学校31校の特別支援学級に通う約900名の児童生徒が参加し、千葉市少年自然の家での宿泊体験活動を実施予定。
27		トイライブラリー運営事業	障害者自立支援課	心身障害児がおもちゃを通じて遊ぶことにより、機能回復及び能力発達を促進します。	市内の社会福祉法人に委託して、2か所でトイライブラリー事業を行った。（平成25年度：延利用人数300人、延貸出点数60点）	引き続き、市内の社会福祉法人に委託して、トイライブラリー事業を実施する。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ2：居場所の確保・社会参加》 ③居場所・交流の場づくり

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
28	ウ)こども	こどもカフェ(仮称)の整備事業	こども企画課	学校等の公共施設や空き店舗等を活用し、「子どもに信頼される大人」が見守る中で、親や学校の先生にも言えないことを、気軽に相談したり、一緒に勉強したり、また、仲間と遊んだりすることができるなど、子どもたちにとって居心地の良い居場所となる「こどもカフェ」を設置します。 なお、「こどもカフェ」は、市内の教育・保育大学や地域のボランティアとの協働による運営を予定しています。	引き続き2ヶ所のモデル運営を行った。 美浜区高洲地区「こどもカフェ」は、植草学園短期大学に委託して、年間を通じ48回開催した。 稲毛区園生地区「こどもカフェ」は、NPO法人VAICコミュニティケア研究所に委託して、年間96回開催した。 また、こどもカフェのスタッフやボランティア、市民を対象に、こどもの参画について啓発を図るとともに、こどもカフェの運営に係る理解を深める目的で1月に公開講座を実施した。	引き続き、2ヶ所の「こどもカフェ」について、モデル運営を継続していくとともに、地域との連携を強化するための連絡会議等を実施する。 また、運営開始から3年が経過する高洲地区こどもカフェについては、これまでの検証を行い、今後の運営方法についての検討を行う。
29		子ども交流館	こども企画課	「遊び・創造・憩い」を通して、子どもたちに健全な遊びと居場所を提供し、子どもの健全な育成と交流を図るとともに、子どもたちで構成し施設の利用方法などを検討する「子ども運営委員会」の設置など、子どもの自主的活動の支援等を行います。	来館者数 129,850人(開館以来延べ819,755人) 利用者である中高生を中心とした「子ども運営委員会」を毎月1回開催し、講座・イベントの企画立案や利用のルールづくりなど、子どもの自主的活動の支援等を行った。	引き続き、多くの子どもたちに健全な遊びと居場所の提供を行うとともに、「子ども運営委員会」の活動支援等を行っていく。
30		千葉市科学館の利用促進	教育委員会生涯学習振興課	子どもたちの探究心向上と創造力育成のための参加体験型「科学館」の利用を促進します。ボランティアの募集及び育成も行います。	千葉市内小学校の97%が、授業の一環として活用した。 また、科学館ボランティアは、登録者230名、延べ活動者数6553人であった。	千葉市内のほぼ全小学校が、授業の一環として活用する。 科学館ボランティアの登録人数および延べ活動者数が、前年度を上回るようにする。
31		放課後子ども教室推進事業	教育委員会生涯学習振興課	小学校の施設を活用して、放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の多様な人々の参画を得て、さまざまな体験・交流活動を実施します。	市内全113小学校区で実施した。	市内全113小学校区で実施する。
32	エ)子育て家庭	子育てリラックス館の充実	保育支援課	子育てへの不安感や精神的負担感等の解消を図ります。	平成25年12月に、新たに若葉区にリラックス館を開館した。 市内11箇所の子育てリラックス館において、子育て親子のふれあいの場の提供・交流の促進、子育てに関する相談援助、地域の子育て関連情報の提供及び子育て及び子育て支援に関する講習を行った。	引き続き、平成26年12月に、新たに稲毛区にリラックス館を開館させ、これにより各区2ヵ所、市内12ヵ所となる。 子育てリラックス館において、子育て親子のふれあいの場の提供・交流の促進、子育てに関する相談援助、地域の子育て関連情報の提供及び子育て及び子育て支援に関する講習を行う。
33		育児サークルの支援	各区保健福祉センター健康課 健康支援課	育児のための情報交換や子育て親子の友達づくりと知識の普及を図り、育児を支援します。	市ホームページの育児サークル情報に登録するサークル数が増加した。 登録サークル数:108	子育て支援施設とも連携し、育児サークルの支援に取り組む。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ2：居場所の確保・社会参加》 ③居場所・交流の場づくり

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
34	オ)多世代・地域の交流	既存施設の有効活用	地域福祉課 全庁的取組	公共施設・福祉施設の有効活用、空き店舗・空き家に関する情報の収集や民間で行っている助成金の情報提供を行います。	市社協と連携し、地区部会が利用できるよう学校の空き教室の有効活用について教育委員会と協議を行った。 また、拠点の無い団体が拠点として活用できるよう犢橋地域福祉交流館、小中台地域福祉交流館の維持管理を行った。	教育委員会と引き続き協議を行い、拠点の無い地区部会が利用できるよう検討を進めていく。 また、引き続き犢橋地域福祉交流館、小中台地域福祉交流館の維持管理を行う。
35		学校体育施設開放事業	スポーツ振興課	学校体育施設を開放し、市民の体力づくり及びコミュニティ活動の振興を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーションを行える場を提供します。	①市内の小学校113校・中学校55校(合計168校)の校庭、体育館、中学校14校の武道場及び中学校5校の夜間校庭において学校体育施設を開放し、市民の体力づくり及びコミュニティ活動の振興を図り、市民が手軽に多様なスポーツ・レクリエーション活動を行う場を提供した。 平成25年度利用者 2,209,761人(延べ人数) ②高洲市民プールの代替として、美浜区の小学校2校において、学校プール開放を実施した。 平成25年度利用者数 4,263人	①引き続き、市内小中学校の学校体育施設を開放を行い、スポーツ・レクリエーション活動を行う場を提供する。 ※今年度は中学校20校の武道場 ②美浜区の小学校1校において、学校プール開放を実施する。
36		多世代交流の推進	高齢福祉課	老人クラブやことぶき大学の講座等を通じて、若い世代と交流する機会を充実します。	【ことぶき大学校】 ことぶき大学の学生と小学生が、体験学習を通じて交流することを目的として、夏季に陶芸講座、冬季に園芸講座を実施した。[参加人数 小学生91名、高齢者83名 計174名]	【ことぶき大学校】 陶芸講座(おもしろ陶芸教室)及び園芸講座(おもしろ収穫体験教室)を実施する。
37		保育所(園)地域活動事業	保育運営課	世代間交流、異年齢交流、育児講座等を実施します。	市内すべての認可保育所(園)123か所において、施設の所在する地域に住む異なる年齢の子どもたちや高齢者との交流の機会を設けたり、保護者などへの育児講座を開催したり、地域における子育てを支援する地域活動事業を実施した。また、関係機関と連携し、すべての保育所(園)において、子育てに関する情報収集及び提供、相談活動を実施した。	引き続き、市内すべての認可保育所(園)131か所において、交流機会の提供や育児講座の開催、地域活動事業を実施するとともに、子育てに関する情報収集及び提供、相談活動を行う。
38		学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業	教育委員会 指導課	子どもたちの地域に対する愛着を育むため、学校・家庭・地域が連携して過ごしやすいまちづくり事業を推進します。	各中学校区の地域の実態に応じて計画された活動を、概ね実施することができた。今年度の重点の一つであった高校生の参加が、いくつかの中学校区であった。 ※児童生徒:82,034名、保護者:8,715名、地域協力者:4,371名、合計:95,120名参加	各地域の特色ある活動を通して、児童生徒の地域に対する愛情と誇りを育む。また、広報活動等を通して地域や近隣の高等学校への働きかけにより、事業の趣旨についての理解を深め、参加者数の向上を図る。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ2：居場所の確保・社会参加》 ④社会参加の機会促進

No.	主な取り組み	所管課	事業概要	平成25年度の取組状況	平成26年度の取組予定
39	シルバー人材センターの充実	高齢福祉課	高齢者の知識や技術、経験等を社会で積極的に活用できるように、市民や企業に対して、(社)千葉市シルバー人材センターの事業内容等のPRを積極的に行います。また、高齢者が就業するための技能の習得や研修活動についても充実します。	1 就業機会の拡大 ・就業機会創出員等の配置、リーフレット・チラシのポスティングや配布、広報誌等を活用したPR活動を推進し、受注の確保を図った。 2 会員の資質向上 ・各種講習会や研修会を実施したほか、モラル・マナーについての接客研修を実施した。	引き続き、就業機会の拡大、会員の資質向上を図る。
40	ことぶき大学校	高齢福祉課	高齢者等の方を対象に、豊かで充実した生活を送ることができるよう、「自己の教育」、「地域や多世代の人との交流」、「地域社会への参加と仲間づくりの促進」、「ボランティア人材の育成」を教育目標として、学習と活動の場を提供します。	1 高齢者の学習と活動の場を提供するために、4学科を開講した。 ・卒業者数:167名 ・学 科:福祉健康学科、園芸学科、美術学科、陶芸学科 2 地域社会への参加やボランティア人材の育成を図るために、「地域活動実践講座」を実施した。	引き続き、4学科を開講するとともに、地域活動実践講座についても実施する。 ・定員 210名
41	障害者福祉センター・療育センター・ふれあいの家における各種講座の開催	障害企画課	障害者の余暇活動の充実、社会参加へのきっかけづくり、文化・教養の向上、リハビリテーションなどを目的に、様々な障害特性に対応した創作的活動、スポーツ・レクリエーション等の講座を開催します。	【障害者福祉センター】 ・創作的活動(19講座) 2,834人 ・スポーツ、レクリエーション等(12講座) 3,506人 【療育センターふれあいの家】 ・創作的活動(11講座) 2,048人 ・スポーツ、レクリエーション等(4講座) 1,530人	引き続き、各種講座を開催する。
42	障害者スポーツ大会等の開催	障害企画課	障害者の社会参加はもとより、健康づくりや生きがいづくりを促進するため、各種教室の開催、スポーツ活動の機会の確保、全国障害者スポーツ大会への参加支援などを実施します。	【障害者福祉センター】 ・創作的活動(19講座) 2,834人 ・スポーツ、レクリエーション等(12講座) 3,506人 【療育センターふれあいの家】 ・創作的活動(11講座) 2,048人 ・スポーツ、レクリエーション等(4講座) 1,530人	引き続き、各種講座を開催する。
		障害者自立支援課		全国障害者スポーツ大会千葉市代表選手団(55人)を結成し、練習会を実施するとともに、結団式を行ったうえで、10月12日から14日にかけて東京都で開催された大会に、選手団を派遣した。	平成26年11月1日から3日にかけて長崎県で開催される全国障害者スポーツ大会に、千葉市代表選手団を結成し派遣する。
43	障害者の就労支援	障害者自立支援課	障害者パソコン講座などの開催により、就労を希望する障害者を支援します。	特別支援学校高等部の生徒を対象にパソコンとビジネスマナーの講座を実施。 ・受講者数:20人 ・期 間:7日(パソコン5日、マナー2日) 3時間/日 ・会 場:千葉市ビジネス支援センター	次の理由により、平成25年度をもってパソコン講座は終了とした。 ・パソコン講座の受講生の進路が、必ずしもパソコンを日常的に使用する業務ではなく、軽作業が多い現状にあること。 ・特別支援学校等のカリキュラムで基礎的なパソコンの学習をしており、市が別途、就職に向けてパソコン講座を開催する役割は終了したと考えられること。 なお平成26年度より、一般就労を希望する障害者に対し、就職前に企業等で一定期間の実習を行う「障害者職場実習事業」を新たに実施する。
44	母子家庭等の就業自立支援	健全育成課	ひとり親家庭等が、自立した生活を送ることができるよう、就業相談や就業支援講習を実施 するほか、就労に有利な資格の取得を支援するため、「自立支援教育訓練給付金事業」や「母子家庭高等技能訓練促進費事業」を実施します。	引き続き、ひとり親家庭等が、自立した生活を送ることができるよう、就業相談や就業支援講習を拡充実施。また、就労に有利な資格の取得を支援するため、「自立支援教育訓練給付金事業」や「母子家庭高等技能訓練促進費事業」を実施した。 【就業相談会の内容】 ○パソコン講習会(エクセル) ○介護職員初任者研修講習	引き続き、就業相談及び就業支援講習、「自立支援教育訓練給付金事業」を実施するほか、これまでの「母子家庭高等技能訓練促進費事業」に新たに父子家庭も対象とした「高等職業訓練促進給付金等事業」を実施する。
45	千葉市ふるさとハローワーク事業	経済企画課	国と共同で、職業紹介と就労・生活支援相談をワンストップで対応し、就業や就労の定着化の促進を図ります。	国による職業紹介と市による就労・生活支援相談を行った。また、国との一体的事業として、国、市、キャリアカウンセラーによる各区への出張相談を行った。 ふるさとハローワークの利用実績 利用者数19,605人 職業紹介者数4,636人 就職者数 685人	引き続き、国と一体となった職業紹介・就労支援を行っていく。 また、12月1日、緑区役所内に1ヵ所増設予定。

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ3：支え合いの仕組みづくり》 ⑤ネットワークの充実

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実績状況	平成26年度の実績予定
46	ア) ボランティアネットワークの機能強化	ボランティアズカフェ	市民自治推進課	様々なボランティア情報を一元的・総合的に市民に提供し、ボランティア活動へのきっかけづくりの場とします。	市民活力創造プラザにおいて、ボランティア情報の提供及びボランティアに関する相談を行った。	千葉市民活動支援センターにおいて、ボランティア情報の提供及びボランティアに関する相談を行う。
47		ボランティア活動補償制度	市民自治推進課	市内を拠点として活動しているボランティア団体等が、ボランティア活動中に人の生命や身体又は財物に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負った場合、及び市民団体の指導者等又は活動参加者が、急激かつ偶然な外来の事故によって死亡もしくは負傷した場合に補償します。	取扱実績 ・事故件数 22 件 ・補償件数 30 件 ・補償額 4,775,250円	引き続き、本制度を継続する。
48	イ) 安否確認ネットワークの充実	安心電話・緊急通報装置の設置、SOSネットワークの整備、認知症への支援	高齢福祉課		1 電話による安否確認の実施 利用者数 481人 2 緊急通報装置の設置 利用者数 1,787人 3 徘徊高齢者が行方不明になった場合に早期発見するため、警察と市との連絡網を整備した。 徘徊高齢者SOSネットワーク利用件数 43件	引き続き、電話による安否確認の実施や緊急通報装置の設置、徘徊高齢者の早期発見に係る、警察との連携を図っていく。
			地域福祉課	ひとり暮らしの高齢者に対する、電話による安否確認や緊急通報装置を配置します。徘徊により高齢者が行方不明になった場合の警察と市による連絡網を整備・拡充します。	7月1日、ライフライン事業者や配達事業者など5事業種14事業者と協定の締結を行い、千葉市孤独死防止通報制度を開始した。(現在は、5事業種16事業者と協定締結) また、12月20日、連絡会議を開催し、市、協力事業者、警察、消防署で意見交換を行った。 【通報実績】 ○ 通報件数 8件 ・生存確認 4件 ・死亡確認 4件	引き続き、制度を実施するとともに、協力事業者の拡大を図っていく。
49	ウ) 子育てネットワークづくり支援	次世代育成支援対策の推進体制の検討	こども企画課	民間企業、保育、教育関係者などと連携し取り組みの普及・促進を図ります。	社会全体で子育て家庭を支える意識の醸成等を目的とした「赤ちゃんの駅」事業において、民間企業等に事業への賛同を働きかけ、新たに民間企業2、民間保育園1の協力を得た。	「赤ちゃんの駅」事業への協力企業等の拡大を図るとともに、より広範で多様な取組について検討を行う。
50		子育てフォーラムへの支援	こども企画課	地域における子育て支援の地域ネットワーク構築などを視野に入れ、地域で活動しているさまざまな団体・個人が実施している子育てフォーラムを支援します。	地域で活動している子育てフォーラムに対し、施設の貸出等により支援を行った。 ※施設の貸出(依頼含む) 4件	地域で活動している子育てフォーラムに対し、施設の貸出等により支援を行う。
51		「千葉市職員の子育て支援計画」に位置付けられている、子ども・子育てに関する地域貢献活動への市職員の参加の促進	給与課 全庁的取組	子ども・子育てに関する活動等の事業所管課は、庁内ネットワークを活用して市職員に情報を提供し、地域貢献活動への参加を促進します。	子ども・子育てに関する活動等の事業所管課は、庁内ネットワーク(CHAINS)を活用して市職員へも情報を提供し、参加を呼びかけた。	第3期「千葉市職員の子育て支援計画」の策定を進めるとともに、引き続き庁内ネットワーク(CHAINS)を活用して市職員へも情報を提供していく。
52		地域保健推進員活動	各区保健福祉センター健康課 健康支援課	地域保健推進員が、それぞれ担当地区を持ち、地域の身近な相談役として、地域と各区保健福祉センター健康課のパイプ役となります。	地域保健推進員の研修会を2回実施。(延べ354人参加)	引き続き、研修を実施する。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ3: 支え合いの仕組みづくり》 ⑤ネットワークの充実

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
53	ウ) 子育てネットワークづくり支援	ファミリー・サポート・センターの充実	保育支援課	「子育て中で困ったときに手を貸して欲しい方」と「子どもが好き」「子育て中のお母さんを助けてあげたい」などの思いをもっている方に会員登録をしてもらい、センターのアドバイザーが仲介となって、地域に住む会員同士で子育て支援をする相互援助活動組織の充実に努めます。	子育て支援館内にファミリー・サポート・センターを設置し、地域に住む会員同士で子育て支援をする相互援助活動の仲介及び組織の充実に努めた。また、ひとり親への助成事業を開始し、制度の周知及び他のひとり親の支援施策と連携を図り相互活動の充実に図った。	引き続き、ファミリー・サポート・センターの充実に努めるほか、ひとり親への助成事業のより一層の相互援助活動の充実に図る。
54	エ) 虐待への対応ネットワークの充実	高齢者虐待への対応	高齢福祉課	「あんしんケアセンター(地域包括支援センター)を窓口とした関係機関との連携強化を図り、高齢者虐待の防止、虐待の早期発見、早期対応、保護、支援に至るまでの取り組みを行います。	1 困難事例に関する個別ケース会議について千葉県高齢者虐待対応市町村支援事業を活用し、弁護士等の専門家の支援を得て問題の解決に取り組んだ(花見川区高齢障害支援課1回実施)。 2 あんしんケアセンター及び各区高齢障害支援課の高齢者虐待担当者を対象とした高齢者虐待対応困難事例検討会を開催した(1回実施)。 3 千葉市の関係機関及び団体が役割を明確にするとともに、その連携を強化するために高齢者虐待防止連絡会を開催した(1回実施)。	引き続き、個別ケース会議について問題の解決に取り組むとともに、高齢者虐待対応困難事例検討会や高齢者虐待防止連絡会の開催を行い、高齢者虐待への対応を図っていく。
55		児童虐待・DVへの対応	健全育成課	民生委員・児童委員、小・中学校や特別支援学校の教諭を対象に、研修会を実施します。また、児童虐待対応マニュアルを、小中学校をはじめとした関係機関に配布します。児童虐待及びDVの発生予防と早期発見・早期対応の一層の推進を図るため、要保護児童対策及びDV防止地域協議会を開催し、関係機関との連携を図ります。	主任児童委員を対象に、DV研修会を実施した。 また、小・中・特別支援学校の校長または教頭を対象に、DV研修会を実施した。 児童虐待及びDVの発生予防と早期発見・早期対応の一層の推進を図るため、引き続き要保護児童対策及びDV防止地域協議会を開催したほか、児童虐待に関わる行政・民間団体・地域協力者(民生委員・児童委員等)等、様々な支援者を対象に開催した児童虐待プロジェクト会議では、児童虐待防止等に向けた民間団体による親や子ども向けの心理教育プログラムを紹介し、共有を図った。	引き続き、主任児童委員を対象に、研修会を実施する。 児童虐待及びDVの発生予防と早期発見・早期対応の一層の推進を図るため、要保護児童対策及びDV防止地域協議会を開催し、関係機関との連携を図る。
			児童相談所		千葉市内の保育園、認可保育施設に対し、児童虐待に関する専門的知識を習得するための研修を実施したほか、主任児童委員、民生委員の研修会等に参加し、虐待対応について周知を行いながらお互いの意識向上に努めた。 また、学校・教育委員会や医療機関等の会合等に参加し、情報交換や連携強化を図っている。 さらに、警察官OBを1名嘱託職員として雇用し、警察との連携強化を図った。	引き続き、研修会の開催や各種会合に参加し、児童虐待に関する研修・情報交換・連携強化を図る。また、警察官OBの雇用を継続し、警察との連携を強化する。 マニュアルについては、国動向、諸情勢の変化等を注視し、適宜改訂を検討する。
56	オ) 団体等の活動推進・連携支援	地域見守り活動支援事業	高齢福祉課	ひとり暮らし等の高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域見守り活動支援を新たに実施する団体に対し、環境の整備に必要な活動拠点の初期費用の一部を助成します。	団体設立の推進 ・地域見守り活動を新たに実施する団体の設立を促すため、活動拠点の初期経費を助成した。 (申請団体数 12団体)	引き続き、活動拠点の整備に係る初期費用を助成し、地域見守り活動の促進を図っていく。 (申請見込み数 20団体)
57		社協地区部会活動の活性化へ向けた支援	地域福祉課	社協地区部会が行うふれあい・いきいきサロンをはじめとする地域ぐるみ福祉ネットワーク事業等、地域福祉活動が活性化するよう、積極的な情報の収集・提供・調査研究を支援するとともに、福祉活動を支える人材の育成、活動拠点の確保を進めます。	市社協に対し補助金を交付するとともに、関係部署との連絡調整を図るなど、地区部会活動の支援を行った。 【地区部会活動実績】 ・地区部会数 67地区 いきいきサロン 384回 子育てサロン 100回 散歩クラブ 118回 ・福祉活動推進員 530人 研修会 4回 また、市社協が行う「見守り活動助成事業」の事業開始にあたり、庁内関係部署との連絡調整や、事業の周知を行った。	引き続き市社協に対し補助金を交付するとともに、必要な支援を行う。

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ3: 支え合いの仕組みづくり》 ⑤ネットワークの充実

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
58	オ) 団体等の活動推進・連携支援	市民活動センターによるNPOなどの団体間の連携強化	市民自治推進課	市民公益活動を行っている団体に対する情報発信や団体相互の情報交流の推進に努め、団体間のネットワーク構築を支援します。	・施設利用者数 15,466人 ・市民公益活動に関する相談 94件 ・会議室の提供 1,116件 ・印刷機、紙折機の貸出 801件 ・ニュースレター、メールマガジンの発行 ・イベント、講座等の開催 市民活力創造フェアをはじめ、団体間のネットワーク構築を分野別、地域別に支援するイベントや、市民公益活動に関する講座を開催。 千葉市民活動支援センター設置管理条例を制定し、平成26年4月から公の施設化、指定管理者制度を導入、名称を「千葉市民活動支援センター」に変更	千葉市民活動支援センター設置管理条例に基づき、指定管理者が施設の管理運営を行う。
59		大学等と連携した地域活動の推進	政策企画課	大学と行政が連携し、大学の有する知的財産・人的資源及び専門知識と行政の有する地域情報やノウハウを相互活用し、地域活動を推進します。	[千葉市・大学等共同研究] 【平成25年度テーマ(2件)】 ・千葉大学大学院「千葉市国民健康保険事業の医療費分析」 ・東京情報大学「定住人口増加に向けた千葉市ブランド構築に関する研究 ～データからみえる持続可能な循環型シティライフの可能性～」	[千葉市・大学等共同研究] 【平成26年度テーマ(2件)】 ・千葉大学大学院「医療・介護の新たな枠組みの構築に向けた地域別データ分析」 ・千葉大学「環境にやさしい農業推進のための千葉市発土着天敵の有効利用について」
60		コミュニティビジネスの支援	産業支援課	コミュニティビジネスの促進のための環境づくり、支援事業を行います。	コミュニティビジネスシンポジウムの開催 コミュニティビジネス情報コーナーの活用促進	引き続き、シンポジウムを開催するとともに、情報コーナーの活用を促進する。
61	カ) サービス利用や法律行為の支援充実	日常生活自立支援事業への支援、成年後見制度の利用促進	地域福祉課	判断能力が不十分な方が、住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れるように、千葉市成年後見支援センターを拠点とし、成年後見制度の普及・啓発を図るとともに、社会福祉協議会が実施している福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を行う「日常生活自立支援事業」の利用促進を図るための支援を行います。	(日常生活自立支援事業) 市社協に対し補助金を交付するとともに、ホームページ等で事業の周知を図り、利用促進のための支援を行った。 【事業実績】 ・相談件数 3,608件(うち新規相談件数 80件) ・契約締結人数 81件 ・実契約者利用内容 財産管理サービス、福祉サービス利用援助、 財産保全サービス	引き続き市社協に対し補助金を交付するとともに、必要な支援を行う。
			高齢福祉課		1 成年後見制度講習会の開催(2回:268人参加) 2 出前講座の開催(5回開催) 3 チラシの作成・配布(10,000部)、市政だよりや社協だよりの活用	引き続き、講習会を開催するとともに、出前講座の開催や周知活動を行う。
62	キ) ホームレスの自立支援ネットワーク	ホームレス対策	保護課	巡回相談員による生活実態等の把握を行う。ホームレス問題連絡会議において、自立支援の施策に関する情報交換や連絡調整を行うなど必要な対応を図ります。	・巡回相談員2人による定期的な訪問・面接を行い、生活実態等を把握し、必要な支援を実施。 ・H25.8にホームレス夜間巡回相談を実施し、日中には把握が困難なホームレスの生活実態等を把握。	・巡回相談員2人による定期的な訪問・面接を引き続き行う。 ・ホームレス問題連絡会議を開催し、関係課による施策の推進状況や情報交換を行う。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ3: 支え合いの仕組みづくり》 ⑥防犯体制の充実・安全確保

No.	主な取り組み	所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
63	市民防犯活動の支援	市民サービス課	防犯パトロール隊への物品配付や各種講座の開催、防犯街灯の設置助成等を実施します。	①地域安全まちづくり講座の実施 年1回開催 ②防犯アドバイザーの派遣 15回派遣 ③防犯パトロール隊物品支援 27団体支援 ④防犯パトロール隊交流会の開催 年1回開催 ⑤防犯街灯設置・管理費助成 管理費50,793灯 設置費204灯 修理費3,999件	①地域安全まちづくり講座の実施 年1回開催 ②防犯アドバイザーの派遣 18回派遣予定 ③防犯パトロール隊物品支援 44団体支援予定 ④防犯パトロール隊交流会の開催 年1回開催 ⑤防犯街灯設置・管理費助成 管理費51,167灯 設置費250灯 修理費3,998件
		地域福祉課		美浜区内における保護司の活動拠点である美浜地区更生保護サポートセンターの設置にあたり、美浜区役所の一室を貸与した。	今年度は、新たに稲毛地区・緑地区にも設置されることから、美浜地区と同様に、それぞれの区役所の一室を貸与する方向で検討する。
64	地域防犯ネットワークの推進	市民サービス課	市、警察及び事業者が協働して、地域の見守りネットワークを構築し、安全で安心なまちづくりを推進するとともに、犯罪発生情報等の防犯情報をスピーディーに配信する、ちばし安全・安心メールを実施します。	①ちばし安全・安心メールの配信実施 ②「千葉市内の防犯への協力に関する覚書」締結 55事業者 ③地域防犯連絡会の開催 1回開催 ④防犯ステッカーの配付 (車両用)28,300枚 (店舗・事業者用)3,500枚 (家用)42,400枚	①ちばし安全・安心メールの継続実施 ②「千葉市内の防犯への協力に関する覚書」締結事業者の拡大(新たに3事業者と締結) ③地域防犯連絡会の開催 年1回 ④防犯ステッカーの配付継続
65	高齢者の消費生活サポートネットワーク	消費生活センター	高齢者向けの消費生活に関するパンフレットの作成・配布や、悪質商法による被害の防止に向けたサポートネットワークづくりを推進します。	・高齢者等悪質商法被害防止ネットワーク会議の幹事会及び本会議を開催した。各2回/年 ・区民まつり、出張相談等でのイベントを通じ、啓発活動を行う。 ・消費者被害注意報を偶数月に発行した。6回/年 ・高齢者向け、高齢者の見守りに関する「くらしの巡回講座(出張講座)」を実施した。58回/年、参加人数2,912人 ・高齢者向け啓発冊子(2000部)と高齢者等の見守りガイドブック(1000部)等を作成し、講座等で活用した。 ・キャラクターを利用した啓発グッズ(シール、マグネット)を各2万枚作成し、区民まつりやくらしの巡回講座等で配布した。	引き続き、各種会議の開催を行う。 また、前年度と同様に周知・啓発活動を行うほか、高齢者実態調査において、民生委員を通じ、単身高齢者世帯等に消費生活センターの機能周知用のシールを配付する。
66	学校セーフティウォッチ	教育委員会学事課	地域住民や保護者が登下校時を中心に見回り、見守りを行い、児童生徒の安全確保を図るボランティアを推進します。	地域住民や保護者による登下校時の見守りボランティア「学校セーフティウォッチャー」の活動を支援し、児童・生徒の安全確保を図った。 ○学校セーフティウォッチャーの登録拡充 登録者 25,271人(H26.3末現在) ○学校セーフティウォッチャー講習会の開催(3回) 参加者 365人(3回合計) ○スクールガード・アドバイザーの配置(13人) 各学校を巡回して、学校セーフティウォッチャーへの助言や情報提供等の支援を行った。	学校セーフティウォッチャーの登録者数を増加させるとともに、講習会の開催やスクールガード・アドバイザーの配置を行うなど、登録者への支援を行う。 学校セーフティウォッチを推進することにより、子どもたちの登下校時の安全を確保する。
67	こども110番のいえ	健全育成課	各中学校区青少年育成委員会が地域住民に協力してもらい「こども110番のいえ」の指定を増やし、子どもたちの登下校時における安全の確保を図ります。	「こども110番のいえ」の登録件数を増やし、地域の児童・生徒の登下校の安全を図る活動を推進した。平成26年3月末現在の登録件数は10239件となり、昨年度比30件増加している。	平成26年度は、より一層の「こども110番のいえ」の登録数の増加を図り、子どもたちの安全確保を図る。そのために各中学校区育成委員会を通じて各家庭や店舗に登録を呼びかける。
68	交通安全総点検	各区地域振興課	安全で快適な道路環境をつくるため、市民参加による道路点検を推進します。	各区で点検地区を設定し、町内自治会、警察、学校等と共に、実際に歩いて点検を実施し、問題点や課題の抽出を行った。その後、破損した視覚障害者用誘導ブロック、標識の補修や放置自転車の撤去等を実施した。 (中央区、稲毛区、若葉区で点検を実施。)	別の地区を設定し、引き続き点検を実施する。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ3: 支え合いの仕組みづくり》 ⑦防災体制の強化・支援

No.	主な取り組み	所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
69	土砂災害警戒区域等における警戒避難体制の整備	危機管理課	大雨等による土砂災害から住民の生命・身体を保護するため、土砂災害ハザードマップの作成を通じて警戒避難体制を整備します。	土砂災害警戒区域等について、5か所(中央1、稲毛2、若葉2)が追加指定され、土砂災害ハザードマップを作成し関係世帯に対して配付しました。	土砂災害警戒区域等の追加指定がある場合は、土砂災害ハザードマップを作成し、関係世帯に対して配付する予定。
70	自主防災組織の育成	防災対策課	防災組織設置の際の機材供与、防災訓練への助成、機材購入・賃借の際の助成を行います。	結成組織数 983団体(※H26.3月末現在) 市の助成 ①自主防災組織が新規に設置されたときに、世帯数に応じた防災資機材の供与 ②組織が訓練を行ったとき、1人当たり80円の助成 ③組織が防災資機材を購入・賃借したときに、半額を助成。 ただし、助成限度額＝100,000円＋(世帯数×400円)	引き続き、助成を行う。
71	災害情報ネットワーク	防災対策課	災害情報を収集・伝達する安心・安全メールの配信を行います。	・ちばし安全・安心メール 登録者数 42,280人(※H26.3月末現在) ・ちばし災害緊急速報メール 災害時の緊急情報を同時に不特定多数の市民に対して配信。 現在NTTドコモ、ソフトバンクモバイル、KDDIの3社で運用。 ・災害情報共有システム 多様な災害関連情報を一元的に集約・共有するとともに、ちばし安全・安心メールや緊急速報メールなどの多様なメディアを活用して一斉に配信する状態を有するシステムを運用。	災害情報共有システムの運用とともに、災害情報を収集する有効な手段として、市民へのちばし安全・安心メール等の周知をさらに推進していく。
72	災害時要援護者への対応	防災対策課	ひとり暮らし高齢者や障害者等の、災害時における要援護者に関する情報を市と地域住民が共有するなど、必要な支援策を行います。	「千葉市災害時要援護者支援計画」に基づき、地域で「支えあいカード」を作成し、要援護者の安否確認や避難支援を行うことができるよう、個別に町内自治会等に働きかけた。H25年度の実施団体: 71 団体(※H26.3月末現在)	今年度に制定される「千葉市避難行動要支援者名簿に関する条例」により、市と協定を締結した町内自治会等の避難支援等関係団体に市の保有する名簿情報を提供が可能となった。 多くの地域で協定が締結されるよう、説明会等を実施して協力を要請する。

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ4:意識啓発・人材育成》 ⑧福祉への意識を高める

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成２５年度の実組状況	平成２６年度の実組予定
73	ア)啓発活動	取り組みにつなげるための支援	地域福祉課	地域福祉活動に対する市のサポート(後援など)や先進事例、貢献者の紹介を行います。	市社協や県・県社協・県共同募金会・県民児協が主催する以下の行事に対し後援を行った。 【後援実績】 ①「平成25年度千葉市社会福祉協議会会長表彰式及び福祉のまちづくり推進福祉体験標語・ポスター・作文コンクール表彰式」(市社協) 社会福祉活動に功労のあった福祉施設職員等288名に対する表彰等を実施。 ②「第17回千葉市社協福祉教育研究大会」(市社協) 市内の福祉教育関係者が一堂に会し、福祉教育の実践活動に触れ、社会福祉への理解促進・参加啓発等を実施。 ③「第63回千葉県社会福祉大会・第17回千葉県民生委員児童委員大会」(県・県社協・県共同募金会・県民児協) 千葉県における社会福祉事業の振興に功績のあった方々に千葉県知事・千葉県社会福祉協議会長・千葉県共同募金会長・千葉県民生委員児童委員協議会長から表彰状及び感謝状の贈呈を行うとともに、講演を行い、今後の地域福祉活動への意識の高揚を図った。(参加者数1,531名)	引き続き市社協等に対し必要な支援を行う。
74		市職員による出前講座	広聴課 全庁的取組	専門知識をもっている市職員が、地域の住民や団体による福祉活動に寄与するため、地域に出向いて「出前講座」を行います。	81件(平成26年3月末現在 受付件数)	引き続き実施
75		児童福祉週間、障害者週間における啓発活動	健全育成課	児童福祉週間(5月)、障害者週間(12月)等における啓発活動を通して、地域とともに、こども・障害者の福祉についての関心と理解を深めます。	児童福祉週間(5月)に啓発活動を実施し、こどもの福祉についての関心と理解を深めるよう取り組んだ。 【内容】 ○バス車内広告 ○公共施設へのポスターの掲示	引き続き、児童福祉週間(5月)に、啓発活動を行い、市民のこどもの福祉についての関心と理解を深める。
			障害者自立支援課		障害者週間(12月)における啓発活動の一環として、障害者福祉大会を以下のとおり開催した。 日時:平成25年12月7日(土)9時20分～12時20分 場所:千葉市ハーモニープラザ多目的ホール 参加者数:358名(介助・付添者含む)	引き続き、12月に障害者福祉大会を開催する。 平成26年度の開催予定は以下のとおり。 日時:平成26年12月6日(土)9時40分～12時20分
76		児童虐待防止推進月間における啓発活動	健全育成課	児童虐待防止推進月間(11月)における啓発活動(オレンジリボンキャンペーン)を通して、オレンジリボンと児童虐待問題について、関心と理解を深めます。	児童虐待防止推進月間(11月)に、啓発活動(オレンジリボンキャンペーン)を実施し、オレンジリボンと児童虐待問題について、関心と理解を深めた。 【内容】 ○リーフレットの作成・配付 ○街頭キャンペーン(JR千葉・新検見川・稲毛・鎌取・稲毛海岸各駅及びイオン3店舗、千葉市動物公園) ○bayfmラジオでの啓発CMの放送 ○市内路線バス、モノレールでの啓発広告の掲示 ○各区役所での懸垂幕の掲示	引き続き、児童虐待防止推進月間(11月)における啓発活動(オレンジリボンキャンペーン)を通して、オレンジリボンと児童虐待について、関心と理解を深めさせるよう努める。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ4:意識啓発・人材育成》 ⑧福祉への意識を高める

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
76	ア)啓発活動	児童虐待防止推進月間における啓発活動	児童相談所	児童虐待防止推進月間(11月)における啓発活動(オレンジリボンキャンペーン)を通して、オレンジリボンと児童虐待問題について、関心と理解を深めます。	11月1日付、児童虐待防止推進月間に合わせ掲載した「ちば市政だより」の掲載内容について、健全育成課(こども家庭支援室)と協議しながら掲載した。 オレンジリボン街頭キャンペーンに職員が3名参加し、里親制度の紹介も含むパンフレットを配布した。 オレンジリボンキャンペーンの一環として、千葉県、千葉県警と合同で、立入調査、臨検・捜索の模擬演習を行い、積極的に記者発表することによって、複数の新聞やテレビで紹介されるなど、啓発に努めた。	引き続き、ちば市政だよりへの掲載、オレンジリボン街頭キャンペーンへの参加等を積極的に行い、児童虐待問題及び里親制度について啓発に努める。
77		敬老事業を通じての高齢者を敬う意識啓発	高齢福祉課	敬老事業(敬老祝金の支給や敬老会の開催助成等)を通じて多年にわたり地域社会の発展に貢献した方々に対する感謝の意識啓発を行います。	(1)敬老祝金の支給 77歳 9,049人に10,000円、88歳 2,479人に30,000円、99歳198人に50,000円を支給した。 (2)敬老会補助金 地区民生委員児童委員協議会又は社会福祉施設が主体となって行う敬老会に要する経費の3/4を助成した。 敬老会参加者数(75歳以上) 21,864人 補助額 60,404千円	引き続き、敬老祝金の支給を行うとともに、敬老会補助金についても助成する。
78		人権週間等における人権啓発活動	男女共同参画課	人権週間(12月)等における、啓発活動を通して、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指します。	第65回人権週間(12月4日～12月10日)の関連行事として、「ちばハートフル・ヒューマンフェスタ2013」を開催し、人権尊重の理念に関する正しい理解と人権尊重思想の普及高揚を図った。 日時:平成25年12月5日(木)13:00～16:00 会場:千葉県文化会館 主催:千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、千葉地方法務局、千葉県人権擁護委員連合会、千葉県人権啓発活動ネットワーク協議会 内容: ○特別講演 「いらない生命(いのち)はない」～大切に思うもの～:稲川淳二さん(タレント・工業デザイナー・怪談家) ○コンサート(ハートフルライブ)「歩き出すのは自分しだい」:増田太郎さん(ヴァイオリニスト) 等 参加者数:1,022人	平成25年度と同様に、人権週間において「ちばハートフル・ヒューマンフェスタ2014」を開催する。
79	イ)福祉教育	学校における総合的な学習の時間を通しての福祉教育	教育委員会指導課	総合的な学習の時間等における福祉体験を通して、地域福祉の将来を担う子どもたちが、高齢者や障害者と互いに支え合いながら地域で安心して充実した生活を送ることができるよう、自他を認め合い、尊重し合う資質や能力、態度の育成に努めます。	総合的な学習の時間で、指導計画に福祉をテーマに設定して学習活動を実施した学校。 小学校 3年生・44校 4年生・55校 5年生・58校 6年生・43校 中学校 1年生・33校 2年生・23校 3年生・22校	福祉をテーマにした学習内容を、各校の総合的な学習の時間の年間指導計画に位置づけるように、教科等主任会、教育課程研究協議会等で助言する。また、協力団体等を紹介する。
80		ボランティア教育の推進	教育委員会指導課	ボランティア精神の基礎を培うために、市内の中学校数校を「千葉市ボランティア教育推進校」に指定し、学校が行う活動を支援します。	平成25年度推進校7校(椿森中・轟町中・高洲第一中・天戸中・貝塚中・大椎中・おゆみ野南中)を指定し、生徒会との連携を図りながら、学区の清掃や美化活動、社会福祉施設の訪問、プルタブの回収等の活動を実施した。	平成26年度は事業終了となる。学校・家庭・地域連携まちづくり事業の中に本事業を統合する。青少年育成委員会との事業の整合性を図る。

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ4:意識啓発・人材育成》 ⑨担い手の確保

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
81	ア) 担い手の創出	新たな担い手の創出	地域福祉課	市社協と協力し、ボランティア講座等参加者を、確実に実践につなげるための工夫(ボランティア団体等の情報提供)、学生へのボランティアの機会づくり、好事例の情報発信、ボランティアデータベースの構築を目指します。	市社協に対し補助金を交付するとともに、市社協が実施するボランティア講座を市政だよりで周知するなど、ボランティアの機会づくりやボランティア活動活性化のための支援を行った。 【事業実績】 ・登録ボランティア数 9,511人(個人4,398人、グループ5,113人/168グループ) ・ボランティアコーディネート件数 依頼件数 577件、対応件数 570件、対応率 99% ・ボランティアセンターのお知らせの発行 9回/各1,500部	引き続き市社協に対し補助金を交付するとともに、必要な支援を行う。
			市民自治推進課		民生委員の負担軽減と新たな地域福祉の担い手の確保を目的に、民生委員の活動全般を補佐する、民生委員協力員の配置に向け、制度設計を行った。	7月1日から制度を開始し、協力員として96人を委嘱する予定。 今後も随時、委嘱を行う。
			市民自治推進課		・ボランティアデータベースの運用 市社協、市国際交流協会、市生涯学習センターと協力し、ボランティアデータベースを運用。 ※データ件数(H26.3末現在) 募集情報 110件、団体情報 370件、 アクセス件数(平成25年度)18,585件 平成26年3月 機能強化(ボランティア団体情報に検索機能を追加)	引き続き、市社協、市国際交流協会、市生涯学習センターと協力し、ボランティアデータベースを運用。
82		シニア世代地域活動支援セミナー	市民自治推進課	シニア(団塊)世代の豊かな知識や経験を、ボランティア活動などの地域活動に生かすためのセミナーを開催します。	(市民活力創造フェアと同時開催) 平成25年11月16日(土)・17日(日) 参加者数:41人	(仮称)市民活動フェアの時期にあわせ、11月に開催予定
83	イ) 担い手の養成	社会福祉研修センターの運営	地域福祉課	社会福祉事業に従事する方等に対して、幅広い研修を行い、地域福祉を担う人材の養成と資質の向上を図るための支援を行います。	社会福祉事業に従事する方等を対象に研修を実施し、地域福祉を担う人材の養成と資質の向上を図った。 【研修実績】 ・社会福祉施設職員(11研修) 547人 ・社会福祉法人(2研修) 27人 ・介護専門職員(7研修) 690人 ・行政職員(6研修) 222人 ・市民対象社会福祉セミナー(34講座) 1,431人 合計 2,917人	引き続き研修を実施し、地域福祉を担う人材の養成と資質の向上を図る。
84		民生委員・児童委員、主任児童委員の研修	地域福祉課	地域住民の複雑多様化する福祉ニーズに応えるために、研修内容の充実を図るとともに児童健全育成活動、母子保健活動の推進など地域において児童福祉に関する事項を専門的に担当する主任児童委員に対する研修を充実します。	・全体研修会 1,137人 ・地区民児協会長・副会長研修会 201人 ・新任研修 335人	・全体研修会 1,420人予定 ・地区民児協会長・副会長研修会 200人予定

第 2 期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ4:意識啓発・人材育成》 ⑨担い手の確保

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の取組状況	平成26年度の取組予定
85	イ) 担い手の養成	生涯学習センター・公民館等における指導者及び各種ボランティア養成	教育委員会生涯学習振興課	地域における生涯を通じた学習活動を支援するため、団体・グループ等の指導者やボランティア等の養成を図ります。	・生涯学習センター 指導者の養成(講座) 637人 学習ボランティア活動の支援(7事業) 1,403人 ・公民館 公民館クラブ・サークル研修会等 466人	引き続き、生涯学習指導者やボランティア等の養成・研修等を実施する。
86		ヘルスサポーターの養成	各区保健福祉センター健康課 健康支援課	健康づくりのための運動を自ら実践し、地域の中心となって運動を継続するヘルスサポーター(健康づくり支援者)を養成します。	ヘルスサポーター養成教室 16コース 48回 215名	地区組織等との連携により、地域会場での教室開催回数の増加に努め、地域のでの健康づくりの核となるヘルスサポーターの養成を養成する。
87		ボランティア育成・活動支援の推進	国際交流課	国際化に対応した外国人市民とともに生きる地域社会の形成のため、日本語学習支援ボランティアを中心に研修等を行います。また、国際交流・国際協力活動を実施している団体に補助することにより、事業の活性化と本市の活性化を図ります。	国際化に対応した外国人市民とともに生きる地域社会の形成のため、国際交流協会において日本語学習支援ボランティアを中心に研修等を行ったほか、やさしい日本語のガイダンスを実施した。また、国際交流・国際協力団体の活動に対する助成を行うことにより、当該団体活動を支援し、国際化の推進を図った。	引き続き、国際交流協会において日本語学習支援ボランティアを中心に研修を行うほか、やさしい日本語のガイダンスを実施するとともに、活動団体への助成を行うことにより、ボランティアの育成、活動を支援し、国際化の推進を図る。
88	ウ) ボランティアの実践支援	認知症サポーターの養成講座	高齢福祉課	地域の町内自治会や職場、有志の集まりなどに講師が出向いて、認知症についての勉強会を実施し、認知症について正しい知識と理解を身につけた認知症サポーターを養成します。	金融機関や高齢者向けサービス事業者などの職域や学校で複数開催されたほか、市職員向けにも開催した。 25年度養成人数 4,073人(目標:3,000人)	引き続き、職域、学校での複数の開催を目指し、とくに中学校など子ども(孫世代)のサポーター養成を促進する。 26年度養成目標人数 4,500人
89		食生活改善推進員の養成	各区保健福祉センター健康課 健康支援課	地域の健康づくりのために、「食」を通したボランティア活動を行う食生活改善推進員(愛称「ヘルスメイト」)を養成します。	推進員数 288名(H25.4月1日現在) 養成人数24名	地区ボランティアとして活動する食生活改善推進員を養成するとともに、食生活改善推進員が行う料理教室等のボランティア活動を支援する。
90		ユースリーダーの養成	健全育成課	青少年活動のリーダーを養成するため、千葉市少年自然の家において、高校生・大学生を中心に宿泊研修を実施します。	平成25年度は、8月中旬に宿泊研修を開催し、20人が参加した。講習会後に、「こどものカワークシヨップ」や「青少年の日フェスタ」でのダンス発表会や合唱発表会の進行係として活躍した。	隔年開催のため、本年度は宿泊研修を実施しない。今年度は昨年度のユースリーダー養成講習会の参加者に、「こどものカワークシヨップ」や「青少年の日フェスタ」のダンス発表会や合唱発表会の進行係等を依頼する。 また、平成27年度に実施する講習会に向け、関係校に参加者の推薦依頼をする。
91		障害のある子どもの学校生活サポート	教育委員会養護教育センター	学校や保護者の要請に応じてボランティアを派遣することにより、通常の学級に在籍する肢体不自由児や難聴児などの学校生活の支援をします。 また、階段昇降機等の機器の貸出を行うことにより、肢体不自由児や難聴児等の円滑な学校生活を支援します。	通常の学級に在籍する児童生徒 12人に対して、23人のボランティアを 573回 派遣し支援を行った。 また、階段昇降機を 4校に 6台、FM補聴器は、5校に 9台、貸出を行った。	学校生活のサポートが必要な児童生徒にボランティアを派遣するとともに機器貸出を行う予定である。

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ5:基盤づくり》 ⑩福祉基盤の整備・活用

No.	主な取り組み	所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
92	バリアフリーのまちづくりの推進	維持管理課	乳幼児をもつ親、高齢者、障害者などすべての人が安心して外出し、活動できるよう、歩行者がまちを移動するときの安全性を確保するとともに、不特定多数の人が利用する公共的な施設などのバリアフリー化を推進します。	既存の歩道において、横断歩道部などにある歩道と車道の段差を解消する工事を92箇所、視覚障害者誘導ブロックは4.51km設置と、双方とも目標値を達成することができなかった。	引き続き、歩道のバリアフリー化を推進する。 歩道の段差解消 74箇所 視覚障害者誘導用ブロックの設置 6.34km
		地域福祉課		福祉のまちづくり大都市連絡会議に出席し、情報交換や先進事例の入手に努めた。	今年度も連絡会議に出席し、情報の入手に努める。
		交通政策課		①バリアフリー基本構想の進捗管理を一部実施。 ②京成千原線学園前駅のエレベーター設置に対する補助を実施。	バリアフリー基本構想の進捗管理を実施予定。
		自転車対策課		放置自転車対策を推進した。	放置自転車対策を推進する。
		教育委員会学校施設課		小学校3校、中学校3校に、エレベータを設置した。	小学校5校、中学校3校に、エレベータを設置する。
		公園緑地事務所		泉自然公園の園路に手摺を設置した。 ・設置延長 59m	平成25年度で事業完了
93	交通アクセスの確保	交通政策課	交通不便地域の解消や、高齢者の外出支援、公共施設へのアクセスなど公共交通の利便性の向上を図ります。	①総合交通政策及び施策の推進計画の進捗管理。 ②交通不便地域を対象としたコミュニティバスの運行。	引き続き、計画の進行管理、コミュニティバスの運行を行うとともに、総合交通政策に係る施策の次期推進計画(H27～H29)の策定を行う。
94	保健福祉センターの活用	各区保健福祉センター	市民一人ひとりの保健福祉ニーズにあわせた相談からサービス提供までを総合的かつ一体的に行うとともに、地域保健福祉活動の場を確保します。	保健福祉センターでは、関係各課が連携し、保健・福祉についての相談に応じるとともに、サービスを提供している。 社協区事務所では、地域のボランティア活動の拠点として、会議室等の貸し出しを行っている。	引き続き市民ニーズに応じた、保健・福祉サービスの提供に努めます。

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ5：基盤づくり》 ⑪各区地域福祉計画推進のための支援

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
—	ア) 広報・意識啓発	(再掲) 様々な組織・団体等への働きかけ	地域福祉課	庁内関係各課と調整の上、コミュニティソーシャルワーカー（関係機関や地域住民のネットワーク化を進めることで、地域福祉に係る課題に対応する専門スタッフ）を配する社協各区事務所とも連携し、社協地区部会をはじめ、町内自治会、ボランティア団体や福祉団体等への直接の説明機会などを充実させることにより、市計画・区計画の理解・普及に努めます。		
—			各区保健福祉センター			
—		(再掲) 取り組みにつなげるための支援	地域福祉課	地域福祉活動に対する市のサポート(後援など)や、先進事例の紹介、貢献者を紹介します。		
95		区計画を推進するための、多面からのサポート	地域福祉課	区計画が推進されるよう社協各区事務所、区推進協と協力して、区ごとに活動の手引書(活動の仕方・事例紹介)を作成・紹介、区独自の支援策を検討します。		
—		(再掲) 地域福祉計画ホームページの充実	地域福祉課	相互の情報交換機能の追加など充実に努めます。		
—		(再掲) 地域福祉活動事例紹介の充実	地域福祉課	地域福祉活動を実践している団体への活動参加など、体験を通じた紹介を充実します。		
—	イ) 担い手を確保するための支援	(再掲) 新たな担い手の創出	地域福祉課	市社協と協力し、ボランティア講座等参加者を、確実に実践につなげるための工夫(ボランティア団体等の情報提供)、学生へのボランティアの機会づくり、好事例の情報発信、ボランティアデータベースの構築を目指します。		
—			市民自治推進課			
—		(再掲) ボランティアズカフェ	市民自治推進課	様々なボランティア情報を一元的・総合的に市民に提供し、ボランティア活動へのきっかけづくりの場とします。		
—		(再掲) 社協地区部会活動の活性化への支援	地域福祉課	ふれあい・いきいきサロンをはじめとする地域ぐるみ福祉ネットワーク事業等、地域福祉活動が活性化するよう、積極的に情報の収集・提供・調査研究を支援するとともに、福祉活動を支える人材の育成、活動拠点の確保を進めます。		

第2期千葉市地域福祉計画の推進状況について

《基本テーマ5:基盤づくり》 ⑪各区地域福祉計画推進のための支援

No.	主な取り組み		所管課	事業概要	平成25年度の実施状況	平成26年度の実施予定
96	ウ)活動資金・拠点を確保するための支援	地域における活動資金づくりへの支援	地域福祉課	市社協と協力しながら、バザー開催の推進、事例紹介、民間で行っている助成金の情報提供を行います。	市社協が開催するバザー(ハーモニープラザフェスタ内)に協力するため、市職員に対してバザーへの物品提供を呼びかけ、市社協へ提供物品を寄贈するなど、開催を支援した。	引き続き、バザー開催の支援や、民間助成金事業の情報提供を行う。
—		(再掲)既存施設の有効活用	地域福祉課 全庁的取組	公共施設・福祉施設の有効活用、空き店舗・空き家に関する情報を収集・紹介します。		
—	エ)地域の連携支援	(再掲)様々な組織・団体等への働きかけ	地域福祉課	庁内関係各課と調整の上、コミュニティソーシャルワーカー(関係機関や地域住民のネットワーク化を進めることで、地域福祉に係る課題に対応する専門スタッフ)を配する社協各区事務所とも連携し、社協地区部会をはじめ、町内自治会、ボランティア団体や福祉団体等への直接の説明機会などを充実させることにより、市計画・区計画の理解・普及に努めます。		
			各区保健福祉センター			
—		(再掲)地域住民や団体が参加できる場の設定	地域福祉課	体験談・先進事例の紹介など行うフォーラムを開催します。		
			各区保健福祉センター			
97	エ)地域の連携支援	各区地域福祉計画推進協議会における積極的な情報提供・交換	各区保健福祉センター	情報交換を通じて計画に基づく取り組みの成果を共有しながら、課題の把握や今後の取り組みについての議論を行うほか、関係者間の連絡調整や広報を行います。	各区の地域福祉計画推進協議会において、各地区の活動事例の紹介、また、市が行う新規事業についての説明や助成金などの情報を提供するとともに、推進協委員と意見交換を行いながら、情報の共有化を図った。 また、会議開催後には「推進協だより」を作成し町内自治会・公共施設に配布するとともに、関係資料とともにHPへの掲載を行った。	引き続き、事例紹介・情報提供を行い、各委員と意見交換しながら情報の共有化を図っていく。 また、引き続き、会議内容について周知を図っていく。
			地域福祉課			

第2期中央区地域福祉計画の推進状況

(1) 第2期計画の重点項目における主な成果 (H26.3.31時点)

重点取組項目	主な成果
①地域ボランティアの拠点づくり	○分科会において市内の「助け合い」活動事例を調査し、活動内容の把握を行った。 ○社協において、各地区の社会資源(施設・費用・人員)について情報収集し、拠点の確保に努めている。
②見守り体制をつくる ※区としての重点項目	○5地区部会が活動を開始。(白旗台地区部会・西千葉地区部会・中央地区部会・松波地区部会・川戸地区部会) ○3地区部会は、住民アンケートを実施し、26年度からの活動を予定。(東千葉地区部会・生浜地区部会・松ヶ丘地区部会) ○その他の地区部会においても、見守り活動に関する検討会や研修会を行うなど、体制づくりの準備を進めている。 ○昨年10月「見守り勉強会」を開催。区長及びあんしんケアセンター蘇我からの講演後、活動を開始している5地区部会が事例発表を行い、他地区が今後の活動の参考とした。
③すべての子どもを地域で育てる	○地域の関係団体が一体となり、全地区でセーフティーウォッチャーの活動が行われている。 ○「昔遊び」・「わくわくキャンパス」等にゲストティーチャーとして協力を行っている地区もある。 ○各地区とも、子ども会が減少傾向にあり、地域全体で子どもたちを見守っていくような活動が盛んに行われている。
④ウィークリーサロン	○地区部会主催が大半だが、未実施地区においても町内自治会や老人クラブが主体となり開催。 ○サロンの目的である高齢者の交流の場の提供だけでなく、市の出前講座等を取り入れ、ソフト面の充実も図っている。
⑤子育てサロンの充実	○ほとんどの地区部会で実施。 ○分科会からの提言を受け、サロンに携わる役員が地域保健推進員、幼稚園・保育士と情報交換を行うための情報交換会の開催や、他地区の活動視察など、内容の充実や見直しが積極的に行われている。

重点取組項目	主な成果
⑥ドッキングプレイス	○松ヶ丘地区部会では、朝から夕まで開放しており、子どもから高齢者まで様々な世代の憩いの場となっている。 ○千葉寺青葉自治会(末広地区部会)と川戸地区部会においてもイベント的に開催している。 ○平成26年度については、中央地区部会についても開催を計画している。
⑦地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供	○半数近くの地区部会において実施されている。 ○未実施の地区も検討段階の状況。 ○分科会からの提言を受け、市社協が、「福祉講座」「ボランティア講座」の一覧を作成し、各地区部会が選択する方法を提案している。
⑧福祉マップ、福祉情報誌	○平成24年度に「ふくし・防災ガイド&マップ」を全戸配布。今後、各地区部会において本マップを活用した地区独自の福祉マップ作成を推進する。 ○全体の半数近くの地区部会において実施しており、未実施の地区も検討段階の状況である。
⑨地域での福祉教育	○ボランティア協力校として指定された学校においては「地域清掃活動」や「世代間交流事業」を実施。地域イベントの際は「ジュニアボランティア隊」を結成し、各イベントの手伝いを行っている。 ○平成24年度に市社協が各学校へアンケート調査を実施。その後の分科会での話し合いにより、未実施の学校に対しては、「福祉教育の手引き」や「福祉教育ニュース(広報誌)」の活用が提案され、地区部会並びに市社協から積極的な働きかけが行われている。
⑩防犯安全運動の推進	○各町内自治会が主体となり活動を行っている地区がほとんどであり、全地区で活動が行われている。 ○推進協分科会の委員と防犯パトロールに先進的に取り組んでいる地区の団体役員と意見交換を行い、各地区へ情報を提供した。 ○今後は、各地域で防犯活動を実施している団体が、「防犯講話」や「防犯ウォーキング」等を開催することにより住民の防犯意識を高め、さらなる防犯安全運動の推進を図る。 ○年々、中央区では犯罪件数が減少しているなど成果を上げている。

(2) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状 (H26.3.31時点)

重点項目名 地区部会名	地域ボランティアの拠点づくり	見守り体制をつくる ※区としての重点項目	すべての子どもを地域で育てる	ウィークリーサロン	子育てサロンの充実	ドッキングプレイス	地域で福祉に関する講座、ボラン ティア講座等の受講機会の提供	福祉マップ、福祉情報誌	地域での福祉教育	防犯安全運動の推進
白旗台地区部会	・拠点、人材、資金の確保等課題があるので、現在は検討段階。 ・町内自治会役員や民生委員が個別に対応。また、地域で個別に対応できない案件について、市(区)ボランティアセンターの活用を考えている。	・H25年度より見守り活動を開始。 ・各町内自治会で活動を行っているが、町内自治会の温度差があり、うまく進んでいる町内自治会の例を紹介しながら活動が低調な町内自治会のボトムアップを図っている。現在(平成25年12月)、各町内自治会の到達レベルについて確認中。	・子ども110番のいえ訪問、挨拶や駆け込み訓練を実施し、各小学校区(大森小、大蔵寺小、宮崎小)でもあいさつ運動を実施。 ・「みんなでにこにこあいさつしよう」のぼり旗を作成し、主な子ども110番のいえに設置。 ・登下校時に地域住民がセーフティウォッチャーとして協力している。 ・育成委員会で子ども達の下校時に合せて、青色パトロールを毎日(月～金)実施。	・いきいきサロンを15会場で年間約148回実施。うち、5会場で月1回以上開催しているが、市社協からの助成金が月1回1開催が限度なので活動資金に苦慮している。 ・活動の内容について、交流の場の提供だけでなく月に1回は市の「出前講座」を取り入れ、ソフト面の充実も図っているところもある。	・子育てサロンを2会場(宮崎公民館、南町共栄会館)で月2回、年回40回開催。	・サロン活動の中で推進しているが、世代間交流となると難しい面もある。 また、朝から夕方まで出入り可能な施設(拠点)が整っていないことも課題。	・地区部会の各委員会ごとにテーマを持った講座を年6回、開催。 ・(「健康に関すること」、「あんしんケアセンターについて」、「ボランティア育成」等) ・9月30日には、蘇我CCでHUG(避難所運営ゲーム)を活用した全体研修会を開催。 ・避難所運営委員会では福祉避難所を設ける等の配慮ができている。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」を配付。 ・前回独自で作成した「福祉マップ」の更新時期について検討の必要有。 ・年2回社協だよりを発行。	・地区部会の各委員会ごとにテーマを持った講座を年6回、開催。 (「健康に関すること」、「あんしんケアセンターについて」、「ボランティア育成」等) ・9月30日には、蘇我CCでHUG(避難所運営ゲーム)を活用した全体研修会を開催。 ・避難所運営委員会では福祉避難所を設ける等の配慮ができている。 ※「地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供」と同様。	・子ども110番のいえ訪問、挨拶や駆け込み訓練を実施し、各小学校区(大森小、大蔵寺小、宮崎小)でもあいさつ運動を実施。 ・「みんなでにこにこあいさつしよう」のぼり旗を作成し、主な子ども110番のいえに設置。 ※「すべての子どもを地域で育てる」と同様。 ・育成委員会による青色回転灯装着車による下校時のパトロールを毎日実施。 ・防犯パトロール隊を41町内自治会のうち35町内自治会で結成し、活動している。 ・第9地区連協に防犯部会を設け、防犯グッズの補充を実施。
ちば中央地区部会	・ボランティア募集は常に行い、ボランティア委員会で「古切手整理」や「玄鼻作業所への手伝い」など実施しているが制度化はされていない。 また、地区部会役員や民生委員が個別に対応している。	・災害時の安否確認活動として「お助けマン」の活動を行っているが、町内自治会ごとに活動の温度差が見受けられる。 ・日常の見守りは現在民生委員が中心に行っているほか、老人会の活動を通してお互いの声かけを実施している地区もある。 ・地区部会役員及び各町内自治会役員も「見守り活動」の重要性は認識しているが、体制が整う段階には至っていない。	・登下校時に合わせ、セーフティウォッチャーを実施。 ・毎年恒例で、スポーツ振興会と子ども会が共催で親子運動会を開催。 ・育成委員会が子育て支援講座を開催。	・地区部会としては未実施。 ・町内自治会単位でサロン活動を実施。 ・葛城町内会では自治会館においてH24年度から継続して週3回、午後1誰でも立ち寄れる場所を設置し住民に交流の場を提供。	・子育てサロンを2会場(毎月(24回)開催しており、現状の継続が目標。	・葛城町内会では、自治会館において、H24年度から継続して週3回、午後1誰でも立ち寄れる場所を設置し、住民に交流の場を提供。 ※「ウィークリーサロン」と同様。 ・地区部会としては未実施。 いきいきサロンと子育てサロンの合同主催活動をイメージするが、会場や開催数も限られたスタッフで対応しており、実施は検討していない。	・H25年度は、講座の開催は計画されていないが、来年度以降、推進協第3分科会で提案された市民向け講座、ボランティア講座各1回(計2回)の開催が目標。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自マップ」を今後、検討する。 ・年3回社協だよりを発行。	・現在ボランティア協力校である本町小で、「地域清掃活動」や「世代間交流事業(昔遊び)」を実施。地区部会のみならず、地域住民が活動に協力している。	・各町内自治会で防犯パトロールを実施。
都地区部会	・拠点を保有した状態での活動は行っていない。公民館を拠点として利用したいが文科省の許可が下りない状況。 ・現在は、民生委員が個別の問題の対応に当たっている。	・都町東自治会でモデル的に見守り活動を協議中。また、各自治会でも会議にて見守りに関する検討が行われている。 ・都町リハイム自治会は、防災会で緊急時の連絡先等を記載したカードを作成し、自治会長・民生委員・防災会長が持っている。80%ほど作成済み。 ・都町町内会では、公園掃除と誕生会を毎月交互に行っている。行事を通して、参加者の安否確認につながるような人間関係の構築に取り組んでいる。 ・H25.3に淑徳大学の小倉教授を講師として迎え、町内自治会・老人クラブ・民生委員等を対象に、「見守り支援体制づくり」研修を開催。	・毎年1回、親子等を対象に芋ほり会、ならせ餅つき大会を開催。 ・その他に、盆踊り大会、子どもこしし、民謡大会(社体)、運動会(社体)、都地区小学校対抗キックベース大会(社体)、凧揚げ大会(育成委員会)などがある。 ・都小学校からの依頼により、4年生を対象に地域住民がわくわく教室にて「地域の昔の仕事(火起こし、障子貼り、米つくり等)」の体験指導を行っている。	・H25年7月よりいきいきサロン開始。年12回開催。 ・都町町内会では第1・3土に年齢制限なしカラオケ会を開催。また、この場が町内会議を兼ねている。 ・誕生会、お茶会を開催している自治会・老人クラブもある。	・地区部会・地区連協の共同事業として、子育てサロンを年12回実施。毎月第2火曜日、都町都内会集会所。登録者約40人、参加者平均30人/回。親同士のお話会や保健師による講座などを実施。	・拠点が無く、未実施。公民館を拠点として利用したいが文科省の許可が下りない状況。 ・盆踊り大会や運動会などでは、世代を問わず交流している。	・年1回ボランティア講座を開催。H25はあんしんケアセンター中央の職員を招いて、ふれ食ボランティアを対象に、認知症についての講座を開催。	・H19に福祉(安全)マップを作成し、全戸配布した。掲載事項は避難場所、子育て・教育施設、高齢者福祉施設、金融機関、店舗、公園等。子ども110番は協力者が多く、探さずとも協力者宅を発見できるため、マップには落としていない。 ・H24に作成した「ふくし・防災ガイド&マップ」と合わせて活用していく。 ・都地区部会だよりを年1回発行。現段階では願望であるが、将来的には地区部会活動以外の地域の情報も合わせて掲載し、発行回数を年6回程度に増やしていきたい。	・自治会主催の敬老会で、小学生が余興で合唱するなどボランティアとして活動。 ・地域の民謡大会や盆踊りにも子どもが参加。その他、様々な地域の行事を通して、文化・伝統を継承。 ・都小学校からの依頼により、4年生を対象に地域住民がわくわく教室にて、「地域の昔の仕事(火起こし、障子貼り、米つくり等)」の体験指導をしている。	・都地区防犯パトロール隊を結成し、地域内を4地区に分けて活動している。ひと月のうち20日は徒歩、4日は青色パトロールカーによるパトロールを実施し、ほぼ毎日切れ目なく見回っている。 ・地区内に「子ども110番の家」の協力者は多い。
末広地区部会	・地区部会として拠点づくりは難しいと考えている。 また、現在ボランティアの仕組みについても構築されていない。 ・ボランティア委員会で使用済み切手収集整理を市VOで実施。 ・現在、民生委員や福祉活動推進員が個別に近所付き合ひの中で、支援している状況である。	・昨年11月の常任理事会にて“中央区見守り活動勉強会”の報告を行うとともに、「見守り体制」について協議。副部会長(4名)が中心となり体制づくりについて担当することになった。 ・現在、各町内自治会の実情を踏まえた、組織体制(案)を作成中、今後組織の構築に向けた協議を行い、来年度の活動開始を予定。	・セーフティウォッチャーを登下校時に毎日実施。 ・こども映画会やお話し会(紙芝居)を開催。 ・今後の事業充実に向け、地区部会委員が、他地区の活動を視察、情報交換を積極的に実施。 (視察:松ヶ丘地区「ひだまり」の活動等)	・いきいきサロンを6会場(月1～2回程度(計53回予定)開催。会場によって開催数は異なるが、住民ニーズには対応していると考えており、現状の活動を継続したい。 ・今後の事業充実に向け、地区部会委員が、他地区の活動を視察、情報交換を積極的に実施。 (視察:松ヶ丘地区「ひだまり」の活動等) ・老人クラブの活動も活発。	・子育てサロンを1会場、年11回開催。 ・今後の事業充実に向け、地区部会委員が、他地区の活動を視察、情報交換を積極的に実施。 (視察:松ヶ丘地区「ひだまり」の活動等)	・地区部会としては未実施。(地区部会としての実施は難しい) ・H23年度より、千葉青葉町自治会で月1回継続開催しているが、高齢者の参加が中心でメンバーも固定化されている。誰もが参加(立ち寄れる)できる環境に努めているが、コーディネーターなど担い手のスキルも必要であり、苦慮している状況である。	・継続事業として、いきいきサロンにおいて健康課(保健師)やあんしんケアセンター職員による健康講座等を実施しているが、地域住民を対象とした講座は未実施。 ・来年度、推進協分科会で提案されている、福祉講座とボランティア講座を各1回(年2回)に向け検討。	・広報誌を年2回発行。 ・H18年度パイロット事業で福祉マップを作成済み。更新の必要性は感じているが、現在未定。	・地区部会として未実施。 ・玄鼻作業所で毎週水曜日、毎月第3火曜日にマシンかけやハンガー作り等の作業支援及び月2回心身障害者福祉作業所「青い空」での軽作業支援を実施。 地区部会役員(障害者福祉委員会・ボランティア委員会)だけでなく、夏休み期間中に小学生の参加を呼びかけ支援を行うことも検討。	・地区部会としては、未実施。 ・各町内自治会で、夜回りや防犯パトロールを実施。 ・老人クラブが主催しているグラウンドゴルフ活動で、随時移動交番が来て、ひつたり防止講座(説明)や振り込み詐欺防止のチラシ配布等注意を呼び掛けている。
寒川地区部会	・施設がないため拠点の設置は現状では難しい。 ・昔からの住民が多く、地域の高齢者のことは隣近所で見守っている。寒川2丁目自治会など、町内自治会がゴミ出し手伝いを行っているところもある。 ・毎年、いきいきサロンのボランティアを町内会の回覧板で募集したり、町内自治会の婦人部(寒川町二丁目自治会は無くなった。)に依頼しており、50数名のボランティアが集まる。(寒川一丁目が一番多い。) ・地区部会としてはH25から寒川小で車椅子の体験講座を開催。	・中央区地域活性化支援事業の補助を受け、あんしんカードの更新・災害時要支援者名簿の作成・ステッカーや目印タオルの配布を実施。 ・災害時要支援者の対象者は152名ほどだが、家族が支援している者などを除いた実際の人数は50～60名ほど。 ・支援方法は町内自治会により異なる。 ・H26年2月23日に寒川小体育館にて全6町会(120名ほど)による避難訓練を実施予定。	・全ての町内自治会で、PTAと共に町内自治会内の民生委員がセーフティウォッチャーに協力し、児童の登下校の見守り活動を行っている。 ・子ども会主催で夏にキャンプ、冬に子どもの広場を実施。	・いきいきサロンを全ての町内自治会単位(6箇所)で月1回実施。 ・稲毛町自治会は老人クラブもサロンを開いており、社協と併せると月2回サロンがある。 ・寒川2丁目自治会は毎週お茶のみ会を開催。 ・各町内自治会のいきいきサロンが寒川保育所を訪問することもある。	・毎月1回(年12回)、子育てサロンを実施。主に寒川保育所で実施しているが、H26年度は寒川保育所が建て直しのため千葉寺保育所にて行う予定。また12回のうち1回は寒川町2丁目自治会館で開催し、親子でおやつ作りなどを行う。	・寒川2丁目自治会が第3・4水曜13～15時に開催している。高齢者、親子連れ、障害児などが参加。 ・H26に各町会から高齢者が参加することがある。	・各町内自治会で市の出前講座などを開催。 ・地区部会では年2回講座を開催。H26は健康講座と消防署による災害対策講座を予定。災害対策講座は社協祭りに組み込む。 ・H25から寒川小5年生を対象に車椅子体験講座も開催。	・年2回社協だよりを発行。 ・各町内自治会も定例会の内容を回覧板で地域にお知らせしている。 H26は健康講座と消防署による災害対策講座を予定。災害対策講座は社協祭りに組み込む。 ・H25から寒川小5年生を対象に車椅子体験講座も開催。 ※「地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供」と同様。	・各町内自治会で市の出前講座などを開催。 ・地区部会では年2回講座を開催。H26は健康講座と消防署による災害対策講座を予定。災害対策講座は社協祭りに組み込む。 ・H25から寒川小5年生を対象に車椅子体験講座も開催。	・各町内自治会で年1回ほど市の出前講座を利用して、防犯・安全に関する意識を高めている。
中央東地区部会	・ボランティア委員会が中心となり講座等を開催しボランティアを募集。現在16名の登録があり、地区部会活動(牛乳パックの椅子づくり・社協まつり・サロン)を担っている。個別のケースについては、民生委員が個別に支援にあたっている。 ・ボランティアの仕組みづくりの問題点として、“地区部会の拠点が無い”“人材の確保”が問題であり、現状では対応が難しい。	・各町内自治会の同調で見守り対象者の把握調査を実施したが、その後進捗状況は各町内会温度差がある。見守り活動は各町内会単位で行い、取りまとめを地区部会としているが、まだ体制が整う段階ではない。	・登下校時に合わせ、セーフティウォッチャーを実施。 ・毎年恒例で、民生委員が中心となつて小中学生対象の夏休みイベントを行っている。(H25は、千葉公園でのウォークラリーを実施) ・一部の町内会では、子ども会活動資金集めに協力。 ・各関係団体でカルタ大会や餅つきを行っており、地域での活動は活発に行われている。	・いきいきサロン(3会場、各会場年3回)実施しているが、現状では定期的な会場確保は困難であり、スタッフの対応も難しいことから、ウィークリーサロンは検討していない。	・H25年度、子育てサロンを年3回から年6回に増やし実施。今後、サロン活動がイベント化(何か面白いことをやらなくてはいけない等)している傾向があるため、サロン活動の目的や活動内容について、見直しを図る必要有。 ・現状では定期的な会場確保は困難であり、年10回以上開催することは、スタッフの対応も難しいことから、未検討。	・未実施 ・いきいきサロンと子育てサロンの合同主催活動をイメージするが、会場や開催数も限られたスタッフで対応しており、実施は考えていない。 ・実施するとしても、高齢者と親子の交流をつなげるコーディネーターが必要である。	・ボランティア委員会が中心となり年2回程度、「高齢者疑似体験講座」「あんしんケアセンターとの連携」について講座を開催。今後も継続的に講座を開催。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自マップ」については今後の検討である。 ・年2回社協だよりを発行。	・わくわくキャンパスで民生委員や地域住民が協力。 ・「あんしんケアセンター」の講座開催も地域での福祉教育の一環である。 ・社協まつりでボランティアとして椿森中学校生徒が会場案内等に従事。	・各町内自治会で防犯パトロールを実施。

(2)第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

重点項目名 地区部会名	地域ボランティアの拠点づくり	見守り体制をつくる ※区としての重点項目	すべての子どもを地域で育てる	ウィークリーサロン	子育てサロンの充実	ドッキングプレイス	地域で福祉に関する講座、ボラン ティア講座等の受講機会の提供	福祉マップ、福祉情報誌	地域での福祉教育	防犯安全運動の推進
東千葉地区部会	・地区部会の拠点整備は必要と感じ ているが、現状では難しい。 ・引き続き、“こんなことができますよ・登 録”を実施し、地域のボランティア登 録と活動。 ・以前から新規登録者への“活動実績 (活動後)”のケアが不足している感が ある。登録者への対応について見直 しも今後協議する必要がある。	・中央区地域活性化支援事業を利用 し、見守り体制作業部会を編成。住民 アンケート実施からニーズ調査を行 い、来年度からの「見守り活動」の実 施に向け対応。 ・H26年2月に見守り協力者を対象とし た研修会を実施予定。 ・作業部会会議、10回実施(平成26年 1月末現在)。 ・2月中に見守り希望者宅を民生委員 が訪問し、「見守り申込書」により申込 完了予定。3月には、見守り協力員を 集めた説明会を実施したい。	・子育てサロンやセーフティーウオッ チャーは、引き続き活動。 ・「ふれ愛まつり」において、都賀中学 校及び千草台東小学校生徒がボラン ティアとして活動。 ・千草台東小学校の授業の一環とし て全学年対象に「菜の花サロン」にお いて、高齢者との交流会を開催。 ・学区が3区にまたがっているため、連 携や協力体制の面でも複雑化してい る。	・いきいきサロンや子育てサロンを実 施しているが、現状では定期的な会 場確保は困難であり、スタッフの対応 も難しいことから、ウィークリーサロン は検討していない。	・子育てサロンを毎月(12回)実施。 ・昨年、児童母子福祉委員会と地域 保健推進員の情報交換会を実施した ため、活動(ソフト面)について創意工 夫しながら活動。	・未実施であり、開催についても未検 討。	・H25年度、「傾聴ボランティア講座」を NPO法人スピリッツの講師を招いて開 催。また、見守り体制構築のため見守 り協力員を対象とした「ボランティア研 修会」を2月に予定。 ・今後、「福祉講座」と「ボランティア講 座」について年2回程度開催できるよ う検討。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド & マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自 マップ」については今後、検討を行う。 ・毎月(12回)社協だよりを発行。	・「ふれ愛まつり」において、都賀中学 校及び千草台東小学校生徒がボラン ティアとして活動。 ・千草台東小学校の授業の一環とし て全学年対象に「菜の花サロン」にお いて、高齢者との交流会を開催。 ・学区が3区にまたがっているため、連 携や協力体制の面でも複雑化してい る。 ※「すべての子どもを地域で育てる」 と同様。	・地区部会としては未実施。
西千葉地区部会	・拠点となる施設がない。 ・ボランティア募集は「社協だより」で 実施。 ・地域で依頼がある場合は、民生委 員または各自治会のボランティアが 対応。 ・地域のつながりが強いいため、近所 の者同士で困りごとに対応しているケ ースもある。	・H19より80歳以上の高齢者と60歳以 上の独居者に対して、民生委員が把 握し、見守りカードを配布。 ・H25.6より登戸三丁目自治会にて見 守り活動が開始。同様の体制ができ ているのは、登戸一丁目自治会、登 戸・新千葉二丁目自治会、新千葉三 丁目自治会。 ・西登戸自治会、汐見・春日自治会は 来年度実施予定。	・登戸小学校へ登録した自治会(住 民)と民生委員がセーフティーウオッ チャーとして登下校の対応を行っている。 ・給食や学校行事に登録者を招待し、 児童との交流を図っている。 ・登戸幼稚園の園児と高齢者で毎年、 公園の花植えをしている。 ・小学校主体で、「ゴミゼロの日」に小 学生と自治会と一緒に各公園の清掃 活動を実施している。子ども会も同様 の活動を行っている。	・拠点となる場所がない。 ・登戸3丁目自治会において、「いきい きクラブ」を定期に開催。	・「よいこの広場」(0歳児～3歳児)年6 回(登戸1丁目自治会館) ※緑・黒砂地区部会が年6回実施して いるため、会場使用が年間半月と限 られているため、年6回となっている。 ・「びよんびよんクラブ」(3歳児以上) 年10回(西登戸会館) ・開催拠点も限られているため、これ 以上の拡大は地区部会として検討し ていない。	・拠点となる場所がない。 ・町内自治会では「夏祭り」など各種イ ベントを開催。誰もが集える内容と なっており、地域で色々な行事を開催 することで世代間交流が図れるので はないかと考えている。 ・自治会サークルが一同に会して「発 表会(文化祭)」を開催しており、地域 での交流の場となっている。 ・三角公園で登戸幼稚園から帰宅途 中の園児と近隣の高齢者が交流して いる。	・年1回地区部会の行事として介護予 防教室を開催。以前は講師としてあん しんケアセンター職員(うらら)を招い ていたが、新規ケアセンターとのつな がりはまだない。	・現在「ふくし・防災ガイド&マップ」 を活用している。 ・登戸3丁目自治会では、地域の福祉 マップを作成。 ・「ふくし・防災ガイド&マップ」を参考 に今後、県や市の補助金事業があれば、 作成は可能だが予算が問題。 ・ネットワーク委員会が社協だよりを 年2回作成・発行し、地区部会活動の お知らせや活動報告を住民へ周知し ている。カラーで広告入りのものを全 戸配布しており、H26年も6,000部作成 予定である。	・年1回地区部会の行事として介護 予防教室を開いている。以前は講師 としてあんしんケアセンター職員(うら ら)を招いていたが、新規ケアセン ターとのつながりはまだない。 ※「地域で福祉に関する講座、ボラン ティア講座等の受講機会の提供」と同 様。 ・学校との連携が重要であり、子ども 会やPTAを巻き込んだ取組みが必 要。今後、小学校児童対象の活動を 検討予定。	・老人会、子ども会、自治会などで地 域パトロールを実施しており、そのな かで地域で見かけない人物を目撃し た場合、顔を覚えるなどして防犯を 行っている。 ・地区部会と育成委員会が協力して、 「子ども110番の家」の既存協力者宅 の確認と新規協力者宅の増設に努め ている。
中央地区部会	・地区部会内でのボランティア登録、 拠点づくりは検討していない。 ・地域の個別ニーズに対しては、主に 地区民生委員が対応。	・弁天町会ではH25年度より活動開始 し、見守り対象者25名分の「支えあい カード」を町内自治会長及び地区担当 民生委員が保有。 ・H25年1月より弁天北部町会にて「支 えあいカード」実施。 ・他の自治会についても「支えあい カード」の着手しているが、進捗につ いては現在把握していない。	・弁天小通学路で連れ去り防止パト ロールを毎週金曜日に実施しており、 弁天北部町会では、班をつくり学校か ら自宅までの付添対応を実施。	・いきいきサロンや子育てサロンを実 施しているが、現状では定期的な会 場確保は困難であり、スタッフの対応 も難しいことから、ウィークリーサロン は検討していない。 ・地域の親子を対象とした「夏休み親 子映画鑑賞会」を開催。	・子育てサロンを年11回実施。 ・地域の親子を対象とした「夏休み親 子映画鑑賞会」を開催。(地区部会と 生涯学習センター共催事業)	・未実施 ・他の地区部会や関係団体で先行し た事例があれば参考にし、検討した い。 ・実施するとしても、高齢者と親子の 交流をつなげるコーディネーターが必 要である。 ・地区部会では「社協まつり」、町内自 治会では「餅つき大会」などを開催。 誰もが集える内容となっており、地域 でいろいろなイベントを企画すること により、世代間交流も図れるのではない かと考えている。	・H25年度「ボランティアとは…」をテーマ にした講座を開催。 ・毎年、植草学園「ボランティア部」と 共同で、月3回防犯パトロールを実施 しているが、日程が合わず、常時4～5 名の動員である。 ・今後、「福祉講座」と「ボランティア講 座」について、年2回程度の開催を検 討。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド & マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自 マップ」について、今後の検討を行う。 ・年2回社協だよりを発行。	・地域住民による弁天小「わくわくキャン パス」での指導を行っている。 ・「社協まつり」において、地域の子供 たち自ら、イベントブースの手伝いを 行っており、手伝いを通して福祉教育 の一環となっている。	・各町内自治会で防犯パトロールを実 施。 ・「子ども110番の家」を実施している が、実際には指定した家へ逃げ込ま ないケースがほとんどであるため、他 の地区部会で実施している“駆け込み 訓練”や“あいさつ運動”を参考とし、 実施につなげたい。
新宿地区部会	・現在は、登録制度はない。 ・各自治会(民生委員)が対応。 ・神明町自治会では「お楽しみ会」を 毎月実施。	・民生委員が主体となって、自治会ご とに要援護者を見守る体制ができて いる。 ・事務所が中央区以外にある集合住 宅のマスターキーの管理について検 討する。 ・H26年度は平時の見守りについても 検討する。	・子ども会(新宿地区子ども会育成連 絡会)が中心となり、夏季キャンプな い。 ・「わくわくキャンパス」での指導協力 (ソフトボール、裁縫教室等) ・セーフティーウオッチャーとして学校 へ30名登録、登下校時に対応。 ・新宿公民館主催の「昔あそび」講座 は、公民館館長の交代のため実施は 未定。	・地区部会での活動はないが、自治 会・老人クラブ等で月1回程度の交流 は開催。 (食事会、誕生会、神社での輪投げ 等)	・地区部会としての活動はない。 ・神明保育所主催イベントに、近隣の 親子が参加。	・地区部会では活動していない。 ・地区部会拠点が無いため、各自治 会で対象別に活動している。	・井上病院から医師を招き「健康講 座」を開催(年2回)。 ・H26年度は、新たに市民後見人育成 講座を開催予定。	・広報誌(年2回)発行。 ・「あんしんファイル」を作成し、配布し て対応。 ・今後も、上記ファイルを活用すると ともに、随時情報を更新し活用。	・学校からの要請があれば、地区部 会として協力したい。	・防犯パトロールを月2回実施。H25夏 から地域の警察官も共に巡回してい る。 ・青パトは未実施。 ・今後も活動の充実を検討。
蘇我地区部会	・地区部会内でのボランティア登録、 拠点づくりは検討していない。 ・地域の個別ニーズに対しては、主に 地区民生委員が対応。 ・地域での助け合いとしてNPO法人 (有償・会員制)が活動し、昨年度より 地区部会との連携協力を検討してい たが、進行していない。	・中央区地域活性化支援事業を利用 し、H25年12月上旬に「冷蔵庫保管用 安心カード」を全世帯に配布。地域で の自助意識の高揚を図り、来年度に は「見守り体制づくり」について、検討 したい。	・セーフティーウオッチャーについては 継続して活動。 ・昨年度より蘇我小学校から依頼を受 け、年1回の「昔あそび」のゲスト ティーチャーとして地区部会役員が活 動。 ・毎年、蘇我中学校へ年1回「思春期 教室」へ地区部会役員が協力。 ・主任児童員が中心となり、蘇我小学 校週1回出向き、「本の読み聞かせ」 を全学年対象に実施。	・いきいきサロンや子育てサロンを実 施しているが、現状では定期的な会 場確保は困難であり、スタッフの対応 も難しいことから、ウィークリーサロ ンは検討していない。 ・以前は婦人会、自治会、老人会より ボランティアとして活動があったが、 年が経つにつれボランティア数が減 少傾向にあり、地区部会役員(主に民 生委員)主体となっているため、再度 各団体へ協力を依頼したい。	・子育てサロンを年10回実施してい る。 ・以前は婦人会、自治会、老人会より ボランティアとして活動があったが、 年が経つにつれボランティア数が減 少傾向にあり、地区部会役員(主に民 生委員)主体となっているため、再度 各団体へ協力を依頼したい。	・未実施であり、開催についても検討 していない。	・H25年度、区健康課主催の「ヘルス サポーター養成講座」に参加。(全3回 コース) ・今後、「福祉講座」と「ボランティア講 座」について年2回程度開催できるよ う検討。	・H24年度「中央区ふくし・防災ガイド & マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自 マップ」について、今後、検討を行う。 ・年1回社協だよりを発行。	・「わくわくキャンパス」に地域の全関 係者が加わり活動。 ・毎年、蘇我中学校へ年1回「思春期 教室」へ地区部会役員が協力。 ・主任児童員が中心となり、蘇我小学 校週1回出向き、「本の読み聞かせ」 を全学年対象に実施。 ・「冷蔵庫保管用安心カード」につ いて、蘇我中学校生徒がボランティアと して仕分け作業に協力。	・育成委員会において、青色パトロー ルを各町内自治会で週割し、実施。 ・活動を継続するとともに、協力者を 募り、拡大を図る。
生浜地区部会	・地区部会(ボランティア委員会)にお いて「ボランティアの集い・講習会」を 実施し、住民への活動の呼びかけと 募集は常に意識している。 ・ボランティアの仕組みは構築されて いないが、民生委員が個別に支援に あたっている。 ・ボランティアの仕組みづくりの問題 点として、“地区部会の拠点が無い” “人材の確保”が問題であり、現状で は対応が難しい。	・平成26年度の活動開始に向け、「み んなで見守る町づくり生浜」(中央区 地域活性化支援事業)で住民アン ケートを実施。見守り希望者及び見守 り協力者の把握そして地域ニーズの 把握に努め、各関係団体と協議中。 ・ボランティアの集計に際し淑徳大 学の学生の協力により作業。 ・見守り体制の発足に向け、関係団体 との会議(年4回程度)と講演会、研修 会(年2回)を実施予定。	・登下校時に合わせ、セーフティー ウオッチャーを実施。 ・地域での「あいさつ運動」は、学校ご とに実施。 ・今年度「みんなで見守る町づくり生 浜」(中央区地域活性化支援事業)に おいて、「児童を犯罪や交通安全から 守っていく」をテーマに関係団体と会 合を持ち、課題の抽出を図っている。	・いきいきサロン(2会場、各会場年6 回)実施しているが、現状では定期的 な会場確保は困難であり、スタッフの 対応も難しいことから、ウィークリーサ ロンは検討していない。 ・老人クラブでは行事を多数開催。	・子育てサロン(4会場、各会場年10 回)実施。 ・会場や開催数も限られたスタッフで 対応しており、会場数や回数増は考 えていない。現在も区健康課等の専 門職と連携を図り、内容の充実にも 努めている。	・未実施 ・いきいきサロンと子育てサロンの含 同主催活動をイメージするが、会場や 開催数も限られたスタッフで対応して おり、実施は考えていない。 ・実施するとしても、高齢者と親子の 交流をつなげるコーディネーターが必 要である。	・毎年(年1回)、テーマを決め講座を 開催。来年度以降、「福祉講座」「ボラ ンティア講座」の年2回の開催を検討。	・平成24年度「中央区ふくし・防災ガイ ド&マップ」を配付。 ・上記マップを利用した「地域の独自 マップ」については今後の検討項目で あり、「みんなで見守る町づくり生浜」 (中央区地域活性化支援事業)におい て、「児童を犯罪や交通安全から守 ていく」をテーマとした活動と関連さ せ、作成を行う予定。 ・年1回社協だよりを発行。	・生浜中学校にてローゼンヴィラはま 野の職員を講師として、車椅子体験 学習を実施。 ・育成委員会主催で「子どもふれあい 祭り」を開催し、吹奏楽発表会やふれ あい体験(昔遊び)を実施している。祭 り終了後には、各校2名ずつの感想文 をお願いし、広報誌に掲載。 ※「すべての子どもを地域で育てる」 と同様。	・登下校時に合わせ、セーフティー ウオッチャーを実施。 ・地域での「あいさつ運動」は、学校ご とに実施。 ・今年度「みんなで見守る町づくり生 浜」(中央区地域活性化支援事業)に おいて、「児童を犯罪や交通安全から 守っていく」をテーマに関係団体と会 合を持ち、課題の抽出を図っている。 ※「すべての子どもを地域で育てる」 と同様。

(2) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状 (H26.3.31時点)

重点項目名 地区部会名	地域ボランティアの拠点づくり	見守り体制をつくる ※区としての重点項目	すべての子どもを地域で育てる	ウィークリーサロン	子育てサロンの充実	ドッキングプレイス	地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供	福祉マップ、福祉情報誌	地域での福祉教育	防犯安全運動の推進
松波地区部会	・松波公民館が地域の拠点となっており、10:00-15:00管理人が常駐し、対応。 ・町会有志で「お助けマンクラブ」として草取り、剪定、ゴミだし作業のサービスを開始。 ・ボランティア登録まで行かないが、協力者の把握はできている。 * 地区部会として、ボランティア登録や活動はないが、地域関係者(町会有志)の「お助けマンクラブ」があるため、活動は任せている。(協力者には地区部会役員も含まれているため、協力という体制になる)	・平成25年1月に「松波見守り隊」発足し、活動を行っている。 ・今後、要支援者の見直しや連絡体制の改善が課題。	・毎年、町会主催「餅つき大会」や弥生小スポーツ振興会主催「地域運動会」に地区部会が協力事業として活動。また、民生委員が中心となり毎朝、登校時に声かけを実施(弥生小セーフティウォッチャー)。	・未実施 ・いきいきサロン月1回、中央CC松波分室で開催。現在、松波分室が耐震工事のため、会場を松波公民館に変更し実施。 ・定期的な活動拠点として松波公民館があげられるが、少数の役員では対応が困難なため、地区部会での対応は、難しいと思われる。	・子育てサロン月1回、松波公民館で開催。活動の継続と内容に充実を図りたい。	・未実施 ・いきいきサロンと子育てサロンの合同主催活動をイメージするが、会場や開催数も限られたスタッフで対応しており、実施は考えていない。 ・実施するとしても、高齢者と親子の交流をつなげるコーディネーターが必要である。 ・地区部会役員より地域の誰もが参加できる「お茶会＝茶道」のような交流会の提案もあり、来年度検討中。	・未実施 ・今後、市の「出前講座」や市社協の企画提案を受け、開催を検討。	・平成24年度「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」を配付。今後、地域独自のマップ作成については検討。 ・現在、年1回社協だよりを発行しているが、年2回発行も検討。 ・毎月発行の「町会だより」へ地区部会サロン募集記事掲載協力を得ている。	・未実施 ・今後、市の「出前講座」や市社協の企画提案を受け、開催を検討。 ※「地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供」と同様。	・今年度より、移動交番が月2回、松波公民館駐車場で活動。 ・消費生活センター「高齢消費者の二次被害防止モデル事業」として、松波ティア講座等の受講機会の提供」と同様。
松ヶ丘地区部会	・ひとり暮らしの高齢者支援事業「お助け隊」(ネットワーク委員会)を実施しており、「ひだまり」が拠点。 ・登録者は20名、利用者は40～50名。 ・地域イベントが予定されているときにジュニアボランティア隊を結成し、各イベントの手伝いを行っている。	・平成26年度からの実施に向け、松ヶ丘地区全世帯へ住民アンケートを実施。今後、アンケート調査をもとに見守り希望者と見守り協力者のリストを作成し、松ヶ丘地区全体で見守り体制の構築を図りたい。	・セーフティウォッチャーを地域ボランティア約20名で活動。 ・PTA、地域と小学校が連携し、仁戸名小5年生を対象に里山事業(田植え～稲刈り、竹の子掘り等)を実施。 ・育成委員会と各種団体が連携し、「子どもの広場」や「新春マラソン」を実施し、また小学校では(松ヶ丘小・仁戸名小)で昔あそびを教えている。 ・月1回、毎回テーマを決め、「キッズクラブ」を開催し、地区の小学生が多数参加。 また、地域のお祭りなどに同クラブ協力が員が出張し、焼きそば等のブースを出し、地域活動に協力(出張出店の際の収入は、“ひだまり”の運営費としている)。 ・青少年育成委員会主催の新春マラソン大会を実施。	・いきいきサロン(高齢者福祉委員会)を年6回、3会場で開催。 ・第16連協で「ひだまり運営委員会」を設立し、役員が当番制で常駐。誰もがいつでも立ち寄り、地域住民の交流の場となっている。 ・老人クラブは、3組織。	・子育てサロン(児童母子福祉委員会)を年9回実施。毎年、淑徳大学看護栄養学部との協力を受け、幼児相談や母性相談を取り入れて活動しているが、今後も同学部と連携、協力し継続予定。	・「ゆうあいひろば」(ネットワーク委員会)を毎月2回、ひだまりにて開催。 ・No.6と同事業。※第16連協で「ひだまり運営委員会」を設立し、役員が当番制で常駐。誰もがいつでも立ち寄り、地域住民の交流の場となっている。昨年度まで、高齢者の来場が中心であったが、今年から小、中学生の来場も増え、自習や友人との交流の場として利用されている。	・年2回、ボランティア委員会で講座を実施。 ・淑徳大学看護栄養学部と連携し、「ひだまり」で月2回、健康や栄養相談を実施。	・平成24年度「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」を配付。 ・年3回社協だよりを発行。	・地域イベントが予定されているときにジュニアボランティア隊を結成し、各イベントの手伝いを行っている。	活動を継続するとともに、協力者を募り、拡大を図る。 ・「まちの交番」として移動交番が月1回、「ひだまり」を利用。 ・青バト(2台)が毎週土曜日に巡回活動を行っている。
川戸地区部会	・施設がないため拠点の設置は現状では難しい。地区部会だけでなく、他の関係団体も資材を公民館の一室を借りて保管している状況で、苦慮している。 ・今年より「見守り活動」を開始したため、コーディネーターと見守り協力員(ボランティア)の構築はできている。 ・現在は、民生委員や生活相談員が個別に対応しているが、平成26年度「助け合い活動」の開始向け、松ヶ丘地区部会「お助け隊」の活動状況ヒアリング(情報交換会)を行い、協議中。	・平成25年4月1日に見守り活動開始。 ・奇数月の最終土曜日に「見守り報告会」を実施。各見守り協力員より活動報告やケース対応を発表してもらい、見守り隊全体で共通理解を持つようにしている。 ・2月には、見守り希望者の再確認と新規希望者の把握を行い、コーディネートの対応を図った。	・セーフティウォッチャーに協力し、児童の登下校の見守り活動をしている。 ・子育てサロン「もーもークラブ」で年1回、保育所との交流会(七夕飾り)を開催。 ・子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催。 ・子ども会主催のイベント等に地区部会役員が手伝いとして協力。 ・地域の有志が集まり中学校生徒とともに「菊づくり」(育てる)を行い、その後「菊見会」を開催。 ・平成26年4月開設予定の児童養護施設「千葉みらい響の杜学園」施設見学を実施。来年度から児童約36名が、川戸地区の小中学校に入学する。地域でも子ども達への対応や支援策について検討の必要有。	・いきいきサロン「ひまわり会」を年11回開催。 ・開催回数や会場の拡大は考えていないが、アマチュアの落語家と呼んだり、ソフト面の充実を図っている。	・子育てサロン「もーもークラブ」で年1回、保育所との交流会(七夕飾り)を開催。 ・子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催。	・いきいきサロン「ひまわり会」と子育てサロン「もーもークラブ」を合同で交流会「菊見会」や「歌会」を開いているが、子育てサロンの定期開催日と異なることから、参加者が少ない状況が見受けられた。反省点として、事前のPR不足や内容工夫があげられ、見直しが必要。	・毎年、福祉に関する講座(介護教室)を年2回開催。 ・来年度については、「福祉講座」「ボランティア講座」を予定。	・年2回社協だよりを発行。 ・各町内自治会も定例会の内容を閲覧板で地域にお知らせしている。	・毎年、福祉に関する講座(介護教室)を年2回開催。 ・来年度については、「福祉講座」「ボランティア講座」を予定。 ※「地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供」と同様。 ・敬老会や地区運動会で小中学校生徒がボランティアとして活動。 ・地域のイベントではないが、以前に施設見学で富津市「望みの門」と交流があり、毎年恒例で川戸福祉バザー用品を寄附している。	・地区部会では未実施。 ・町内自治会単位でで防犯パトロールや防災訓練を実施しているが、パトロールの回数や訓練の規模は町内自治会で差がある。
星久喜地区部会	・地区部会としては未実施。 ・民生委員や地区部会事業のボランティアが個別の相談対応に当たっている。地区部会役員はパイプ役を担っている。	・H22年度フォーラム事業にて作成した緊急ノートの見直し・更新を行った。緊急ノートは対象世帯(独居と75歳以上高齢者)と民生委員がそれぞれ保管。 ・H26年度は見守り活動助成金申請予定。主体は町内自治会、取りまとめを地区部会が行う。	・セーフティウォッチャーを中学生の登下校時に毎日実施。登録者数は20人程度。 ・小学校はPTAが期間限定で自転車パトロールを行っている。人数は16人程度。 ・地区部会ボランティア委員会が星久喜小学校1年生とのなかよし交流会(年2回)の開催し、音遊びを指導。 ・青少年育成委員会による学区内パトロール、清掃、長期休暇前の学区点検の実施。 ・学校側も非常に協力的であり、地域も活動に力を入れている。	・地区部会高齢者福祉委員会が中心となり、いきいきサロンを年8回実施。参加者に男性が多いため、体を動かす内容が好まれるが、あんしんケアセンターによる講話、音楽療法なども行っている。 ・老人クラブの活動も活発。	・地区部会児童母子委員会が中心となり、子育てサロンを年10回実施。	・地域が広い上に京葉道路で分断されており、坂も多いため、みなが集まれる拠点を作るのは難しい。	・いきいきサロンにて福祉講座を実施。 H25年度「あんしんケアセンター松ヶ丘について」 H26年度「見守りについて(あんしんケアセンター松ヶ丘)」予定 ・小学校のお祭りにて、社協から車椅子を借りて体験コーナーを設けている。これは地域住民も体験可能。 ・敬老会にて小中学生がボランティアとして活動。	・広報誌を年2回発行。 ・H22年度フォーラム事業にて作成・配布した緊急ノートの裏側にも、緊急避難先、担当民生委員などが記載。	※「地域で福祉に関する講座、ボランティア講座等の受講機会の提供」と同様。	・広報誌にて振り込め詐欺防止について啓発。 ・千葉県警により、警察官OBが午後18～20時まで駐在するコンビニ防犯ボックスが1ヶ所設置。 ・子ども110番を実施。

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)

区分／地区部会名	①白旗台地区部会	②ちば中央地区部会	③都地区部会	④末広地区部会	⑤寒川地区部会	⑥中央東地区部会	⑦東千葉地区部会	⑧西千葉地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 24,514人、11,577世帯 2. 区域内単位町内自治会数 41 3. 高齢化率 22.24%(5,451/24,514(人)) 4. 特徴 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地で高齢化率50%の自治会もある。	1. 人口及び世帯数 14,490人、7,727世帯 2. 区域内単位町内自治会数 27 3. 高齢化率 24.80%(3,594/14,490(人)) 4. 特徴 中央区の中心部に位置しており、本町・中央・市場町などは繁華街と商店街が多く、商業地区としてにぎわっている。また、葛城・亥鼻などは千葉城・青葉の森などの芸術施設が多い。本地区部会の区域は文化・経済・行政の中核的役割を果たしてきた地域のなか設立に至った。	1. 人口及び世帯数 8,989人、4,314世帯 2. 区域内単位町内自治会数 10 3. 高齢化率 22.05%(1,982/8,989(人)) 4. 特徴 千葉市が政令都市移行に伴い、前組織の都加曽利地区部会が中央区の都町と若葉区の加曽利町になったため、分離分割し設立。	1. 人口及び世帯数 13,921人、6,866世帯 2. 区域内単位町内自治会数 4 3. 高齢化率 19.63%(2,732/13,921(人)) 4. 特徴 製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやゲームセンター、飲食店街ができ、環境が徐々に変わりつつある。また、地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園が存在しており、それらにともなう道路網の整備のため、最近では末広街道・大網街道とも交通量の増加が目立っている。	1. 人口及び世帯数 5,410人、2,805世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6 3. 高齢化率 22.50%(1,217/5,410(人)) 4. 特徴 JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつて一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的進行している地域である。	1. 人口及び世帯数 13,214人、7,393世帯 2. 区域内単位町内自治会数 16 3. 高齢化率 24.87%(3,286/13,214(人)) 4. 特徴 千葉都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧:国立千葉病院)がある。	1. 人口及び世帯数 4,351人、1,990世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6 3. 高齢化率 30.45%(1,325/4,351(人)) 4. 特徴 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	1. 人口及び世帯数 11,876人、6,039世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6 3. 高齢化率 18.63%(2,212/11,876(人)) 4. 特徴 大学、小中学校など教育施設に囲まれた千葉市でも屈指の文教地区。
主な成果	・H24年度に約6,700世帯へ向けて要援護者把握のためのアンケートを実施。 何らかの支援が必要であるという回答が約2,400世帯と当初の見込みより大幅に多くなったため、特に必要性の高い要支援者から、H25年度より見守り活動を開始。活動は各町内自治会で実施。	・民児協定例会や各町内自治会の会議で、見守り活動や地域の連携についての話題が増加。	・都町東自治会でモデル的に見守り活動を協議中。 ・各自治会の会議では、見守りに関する検討が行われている。 ・都町リハイム自治会は、防災会で緊急時の連絡先等を記載したカードを作成し、自治会長・民生委員・防災会長が保有。80%ほど作成済み。	・H24年11月の常任理事会にて「見守り体制」について協議。副部長(4名)が中心となり、体制づくりを検討。 ・現在、各町内自治会の実情を踏まえた、組織体制(案)を作成中。 今後組織の構築に向けた協議を行い、H26年度の活動開始を予定。	・H20年度に作成した急病・緊急時に役立つ「あんしんカード」の更新、また、H21年度に安心カードの登録情報を基に作成した災害時に支援を必要とする要援護者名簿の更新を実施。 ・要援護者宅の玄関に貼るステッカー、要援護者が避難する際に玄関付近に掲げる黄色いタオルを作成し、配布。	・H24年度に手あげ方式で見守り希望者の把握調査を各自治会にて実施。 活動は町内自治会単位で行い、地区部会が取りまとめ予定。 ・今年度は、みんなで創る中央区づくり事業に応募予定であり、活用し、事業の推進を図る。	・H25年度に1,727世帯を対象に住民アンケート実施。 ・民生委員が見守り希望者宅を訪問し、見守り申込書を配付。希望者から申込書を受け取った。 ・見守り協力者を対象に説明会、打ち合わせ会を実施。見守り協力員登録書を配付し、協力者の登録書への記入が完了。 ・4月19日「見守りネット東千葉」発会式を実施。見守り希望者8名に対し、見守り協力者46名による、見守り活動が開始。	・H23年度に民生委員が対象世帯を訪問し、同意を得て要援護者名簿を作成し、6町会会長へ名簿を提供。 ・H24年度は「磯辺見守り協力員ネットワーク」から講師を招き、講習会を実施。 ・H25年度より登戸三丁目自治会、登戸一丁目自治会、登戸・新千葉二丁目自治会、新千葉三丁目自治会の4町内自治会にて見守り活動を開始。 西登戸自治会、汐見・春日自治会はH26年度開始予定。
課題	・見守り活動に対し、町内自治会によって温度差がある。うまく進んでいる町内自治会の例を紹介しながら、活動が低調な町内自治会のボトムアップを図っている。	・町内自治会で実施されている「お助けマン」活動の方法が自治会ごとに異なっており、取り組みに対する意識に差が見受けられる。	・見守り活動に対し、町内自治会ごとに温度差が見受けられる。	・102地区民児協で、既に「災害時あんしんシート」を作成後、配布を行っているため、今後地区部会の見守り活動とどう連携して実施するか、十分協議しながら、取組む必要がある。	・各自治会毎に災害時の見守り体制の整備は完了したが、日常の見守り活動については未実施。H26年度は平常時の見守りについて検討予定。	・見守り希望者の把握調査後の進捗状況については、各町内自治会で温度差がある。	・見守り希望者に対して見守り協力者が多かったため、いかに協力者のモチベーションを保つかが課題。	・地区部会未加入の町内自治会や、町内自治会にも加入していない住民への対応について、検討の必要有り。

区分／地区部会名	⑨中央地区部会	⑩新宿地区部会	⑪蘇我地区部会	⑫生浜地区部会	⑬松波地区部会	⑭松ヶ丘地区部会	⑮川戸地区部会	⑯星久喜地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 6,175人、3,529世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6 3. 高齢化率 20.47% (1,264/6,175 (人)) 4. 特徴 千葉市の中心に位置し、JR千葉駅北口から千葉公園までの地域。マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	1. 人口及び世帯数 21,205人、10,044世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6 3. 高齢化率 12.35% (2,619/21,205 (人)) 4. 特徴 千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域であると同時に、市役所・県庁などを有する官庁街でもある。	1. 人口及び世帯数 18,522人、8,791世帯 2. 区域内単位町内自治会数 8 3. 高齢化率 14.69% (2,721/18,522 (人)) 4. 特徴 JR蘇我駅が中心に位置する。大巖寺、本行寺、福正寺、生実城址等史跡が多く点在している。	1. 人口及び世帯数 23,569人、10,511世帯 2. 区域内単位町内自治会数 12 3. 高齢化率 24.16% (5,694/23,569 (人)) 4. 特徴 千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。	1. 人口及び世帯数 4,458人、2,435世帯 2. 区域内単位町内自治会数 1 3. 高齢化率 25.30% (1,128/4,458 (人)) 4. 特徴 大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	1. 人口及び世帯数 11,166人、5,239世帯 2. 区域内単位町内自治会数 36 3. 高齢化率 30.54% (3,410/11,166 (人)) 4. 特徴 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行（現京成電鉄）の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。	1. 人口及び世帯数 4,897人、2,105世帯 2. 区域内単位町内自治会数 12 3. 高齢化率 29.04% (1,422/4,897 (人)) 4. 特徴 高齢化率が非常に高い。	1. 人口及び世帯数 13,536人、6,100世帯 2. 区域内単位町内自治会数 24 3. 高齢化率 23.71% (3,209/13,536 (人)) 4. 特徴 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。
主な成果	・弁天北部町会はH23年度に「災害時支えあいカード」を作成。独居世帯に配布し、管理は民生委員が対応。 ・弁天町会はH24年度に「みまもりカード」を作成。75歳以上の方や寝たきり・車椅子利用者のいる世帯の希望者を対象に、民生委員が訪問し、同意を得た。 H25年度より年齢に関係なく、みまもりカードの作成を希望する方も対象に含め、見守り活動を開始。 ・他の自治会についても「支えあいカード」の作成に着手。	・H24年度より、要援護の申出者からの同意書を、一部の町会を除き、自治会役員から防災会へ配布。同意を得た方には、原則として、防災会支部長・副支部長・民生委員が見守り支援にあたった（要支援申出者の人数により、協力員を募り、見守りにあたる町会もある）。同意書及び要援護者名簿については、各支部長が管理。	・H23年度より、あんしんケアセンター蘇我との地域ケア会議を開催し、見守り体制づくりを検討。 ・H25年度、冷蔵庫保管用安心カードを町内自治会加入世帯全戸（約6,000世帯）に配布。災害時を問わず、緊急時に的確な対応や家族などへの連絡が迅速に行える体制を整え、地域の自助意識の高揚を図る。	・H23年度は「安心カード」を作成、配布。また、『手をつなごう、福祉の町生浜』推進協議会を立ち上げ、災害時における要援護者の安否確認、防災ネットワークづくり、防災訓練、防災マップの作成等を実施。要援護者名簿は、民生委員の持っている名簿を基に訪問し、同意が得られた人を地図上に落とし、自治会長に配布。 ・H24年度は「お助けタオル」を敬老会の記念品として配布。また、地域内に4ヶ所の避難所運営委員会を立ち上げ、避難所運営訓練を実施。 ・H25年度は全5,656世帯に住民アンケートを実施。見守り希望者及び見守り協力者の把握、そして地域ニーズの把握に努め、各関係団体と協議中。また、アンケートの集計に際し淑徳大学の学生の協力により作業。 ・見守り体制の発足に向け、関係団体との会議（年4回程度）と講演会・研修会（年2回）を実施予定。	・H23年度に民生委員等が各戸訪問する等して、153人の見守り対象者をリストアップ。 見守り協力者は地区部会役員、町会役員、民生委員など60名。町会長が見守り対象者の名簿を作成。 ・H25年1月に「松波見守り隊」正式発足。	・H23年度より県地域課題解決モデル事業として、地域の38団体で構成される松ヶ丘中学校地区円卓会議を月1回開催し、1テーマとしてコミュニティカフェ「ひだまり」の開設に取組んだ。 異世代交流・地域住民交流を目的に、朝から夕方まで年齢性別を問わず誰もが気軽に出入りでき、話し合えるドッキングプレイスを目指して運営を行っている。 ・第16連協、松ヶ丘地区部会等が所属するコミュニティ懇談会「ひだまり運営委員会」を立ち上げ、運営ボランティアが常駐し、管理に当たっている。	・H24年度に「見守り・助け合いに関するアンケート」を実施し、協力者と支援希望者を募集。 ・H25年度より見守り活動開始。隔月で見守り報告会を開催し、見守り協力員からの活動報告やケース対応に係る発表を通して、見守り隊全体での共通理解に努めている。 ・H25年2月には見守り希望者の再確認と新規希望者を把握し、コーディネートに対応を図った。	・H21年度に県地域福祉フォーラム事業として作成を行い、独居高齢者・75歳以上高齢者に配布した「緊急対応ノート」の見直し・更新を実施。 ノートは対象世帯と民生委員がそれぞれ保管。 ・H26年度は見守り活動助成金申請を予定。
課題	・見守り協力者がいない地域への対応が課題。	・町内自治会非会員やマンション世帯の支援方法が課題。 今後、地区部会会議で方向づけを行う。	・共助体制の構築が未完成。	・アンケート調査で「説明が欲しい」という回答が12.7%あった。 見守り体制について住民懇談会を開くなど、十分な説明と更なる情報提供が必要。	・町会役員は1年改選のため、隊員としての活動継続が困難であり、毎年協力員の一部が変更となってしまうことが課題。	・「ひだまり」の運営にあたり、自治体からの補助金が終了した後の光熱水費や家賃等の財源確保が課題。 ドリンクバー料金や会議室利用料金、コピー料金、イベント料金など、様々な収入源を模索しているが、支出を補うほどには達していない。	・高齢者が多く、見守り協力について、協力が得られない自治会に対する対応や、自ら見守り希望を申し出ることができない人に対する対応、災害時避難への結びつけなどが課題。	・日常の見守り体制の構築が進捗していない。

第2期花見川区地域福祉計画の推進状況

(1) 第2期計画の重点項目における主な成果 (H26.3.31時点)

重点取組項目	主な成果
①子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	○平成24年度 ・花園地区部会・畑地区部会で子育てサロン開始。 ・検見川地区部会でいきいきサロン開始。 ・天戸中学校区地区部会(障害者福祉委員会)が長作小学校のふれあいトークを見学。 ・社協区事務所が、天戸中学校区地区部会へ地区部会まつり開催のための情報提供を行い、地区部会まつりを開催している地区部会へ帯同して訪問、見学。 ・天戸中学校区地区部会(地域福祉フォーラム委員会)と 作新台自治会の交流会開催。 ○平成25年度 ・検見川地区部会が検見川小学校の福祉教育への協力。 ・幕張本郷中学校区地区部会(障害者福祉委員会)がボランティア講座「知的障害って何ですか」開催。
②地域福祉活動の担い手を育成するために活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や、地域活動への参加を促し、人材の育成・活用に努めます。	○平成23年度 ・花園地区部会、202地区民児協、花園小学校生徒と区事務所が協力し、歳末街頭募金をJR新検見川駅で実施。 ・天戸中学校区地区部会でボランティア講座開始。 ○平成24年度 ・畑地区部会でボランティア講座開始。 ○花見川区ボランティアセンター開催講座 ・ボランティア入門講座 平成23年度<地域活動ボランティア>受講者5名、登録者0名 さつきが丘・宮野木台地区部会、こてはし台地区部会、朝日ヶ丘地区部会、花見川第2地区部会でボランティア体験。 平成24年度<ボランティアおためし体験>受講者9名、登録者2名 平成25年度<講義・レク・実習で学ぶ>受講者4名、登録者2名 ・ボランティア養成講座 平成23年度<高齢者施設サポートボランティア>受講者12名、登録者7名 平成24年度<障害者施設サポートボランティア>受講者7名、登録者4名 平成25年度<知的障害者サポートボランティア>受講者20名、登録者7名 ・シニアボランティア講座<シニアのための傾聴ボランティア講座> 平成23年度、受講者25名、登録者4名 平成24年度、受講者20名、登録者3名 平成25年度、受講者29名、登録者13名 ・ちよこっとボランティアセミナー 平成23年度、受講者8名、登録者8名 平成24年度、受講者6名、登録者2名 平成25年度、受講者3名、登録者2名

重点取組項目	主な成果
③地域での助け合いのため、地域のネットワークづくりを拡充し、要支援者などへの、身近な生活支援と独居高齢者の見守り安否確認の推進に努めます。	○たすけあい活動 ・実施地区部会 こてはし台地区部会、さつきが丘・宮野木台地区部会 ・実施自治会等 柏井小学校区8町内自治会「あいあい生活支援」、花見川団地自治会「ハンドハンド」、西小中自治会、にれの木台自治会、さつきが丘1丁目町会「猫の手クラブ」、こてはし台・横戸台ボランティアの会。 ・実施予定地区(計画中) 天戸中学校区地区部会(社協区事務所がボランティア委員会・作新台自治会へ情報提供・企画提案を行い、作新台自治会有志により一部で活動開始。)、こてはしマイタウン自治会 ○見守り活動 ・実施地区部会(社協助成金申請地区) 犢橋地区部会、花見川第2地区部会、こてはし台地区部会 ・実施自治会 柏井小学校区8町内自治会、にれの木台自治会、さつきが丘1丁目町会、畑が丘自治会、畑町ホームランド自治会 ・実施予定地区(計画中) 横戸台自治会、花見川ロイヤル自治会、白百合自治会、花見川ライオンズプラザ自治会
※最重点項目	
④地域における多種多様の健康情報がある中、住民自ら自分に適した健康づくりの機会に積極的に参加し、心身の健康づくりに努めましょう。	○いきいきサロンの開催 平成23年度 11地区部会で合計782回開催 平成24年度 13地区部会で合計809回開催 平成25年度 13地区部会で合計966回開催 ○散歩クラブの開催 平成23年度 8地区部会で合計162回開催 平成24年度 7地区部会で合計185回開催 平成25年度 7地区部会で合計182回開催
⑤地域での防犯意識を高め、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	○平成25年度防犯パトロール隊数 114グループ
⑥地域での防災意識を高め、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。	○避難所49か所中14か所設立(H26.5.1現在) 畑コミュニティセンター、畑小、花見川第三小、花島コミュニティセンター、花島小、柏井小、柏井高、花見川第二小、花見川第一小、花見川公民館、朝日ヶ丘小、朝日ヶ丘中、朝日ヶ丘公民館、西小中台小

(2) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	世代を超えた様々な交流の促進	地域の幅広い人材の育成・活用	地域生活への支援体制の構築 ※最重点項目	心身の健康づくりの推進	地域が安心・安全な防犯・防災の 仕組みの充実
検見川地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・「夏休み子ども映画会」、H25年度より「子ども工作教室」の開催 ・「やあびな」との交流 ・「地域のタウンミーティングづくり」	・未実施	・要援護者台帳の整備とネットワークづくり、要援護者への救急医療情報 キットと安心カードの配布	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・「検見川地区三世代ふれあいスポーツ大会」	・防犯パトロール隊(検見川町1丁目防犯パトロール隊、検見川町3丁目 町内会防犯パトロール隊、201地区夜間パトロール隊、検見川2丁目防 災会、検見川町五丁目防犯パトロール隊、検見川小学校PTAパトロール 隊、検見川町若葉自治会防犯パトロール隊)
花園地区部会	・いきいきサロンの開催(14サロン) ・子育てサロンの開催(1サロン) ・「親子の集い」、年末お楽しみ会の 開催 ・敬老会の開催 ・「盆踊り大会」	・平成23年度より、202地区民児協、花園小学校生徒と協力して、歳末 街頭募金をJR新検見川駅で実施。	・未実施	・いきいきサロンの開催(14サロン) ・スポーツを通じた健康づくり	・防犯パトロール隊(花園文化会防犯パトロール隊、花園むつみ会パト ロール隊、花園四丁目自治会、瑞穂1丁目パトロール隊、瑞穂2丁目パト ロール隊、花園3丁目防犯パトロール隊、瑞穂ワンワンパトロール隊、瑞 穂3丁目パトロール隊、朝日ヶ丘自治会防犯パトロール隊、花園小地区 子供見守り隊、花園中学校PTA、浪花町町内会、花園防犯パトロール 隊、南花園防犯パトロール隊)
朝日ヶ丘地区部会	・いきいきサロンの開催(7サロン) ・子育てサロンの開催(1サロン) ・「グループホームきらら」訪問 ・ふれあいバス旅行 ・障害者歳末友愛訪問 ・「ふれあい広場」の開催	・市政出前講座開催 ・ボランティア講座開催 ・ボランティア入門講座(地域活動ボランティア)体験受入 ・普通救命講習実施	・たすけあいの会、団地における支え合い体制の整備(西小中台自治会) ・寝たきり高齢者への友愛訪問 ・ふれあい食事会へのお誘い、歳末友愛訪問等 ・ひとり親家庭への年末ふれあい訪問	・いきいきサロンの開催(7サロン) ・散歩クラブ開催(1クラブ) ・ボランティア講座(介護予防健康体操、健康講座)各2回開催	・避難所運営委員会設立(朝日ヶ丘小、朝日ヶ丘中、朝日ヶ丘公民館、西 小中台小) ・防犯パトロール隊(西小中台パトロール、にれの木台自治会、朝日ヶ丘 つくし自治会防犯パトロール隊)
楨橋地区部会	・いきいきサロンの開催(3サロン) ・子育てサロンの開催(2サロン) ・地域福祉交流事業(昔あそびと流しそうめん、餅つき大会)	・未実施	・見守り活動、たすけあい活動実施に向け設立委員会発足(こてはしマイ タウン自治会) ※活動はH26年6月より実施予定	・いきいきサロンの開催(3サロン) ・散歩クラブ開催(2クラブ)	・防犯パトロール隊(こてはしマイタウン自治会、若種自治会パトロール 隊、千種パトロール隊、横橋町本郷第三町内会、山道パトロール隊、草 原自治会防犯パトロール隊)
206地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・バス旅行	・未実施	・未実施	・いきいきサロンの開催(1サロン)	・防犯パトロール隊(横戸台自治会、大日町パトロール隊推進部会、み春 野防犯パトロール隊、横戸小セーフティ隊、大日町寿会パトロール隊、宇 那谷町防犯パトロール隊、オリーブハウス防犯パトロール隊、大日町防 犯防災パトロール隊)
幕張・武石地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・「映画を楽しむ会」開催	・未実施	・未実施	・いきいきサロンの開催(1サロン)	・防犯パトロール隊(武石町2丁目防犯パトロール隊、幕張6丁目町内 会、幕張町北口町内会、幕東PTAパトロール隊)
花見川地区部会	・いきいきサロンの開催(52サロン) ・子育てサロンの開催(1サロン) ・介護予防活動の推進 ・高齢者、障害者福祉バザーの開催 ・高齢者と幼稚園児の交流会 ・敬老会の開催	・「そば打ち教室」	・「あいあい生活支援」、見守り活動 (柏井小学校区8町内自治会) ・高齢者見守り活動(花見川住宅自治会) ・地域における要介護高齢者、障害者のマップ作成 ・独居高齢者、障害者の見守り安否確認事業	・いきいきサロンの開催(52サロン) ・散歩クラブ開催(8クラブ) ・地域参加支援事業(旧B型機能訓練)の推進、支援	・避難所運営委員会設立(花島コミュニティセンター、柏井小、柏井高、花 見川第二小、花見川公民館) ・防犯パトロール隊(千代の台自治会、鷹の台自治会防犯防災パトロー ル隊、八千代台パークハイツ防犯委員会、新鷹の台第一自治会、花二小 花見川住宅自治会見守り隊、追館自治会防犯パトロール隊、花二小PT A校外パトロール、新鷹第2自治会防犯会)
花見川第2地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・グラウンドゴルフ年3回開催 ・健康体操年3回開催 ・社協まつりの開催	・ボランティア入門講座(地域活動ボランティア)体験受入	・「ハンドハンド」(花見川団地自治会) ・ふれあい見守りネットワーク設置事業	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・散歩クラブ開催(1クラブ)	・避難所運営委員会設立(花見川第三小、花島小、花見川第一小) ・防犯パトロール隊(天戸町第二自治会防犯パトロール隊、花見川4街区 防犯パトロール隊、花見川団地1・2街区防犯パトロール隊、花見川3、 4、4ー16、5街区パトロール隊、花見川団地8・9街区防犯パトロー ル隊、花三小パトロール隊、花一小PTA見守り隊、花島小PTA、花見川第 一小学校区青色防犯パトロール隊)
こてはし台地区部会	・いきいきサロンの開催(4サロン) ・子育てサロンの開催(2サロン) ・敬老会の開催 ・「コミュニティピアガーデン」、「三世代ふれあいラジオ体操」、「餅つき大 会」の開催	・「活性化プロジェクトチーム」 ・ボランティア入門講座(地域活動ボランティア)体験受入 ・民生児童委員との連絡会	・「ご近所たすけあい」ネットワーク事業 ・「お元気確認(見守り・声かけ)」事業	・いきいきサロンの開催(4サロン) ・散歩クラブ開催(3クラブ)	・防犯パトロール隊(こてはし台防犯パトロール隊<1丁目地区>、こては し台3丁目防犯パトロール隊、こてはし台自治会防犯パトロール隊5丁目 分団、こてはし台自治会2丁目地区パトロール隊、こてはし台自治会四丁 目会、こてはし台防犯パトロール隊6丁目地区パトロール隊)
天戸中学校区地区部会	・いきいきサロンの開催(5サロン) ・子育てサロンの開催(3サロン) ・「栗の木まつり」への協力 ・地域福祉フォーラム委員会と作新台自治会の交流会開催	・「SUN・SANまつり」開催で各ボランティア団体、地区民児協に参加を呼 びかけ実行委員会を組織 ・ボランティア講座開催	・作新台自治会有志により、たすけあい活動開始	・いきいきサロンの開催(5サロン) ・散歩クラブ開催(1クラブ)	・防犯パトロール隊(長作台緑丘隊、作新台防犯部会、松和会防犯パト ロール隊、貝塚町会防犯防災部、長作小学校児童見守り隊、弥生ヶ丘パ トロール隊、長作台緑丘パトロール隊、結まーるの会、花見川区第212 地区民生児童委員協議会、長作台緑丘いきいきクラブ)
さつきが丘・宮野木台 地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・子育てサロンの開催(1サロン) ・「ふれあい農園」の整備、推進 ・「おひさまクラブ」の活動 ・地区部会まつり開催	・ボランティア入門講座(地域活動ボランティア)体験受入	・ご近所のたすけあい活動実施 ・「猫の手クラブ」(さつきが丘1丁目町会)	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・散歩クラブ開催(1クラブ)	・防犯パトロール隊(さつきが丘2丁目第一町会防犯パトロール隊、宮野 木台西部自治会パトロール隊、ほばりが丘防犯パトロール隊、さつきが 丘1丁目会防犯パトロール隊、さつきが丘中央自治会パトロール隊、さつ きが丘二丁目町会防犯パトロール隊、宮野木台富士ヶ丘自治会防火防 犯部、さつきが丘二丁目第3町会防犯・防災会、第2町会防犯パトロー ル隊、さつきが丘1丁目35町会防犯パトロール隊、さつきが丘西団地パト ロール隊、鳩ヶ原防犯隊、さつきが丘西小学校保護者会、パトロニック 隊、さつきが丘1丁目34町会、さつき会防犯パトロール隊)
幕張本郷中学校区 地区部会	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・子育てサロンの開催(2サロン) ・ボランティア講座開催(知的障害って何ですか)	・ボランティア講座開催	・未実施	・いきいきサロンの開催(1サロン) ・ボランティア講座開催(健康講座)	・防犯パトロール隊(上の台自治会、幕張一丁目・本郷町内会防犯パト ロール隊第1班、本郷町内会防犯パトロール隊第2班、本郷町内会防犯 パトロール隊第3班、幕張本郷地区防犯パトロール隊幕張本郷西町会分 隊、幕張本郷地区防犯パトロール隊幕張台自治会分隊、西の谷小幕張 町1丁目パトロール班、西の谷小学校幕張本郷パトロール班)
畑地区部会	・いきいきサロンの開催(3サロン) ・子育てサロンの開催(1サロン) ・おはなし広場開催	・ボランティア講座開催	・見守り活動実施(畑が丘自治会、畑町ホームランド自治会)	・いきいきサロンの開催(3サロン) ・散歩クラブ開催(3クラブ)	・避難所運営委員会設立(畑コミュニティセンター、畑小) ・防犯パトロール隊(サニータウン自治会有志パトロール隊、畑が丘防犯 パトロール隊、畑町ホームランド防犯パトロール隊、みのわ台自治会パト ロール隊、畑小見守り隊)

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)

区分／地区部会名	① 検見川地区部会	② 花園地区部会	③ 朝日ヶ丘地区部会	④ 犢橋地区部会	⑤ 206地区部会	⑥ 幕張・武石地区部会	⑦ 花見川地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 10,905人、5,180世帯 2. 区域内単位町内自治会数 5自治会 3. 高齢化率 20.5%(2,235／10,905(人)) 4. 特徴 幕張メッセと北西に流れる花見川を境に千葉街道沿いの細長い地域で、昔は半農半漁として栄えた町。現在は、都市整備と埋立などに伴い都市化し、人の出入りも激しい中、閑静な町並みも残っている地域。	1. 人口及び世帯数 21,168人、9,191世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18自治会 3. 高齢化率 17.4%(3,679／21,168(人)) 4. 特徴 以前からの個人住宅が多いため、高齢化、核家族化が多い一方、JR新検見川駅が近いという地理的条件の良さから、集合住宅も多く建設され、若い世代層も増加している。	1. 人口及び世帯数 11,653人、5,124世帯 2. 区域内単位町内自治会数 12自治会 3. 高齢化率 27.0%(3,147／11,653(人)) 4. 特徴 近年急速に発展した地域で、戸建、商店、マンション、社宅、アパート、団地と住宅環境は多種多様な地域。JR稲毛・新検見川駅を利用する通勤者が多い地域。	1. 人口及び世帯数 10,890人、4,928世帯 2. 区域内単位町内自治会数 15自治会 3. 高齢化率 25.4%(2,764／10,890(人)) 4. 特徴 千葉市の西北部に位置し、旧犢橋村の一部と付近を開発された新興住宅とで構成された地域。	1. 人口及び世帯数 9,852人、3,903世帯 2. 区域内単位町内自治会数 10自治会 3. 高齢化率 22.7%(2,240／9,852(人)) 4. 特徴 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新しく出来た住宅街を含む地域。	1. 人口及び世帯数 4,285人、2,158世帯 2. 区域内単位町内自治会数 4自治会 3. 高齢化率 27.5%(1,178／4,285(人)) 4. 特徴 京葉道路幕張インター・武石インターによる、車の流入・流出が多く、都市計画による区画整理が進行中である。かつては、幕張海岸による沿岸漁業と、武石台地を中心とする農業が盛んな地域だった。戦後、東京や幕張新都心のベッドタウンとして人口が急増。かつては戸建が中心だったが、近年は集合住宅も増えている。	1. 人口及び世帯数 13,560人、5,380世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18自治会 3. 高齢化率 33.3%(4,514／13,560(人)) 4. 特徴 戦前からの住民世帯、昭和30年代よりの新興住宅世帯、公団住宅世帯、マンション住宅世帯等が混在している地域で、住民意識が多様化している。
主な成果	・平成24年度より、いきいきサロンを月1回開催(7～9月を除く)。 ・要支援者台帳の整備とネットワークづくり、要支援者への救急医療情報キットと安心カードの配布。 ・平成25年度、検見川小学校福祉教育への協力。	・平成23年度より、202地区民児協、花園小学校生徒と協力し、歳末街頭募金をJR新検見川駅で実施。 ・平成24年度より、子育てサロンを月1回開催。	・平成24年度より、朝日ヶ丘中学校の余裕教室を活用。地域の相談会開催に向け準備を開始。高齢福祉課「千葉市地域見守り活動支援事業補助金」申請、勉強会開催、他地区視察等を経て、平成25年度から相談会(交流広場ふれあい)開催。 ・ふれあいサロン増設。	・平成23年度、広報紙創刊。 ・平成24年3月より犢橋地域福祉交流館の管理委託。 ・地域福祉交流事業(昔あそびと流しそうめん・餅つき大会)開催。 ・こてはしマイタウン自治会支え合い事業設立委員会を平成26年2月に発足し、見守り活動・たすけあい活動の実施に向け活動を開始(見守り活動・たすけあい活動は平成26年6月より実施予定)。	・第1期から継続して、ふれあい食事サービスや敬老会を実施。	・平成25年度より、年2回程度いきいきサロンでグラウンドゴルフを取り入れ実施。 ・子育てサロン開催に向けた検討を開始予定。	・「あいあい生活支援」(たすけあい活動)、見守り活動を柏井小学校区8町内自治会で実施。 ・いきいきサロン増設。
課題	・担い手不足。地区部会役員、福祉活動推進員、201地区民児協民生委員の一部しか活動者がおらず、新規事業に着手出来ない。 ・町内自治会の協力が得られていない。	・地区部会として細かな事業も推進して行きたいが、役員の高齢化、担い手不足もあり、行事中心になってしまっている。 ・災害時要配慮者支援計画、避難所運営委員会も早急に対応しなければと考えているが、各町内自治会も人手不足で対応しきれない現状がある。 ・民生委員に頼りすぎており、負担を掛けている。担い手の供給源は自治会なので、改めて自治会に協力を依頼をしていく。	・活動は活発になってきているが、担い手の高齢化が進み、世代交代がうまく進んでいない。 ・地区部会としても、見守り活動が重要であることは理解しているが、自治会の理解、協力なくして実施は難しい。	・犢橋地域福祉交流館という拠点はあるが、交通の便が悪く、地域の高齢者が集える場所になっていない。 ・参加方法等検討しなければならない。	・ふれあい食事サービス以外の活動は停滞気味である。 ・各町内自治会活動等の情報収集をして、新たな活動を実施していく予定。	・活動拠点の問題。いきいきサロンは幕張六丁目町内会館で実施していて、居住エリアから近い参加者も多いが、ふれあい食事会を実施している幕張公民館までは距離があるため、参加者が少ない。 ・地区部会としても、見守り活動が重要であることは理解しているが、担い手不足の問題があり、検討には至っていない。	・各町内自治会で活動に差がある。 ・見守り活動については、地区部会内の全自治会で実施する必要がある。 ・担い手の高齢化、単位町内自治会の役員不足の問題。世代交代がうまく進んでおらず、出来るだけ若い人へシフトし、活動を継続させていかなければならない。

区分／地区部会名	⑧ 花見川第2地区部会	⑨ こてはし台地区部会	⑩ 天戸中学校区地区部会	⑪ さつきが丘・宮野木台地区部会	⑫ 幕張本郷中学校区地区部会	⑬ 畑地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 11, 065人、5, 595世帯 2. 区域内単位町内自治会数 5自治会 3. 高齢化率 34. 3%(3,799／11,065(人)) 4. 特徴 花見川団地を中心とした住宅地。 地区内に老人センター、児童福祉センター、団地内には集会所が設置されており、有効活用されている地域。	1. 人口及び世帯数 6, 413人、2, 810世帯 2. 区域内単位町内自治会数 1自治会 3. 高齢化率 46. 0%(2,945／6,413(人)) 4. 特徴 昭和46年から入居が始まり、高齢化が急速に進んでいる地域。ほぼ戸建のみの構成。平成15年6月に福祉活動の強化推進、社協活動に積極的に取り組んでいくために206地区部会より分離。 見守り・たすけあい活動等をはじめ先駆的な活動を展開している地域。	1. 人口及び世帯数 19, 217人、8, 100世帯 2. 区域内単位町内自治会数 17自治会 3. 高齢化率 28. 4%(5,453／19,217(人)) 4. 特徴 古くからある農村地帯も残るが、戸建、商店、マンション、アパート、団地と住宅環境は多種多様な地域。	1. 人口及び世帯数 11, 314人、5, 221世帯 2. 区域内単位町内自治会数 15自治会 3. 高齢化率 30. 5%(3,446／11,314(人)) 4. 特徴 京葉道路北側は、さつきが丘団地等集合住宅が大半を占める。 南側の宮野木台は戸建が多い地域。	1. 人口及び世帯数 24, 245人、11, 503世帯 2. 区域内単位町内自治会数 4自治会 3. 高齢化率 11. 2%(2,724／24,245(人)) 4. 特徴 埋立以前は、半農・半漁の町で、海苔の養殖が盛んだった。JR幕張本郷駅・京成幕張本郷駅付近は、東京や幕張新都心のベッドタウンとして集合住宅を中心に人口が急増し、新住民と混在している地域。千葉街道沿いは古くからの街が残っている。	1. 人口及び世帯数 6, 297人、2, 692世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6自治会 3. 高齢化率 29. 0%(1,828／6,297(人)) 4. 特徴 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新しく出来た住宅街を含む地域。
主な成果	・「ハンドハンド」(たすけあい活動)を花見川団地自治会で実施。 ・花見川団地自治会で見守り活動実施(花見川南自治会、天戸町睦会、天戸町第二自治会、天戸町秋田杉自治会は検討会議のみ実施)。 ・社協まつり開催。	・「ご近所のたすけあい」ネットワーク事業実施。 ・「お元気確認(見守り・声かけ)」事業実施。 災害時の安否確認はH26年6月より実施予定。 ・平成24年11月より子育てサロン増設。	・平成23年度、広報紙創刊、ボランティア講座開始。 ・平成24年度、障害者福祉委員会、長作小学校ふれあいトーク見学。地域福祉フォーラム委員会と作新台自治会の交流会開催。 ・いきいきサロン増設。	・ご近所のたすけあい活動実施。 ・平成23年度より、「ふれあい農園」の整備、推進。 ・地区部会まつり開催。 ・「おひさまクラブ」(障害者福祉委員会)の活動。	・平成23年度、地域福祉フォーラム講演会「子育てで何が大事？」開催(児童母子福祉委員会)。 ・平成25年度、ボランティア講座「知的障害って何ですか」開催(障害者福祉委員会)。	・平成23年度、広報紙創刊。 ・平成24年度より、子育てサロンを月1回開催、ボランティア講座開催、ふれあい食事会開催。 ・いきいきサロン増設。
課題	・エリアの規模に対し、活動の担い手が少なすぎる。 ・担い手も年々高齢化しており、活動の継続が難しくなっている。	・地区部会役員、登録ボランティア、見守り協力員等担い手の高齢化が進んでいる。 住民意識も高く、地域のまとまりもあり、担い手もいるが、世代交代が進んでいない。	・見守り活動、たすけあい活動の必要性を感じ、各町内自治会に協力を依頼しているが、理解が得られていない。 ・地区部会まつり開催に向け、部会内で予算承認は得られたが、開催に向けてはまだ問題が山積している。	・各専門別委員会の活動は活発だが、地区部会として一体的な活動を目指していない。 ・各町内自治会へ見守り活動の実施を働きかけたが、担い手不足もあり実施に至っていない。	・地理的な問題(総武線の線路)で街が分断されているため、片側だけで何かを実施するのは難しい。行事は合同で行なえるが、見守り活動や日常的な支援等は高齢化率も低く、自治会、地域住民にまだその意識がない。 ・地区部会活動が行事中心になっている。	・平成23年3月に設立し、毎年新規事業を開始してきたが、担い手に偏りが出始めているので、町内自治会の協力を得ながら、見守り活動等にも着手して行きたい。

第2期稲毛区地域福祉計画の推進状況

(1) 第2期計画の重点項目における主な成果（H26.3.31時点）

重点取組項目	主な成果
①ボランティアの人材育成	○ボランティアの人材育成を図るべく、ボランティア講座を実施。（23年度：6地区部会、24年度：8地区部会、25年度：9地区部会）
②安心カードの作成と活用	○小中台東地区部会、小中台西地区部会、稲丘地区部会で新たに実施。 ○轟・穴川地区部会でも今後、実施予定。
③活動の中核となれる人材の発掘	○11地区部会中実施が1地区部会、今後取り組み予定の地区部会が4地区部会。 ○行事等開催時には適任者と思われる方への声かけなどにより人材発掘に努めた。

重点取組項目	主な成果
④災害時に対応した地域住民の研鑽を図る	○避難訓練、防災に関する講習等への取り組みが区内各所であった。（11地区部会中実施済、今後実施予定の地区部会は10地区部会、残る1地区部会においても各町内自治会主導で取り組みや防災の啓発等が図られている）
⑤地域で活動している人・組織同士との連携・協力	○これまでに9地区部会、3団体において、防災連絡会など地域団体の横断的な取り組みの実践事例があった。
⑥コーディネート組織の連携	○「町内自治会・地区部会情報交換会」による情報共有や地域の様々な組織・団体が協力するスポーツイベントや敬老会などの行事を実施することにより、地域での連携体制の維持・強化に努めた。 ○もとは同じ地区部会で、現在活動区域を分割し、隣接している2つの地区部会では、それぞれ独立した活動を展開しながらも、定期的に連絡会を開催して情報交換を行っており、イベントを共催するなど密接な連携体制づくりを行っている。

(2)第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	地域で活動している人・組織同士との連携・協力	ボランティアの人材育成	活動の中核となる人材の発掘	コーディネート組織の連携	安心カードの作成と活用	災害時に対応した地域住民の研鑽を図る
小中台東地区部会	・町内自治会・地区部会情報交換会を定期開催、日頃の活動の中で感じている問題点の共有、災害や見守り活動に関する研鑽を図った。 ・兄弟関係にある小中台西地区部会との連絡会を定期開催し、共催の社協まつり、子育てサロン等の運営、実施にあたり、連携、協力のもとで進めている。	・ボランティア講座「見守り活動はご近所の新たな絆を紡ぐチャンス」を開催、町内自治会長、民生委員、推進員等の参加、人材育成に努めた。	・区事務所主催の「入門V講座」受講生が、講座の一環でふれあいいきいきサロンに参加したことを機に、サロンの継続的な補助に加え、推進員に就任。 ・サロンを開催した施設の施設長が地域福祉活動に興味を示し、推進員に就任。	・町内自治会・地区部会情報交換会を定期開催、日頃の活動の中で感じている問題点の共有、災害や見守り活動に関する研鑽等を図った。 ・兄弟関係にある小中台西地区部会との連絡会を定期開催し、共催の社協まつり、子育てサロン等の運営、実施にあたり、連携、協力のもとで進めている。	・救急医療キットと携帯用カードの両方を、70歳以上の方を対象に現在も配布を継続。	・地区部会が主催する活動は行っていないが、各町内自治会において自主防災組織を中心に避難訓練や防災活動を実施。
山王地区部会	・地区部会役員、民生委員、ボランティア等が連携、協力のもと、児童の登校時のあいさつ運動を実施。 ・障害者福祉委員会の委員が参加し、障害者団体、小中学校、大学、ボランティアと連携しての事業開催。 ・公民館と地区部会共催による防災訓練、防災講座等を実施。 ・障害者団体(ぐっぴいの会)の主催事業及び公民館主催事業へ地区部会として連携、協力体制(人的支援)をとっている。	・PTA経験者への声かけ等、人材の発掘に取り組んだ結果、新たな人材の確保、地区部会活動への参加につながった。	・PTA経験者への声かけ等、人材の発掘に取り組んだ結果、新たな人材の確保、地区部会活動への参加につながった。	・地区部会役員、民生委員、ボランティア等が連携、協力のもと、児童の登校時のあいさつ運動を実施。 ・障害者福祉委員会の委員が参加し、障害者団体、小中学校、大学、ボランティアと連携しての事業開催、公民館と地区部会共催による防災訓練、防災講座等を実施。 ・障害者団体(ぐっぴいの会)の主催事業及び公民館主催事業へ地区部会として連携、協力体制(人的支援)をとっている。	・10年来の活動として継続。 ・75歳以上の方を対象に、民生委員の高齢者実態調査時に配布。	・H24年度から行っている、公民館と共催の防災訓練を実施。H26 年度は9月に実施予定。
轟・穴川地区部会	・地区部会が自主的、自発的に動き、町内自治会や管理組合とのコミュニケーションを図ることが必要。 ・穴川町会では、独自で災害時勉強会を開催、防災会には社協役員をはじめ、福祉活動推進員、地元消防団、交通安全協会、民児協、子ども会等々が名を連ね、連携、協力のもと活動にあたっている。	・ふれあい食事サービスのボランティアに入れ替えがあり、新たな担い手が確保できたとともに、当該サービスに必要な知識の育成を図っている。	・ふれあい食事サービスのボランティアに入れ替えがあり、新たな担い手の発掘、確保につながった。	・地区部会が自主的、自発的に動き、町内自治会や管理組合とのコミュニケーションを図ることが必要。 ・穴川町会では、独自で災害に関する勉強会を開催、防災会には社協役員をはじめ、福祉活動推進員、地元消防団、交通安全協会、民児協、子ども会等々が名を連ね、連携、協力のもと活動にあたっている。	・市営住宅(轟町第一団地)において独自に取り組み、活用。	・各町内自治会において、自主防災組織が立ち上がっているところは、必要に応じて訓練等を実施。 ・穴川町会では、独自で災害に関する勉強会を開催、防災会には社協役員をはじめ、福祉活動推進員、地元消防団、交通安全協会、民児協、子ども会等々が名を連ね、活動にあたっている。
稲毛地区部会	・主催事業である敬老会、ふれあい広場等の開催時には、町内自治会をはじめ、スポーツ振興会、青少年育成委員会、婦人会、PTA、学校、地域保健推進員、一般ボランティア等々、地域団体全てが連携、協力のもとで取り組んでいる。	・区事務所主催の「入門V講座」受講生が、講座の一環でふれあいいきいきサロンに参加したことを機に、地域活動を継続して手伝いたいとの希望から、推進員に就任。 ・年間約100日にのぼる地区部会活動(＝ボランティア活動)を行える人材を育成できている。	・区事務所主催の「入門V講座」受講生が、講座の一環でふれあいいきいきサロンに参加したことを機に、地域活動を継続して手伝いたいとの希望から、推進員に就任。 ・講座のプログラムに地区部会活動の体験を組むことで、人材発掘につながっている。	・主催事業である敬老会、ふれあい広場等の開催時には、町内自治会をはじめ、スポーツ振興会、青少年育成委員会、婦人会、PTA、学校、地域保健推進員、一般ボランティア等々、地域団体全てが連携、協力のもとで取り組んでいる。	・70歳以上の方を対象に、民生委員が訪問の際に配布。	・稲毛公民館、稲毛小、稲毛中の避難所運営委員会の開設にあたり、地区部会も準備段階から加わり、活動している。 ・エリア内の各町内自治会においては、自主防災組織による訓練等を実施。災害時には、地区部会として動ける体制も整備。
稲丘地区部会	・地域福祉活動にあたり、地区部会役員をはじめ、町内自治会、地区民児協、福祉活動推進員、スポーツ振興会、青少年相談員及び補導員、保護司、地域保健推進員、地域協力者等からなる「稲丘地区部会ネットワーク」と称した組織を設置。連携、協力のもとで地域福祉活動に取り組んでいる。	・地区部会主催の「敬老会」「正月行事」、後援事業の「町別対抗競技会」等の諸行事の中で、人材育成に取り組むとともに、当該サービス事業を通した人材育成。 ・講習により短期間で人材を育てる方法と、地域行事への参加を通し、人と人とのつながりの中で育成する方法の2つを併用し、効果的な育成に努めている。	・地区部会主催の「敬老会」「正月行事」、後援事業の「町別対抗競技会」等の諸行事の中で、人材育成に取り組むとともに、参加者として訪れた方を観察し、活動に協力いただけそうな方(スタッフとつながっている、フットワークが軽快など)を見極め、人材発掘へとつなげている。	・地域福祉活動にあたり、地区部会役員をはじめ、町内自治会、地区民児協、福祉活動推進員、スポーツ振興会、青少年相談員及び補導員、保護司、地域保健推進員、地域協力者等からなる「稲丘地区部会ネットワーク」と称した組織を設置し、連携、協力のもとで地域福祉活動に取り組んでいる。	・25年度の総会時に、あんしんカードの意義について部会長より説明、当該年度中の導入を提案。 ・敬老会開催時に安心カード(首にかける携帯用と冷蔵庫置き型)を準備し、地域内の全対象者への配布を実施、活用と携帯を呼びかけた。	・各町内自治会において、自主防災組織が立ち上がっているところは、必要に応じて訓練等を実施。
千草台中学校地区部会	・あいさつ運動、昔あそび、防犯パトロール等の取り組みを、地区部会、町内自治会等各種団体と連携し、取り組んでいる。 ・地区文化祭では、上記団体に加え、スポーツ振興会、小中学校とも連携、協力を図り、実施。	・地区部会役員として、地区民児協、町内自治会長等が就任。 ・学校と地域のつながりの観点から、PTA役員が地区部会役員に就任。	・地区部会役員として、地区民児協、町内自治会長等が就任。 ・学校と地域のつながりの観点から、PTA役員が地区部会役員に就任。	・学校と地域の連携にあたり、毎年、部会長が新入生保護者説明会に招かれ、地域情報をはじめとしたエリア内の情報を伝える役割を担っている。(学校長が代わっても続いていることから、安定した信頼関係が伺える。)	・URと連携し、65歳以上の独居者、独居以外の希望者を対象に、あんしん登録カードの配布を継続。 ・カードにより対処できた事例もあり、活用されている。 ・必要に応じ、自治会の責任において取り組んでいる。	・団地自治会をはじめ、各町内自治会の自主防災組織等が中心となり、毎年9月中に防災訓練を実施。 ・団地では、日頃から階段単位での隣人把握、挨拶に励んでいるほか、ポストに郵便物が溜まっていないかの確認も行っており、災害時はもとより平常時の見守りもできている。
草野地区部会	・地区部会組織には、町内自治会をはじめ、民生委員、主任児童委員、赤十字奉仕団、地域保健推進員、地域協力員、食生活改善推進員、地域保健推進員が参画しているが、この他、小中学校(3校)、スポーツ振興会、青少年育成委員会、子ども会、青少年補導員及び指導員等とも必要に応じて連携、協力を図れる体制となっている。	・ふれあい食事サービスのボランティアを募集(広報紙掲載、地域行事での声かけ等)したところ、新たな担い手の協力が得られ、当該サービス事業を通した人材育成が図れている。 ・5つの専門別委員会活動の中で、研修参加や独自の相互学習等を行い、個々のスキルアップ推進に努めている。	・ふれあい食事サービスのボランティアを募集(広報紙掲載、地域行事での声かけ等)したところ、新たな担い手の協力が得られた。 ・町内自治会単位で見ると、各々人材の発掘はできている。発掘した人材が、今後、自治会活動の中心的存在となり、さらには地区部会活動への参加につながるよう、働きかけを行っていく。	・地区部会組織には、町内自治会をはじめ、民生委員、主任児童委員、赤十字奉仕団、地域保健推進員、地域協力員、食生活改善推進員、地域保健推進員が参画しているが、この他、小中学校(3校)、スポーツ振興会、青少年育成委員会、子ども会、青少年補導員及び指導員等とも必要に応じて連携、協力を図れる体制となっている。	・救急医療キット(冷蔵庫保管型)については3町内自治会、あんしん登録カード(URと連携)は1町内自治会でそれぞれ取り組んでいる。 ・エリア内でのさらなる取り組みについて、全町内自治会会長が所属する高齢者福祉委員会において、議論、検討していく。	・自主防災会を組織している町内自治会が、必要に応じて防災訓練、避難訓練、講習会等を実施。 ・3町内自治会において「無事ですカード」を使った安否確認を実施。平常時からコミュニケーションをとり、いざという時に備える仕組みづくりに努めている。 ・24年度、あやめ台小に避難所運営委員会が開設され、26年度には草野小に同委員会が開設予定。
緑が丘地区部会	・青少年育成委員会が主催する、文化と遊びとスポーツの祭典「緑ンピック」の実施にあたり、地区部会をはじめ、スポーツ振興会、地区民児協、連協、近隣小中学校、ボランティア等々が連携、協力し、企画、運営を行っている。	・時代の変化、居住環境の複雑化、コミュニティの希薄化等の影響により、人材発掘に努めるも成果はあがっていない。 ・現担い手は高齢化が進んでいるものの、やる気精神旺盛に活動に向き合っており、また地域を思う心の灯も消えおらず、担い手確保に向け地域で声をかけ続けている。	・時代の変化、居住環境の複雑化、コミュニティの希薄化等の影響により、人材発掘に努めるも成果はあがっていない。 ・現担い手は高齢化が進んでいるものの、やる気精神旺盛に活動に向き合っており、また地域を思う心の灯も消えおらず、担い手確保に向け地域で声をかけ続けている。	・青少年育成委員会が主催する、文化と遊びとスポーツの祭典「緑ンピック」の実施にあたり、地区部会をはじめ、スポーツ振興会、地区民児協、連協、近隣小中学校、ボランティア等々が連携、協力し、企画、運営を行っている。	・必要に応じ、各町内自治会の責任において安心カードを作成、活用。(各町内自治会の意識が高いことから、地区部会が主体となった取り組みは行っていない。)	・連協が主体となり、毎年2月に千葉北警察署、所轄交番、町内自治会長等が集い、防災・防犯情報交換会を、7月には防災講座を実施。 ・地区部会は地域住民に対し、防災への意識づけ、声かけ等の支援を実施。
301(作草部・天台)地区部会	・広報紙「301地区社協だより」を活用し、地域の人、組織が行っている活動や役割を、地域住民へ周知・啓発。 ・地区部会理事には、町内自治会長、民生委員、福祉活動推進員、学校、幼稚園、保育所(園)、PTA、各種施設、青少年育成関係者、老人クラブ、日赤奉仕団等、地域で活動している人、組織を登用。このことにより、互いに協力しやすい環境にしている。	・ボランティアとして活動している人にお誘いの声かけを行う。 ・役員を辞めた人に対しては、活動の対象を少なくし、ボランティアとして残ってもらう。 ・町内自治会への働きかけ。	・敬老会や社協まつり等の行事開催時には、地域内の小中学校へ働きかけを行い、生徒のボランティア活動への参加を通し、人材の発掘に努めている。 ・地区部会事業に係るボランティアは、各担当者が自らの人脈を活用し、必要な人数を確保、活動の体験を育成の場としている。	・18年度、市社協のパイロット事業で防災マップを作成したのを機に、防災に対する意識が高まる。 ・20年度、県地域福祉フォーラム助成事業として「301地区防災連絡会(社協理事、各防災会より2～3名)」を設立し、地域の共通課題に取り組む。 ・H24年度、「39地区区内設置避難所運営委員会(社協理事、施設鍵の保管者、施設長)」を準備、25年度に設立。 ・地区内4避難所ごとの特性に沿ったマニュアルを作成。	・県の地域福祉フォーラム助成事業の一環として救急医療情報プラスセル(冷蔵庫保管型)を65歳以上の独居高齢者、日中独居高齢者、介護世帯、母子世帯等必要な世帯を対象に配布、活用。現在は、町内自治会を通し、希望者全てに配布。 ・登録型カードや携帯用カードは、今後各町内自治会の責任のもと、必要に応じて導入を検討。(並行して課題の整理にも取り組む)	・広報紙の活用 ・町内自治会ごとの防災訓練 ・「無事です」ステッカーを使っての合同防災訓練 ・安否確認訓練 ・講座開催
緑・黒砂地区部会	・緑町小、緑町中、黒砂公民館の3会場で、3～4の町内自治会が合同防災訓練を実施。 ・納涼祭、公民館文化祭、社協まつり、昔あそび等の各行事を、地区部会、町内自治会、学校、公民館等と連携、協力して実施。	・入門V講座参加者に、講座修了後の活動場所として、地区部会活動を紹介、結果ボランティアとして活動に参加している。 ・町内自治会回覧板により地区部会スタッフ公募の呼びかけを行い、結果2名のスタッフの確保につながる。今後育成にも取り組んでいく。	・入門V講座参加者に、講座修了後の活動場所として地区部会活動を紹介したところ、ボランティアとして活動に参加。 ・町内自治会回覧板により地区部会スタッフ公募の呼びかけを行い、結果2名のスタッフの確保につながる。	・緑町小、緑町中、黒砂公民館の3会場で3～4の町内自治会で合同防災訓練を実施。 ・納涼祭、公民館文化祭、社協まつり、昔あそび等の各行事を、地区部会、町内自治会、学校、公民館等と連携、協力して実施。	・65歳以上の方を対象に、安心カード(A4サイズ)の配布を継続。 ・社協まつり等の諸行事開催時に希望者へ配布。 ・万一来備え、外出時に携帯用を持参すること、家の中の見えるところへ貼り出しておくよう呼びかけを行う。	・子ども会が中心となり、小学校にて1泊2日の避難所体験を毎夏に実施。 ・緑町小、緑町中、黒砂公民館の3会場で、3～4の町内自治会が合同防災訓練を実施。
小中台西地区部会	・兄弟関係にある小中台東地区部会との連絡会を定期開催し、共催の社協まつり、子育てサロン等の運営、実施にあたり、連携、協力のもとで進めている。	・ボランティア講座「地域で認知症患者を支えるには」を開催。町内自治会長、民生委員、推進員、食生活改善推進員等の参加があり、近年増加傾向にある認知症患者の特徴等を共に学び、人材育成に努めた。	・広報紙を見た方から、区事務所へ「地域活動を手伝いたい」との要望があり、地区部会役員へつないだ結果、直ちに活動に参加し、推進員に就任することとなった。	・兄弟関係にある小中台東地区部会との連絡会を定期開催し、共催の社協まつり、子育てサロン等の運営、実施にあたり、連携、協力のもとで進めている。	・救急医療キットと携帯用カードの両方を、70歳以上の方を対象に現在も配布を続け、活用を呼びかけている。	・地区部会が主催する活動は行っていないが、各町内自治会では、自主防災組織を中心に避難訓練や防災活動を実施。
弥生地区部会	・昨年度12月、地域住民を対象に「ハーティちゃんの日」と題したお楽しみ会を開催。地区部会を中心に、町内自治会役員、地域住民等との連携、協力のもとでの実施となった。	・地区部会役員としても活動している新任民生委員(25年度の一斉改選により新任)について、以前より目をつけていた方にアプローチした結果、民生委員となり、地区部会活動にも参加している状況にある。	・地区部会役員としても活動している新任民生委員(25年度の一斉改選により新任)について、以前より目をつけていた方にアプローチした結果、民生委員となり、地区部会活動にも参加している状況にある。	・H25年12月、地域住民を対象に「ハーティちゃんの日」と題したお楽しみ会を開催。地区部会を中心に、町内自治会役員、地域住民等との連携、協力のもとでの実施となった。	・エリア内の全住民を対象に22年度から配布を開始し、現在も継続。	・現時点において、地区部会が主体の取り組みはなし。 ・弥生町自治会において、自主防災組織による訓練等を実施。

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26. 3. 31時点)

区分／地区部会名	①小中台東地区部会	②山王地区部会	③轟・穴川地区部会	④稲毛地区部会	⑤稲丘地区部会	⑥千草台中学校地区部会	⑦草野地区部会	⑧緑が丘地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 21,499人、8,972世帯 2. 区域内単位町内自治会数 33 3. 高齢化率 21.0%(4,514／21,499(人)) 4. 特徴 地区部会の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。	1. 人口及び世帯数 15,340人、6,857世帯 2. 区域内単位町内自治会数 11 3. 高齢化率 23.7%(3,633／15,340(人)) 4. 特徴 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。	1. 人口及び世帯数 11,773人、5,447世帯 2. 区域内単位町内自治会数 23 3. 高齢化率 20.9%(2,455／11,773(人)) 4. 特徴 戦時中、稲毛区役所、稲毛保健福祉センター等の敷地は戦車学校が建つ軍用地であった。その後が開発が進み、エリアには戸建て住宅、市営・県営住宅、マンション等が立ち並ぶ。文教のまちな呼称でも親しまれ、公共機関(教育施設、行政施設等)を内包する。	1. 人口及び世帯数 10,762人、4,842世帯 2. 区域内単位町内自治会数 16 3. 高齢化率 20.7%(2,232／10,762(人)) 4. 特徴 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、昭和の埋め立てが始まる前は、浅間神社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔のまちとして栄えた。エリア内には、JR線と京成線が走り、また、南部には国道も敷かれており、どこへの移動も大変便利である。	1. 人口及び世帯数 11,387人、5,222世帯 2. 区域内単位町内自治会数 6(と1マンション区(*)) 3. 高齢化率 19.0%(2,162／11,387(人)) 4. 特徴 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地部で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。エリアは6つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区(*)が小学校区は稲丘小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	1. 人口及び世帯数 10,979人、5,397世帯 2. 区域内単位町内自治会数 9 3. 高齢化率 30.6%(3,357／10,979(人)) 4. 特徴 2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等があり全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールが走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内3位の36%である。	1. 人口及び世帯数 18,467人、8,159世帯 2. 区域内単位町内自治会数 21 3. 高齢化率 25.2%(4,652／18,467(人)) 4. 特徴 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている。昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、昭和41年に入居開始から48年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で4番目の高齢化率(35%)、住民の3人に1人は高齢者となっている。高齢者(高齢化・孤立死等)と子育て(低所得・家庭崩壊等)の2つが顕著な問題である。	1. 人口及び世帯数 18,970人、8,169世帯 2. 区域内単位町内自治会数 27 3. 高齢化率 28.6%(5,419／18,970(人)) 4. 特徴 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい住民とが融合している。
主な成果	・地域で活動している人・組織同士との連携・協力の推進にあたり、「町内自治会・地区部会情報交換会」を定期開催し、日頃の活動の中で感じた問題点の共有、災害や見守り活動に関する研鑽等を図った。 ・「町内自治会・地区部会情報交換会」参加者同士の意見交換、情報共有が図られた。 ・親子をはじめ、地域住民を対象とした事業「つくってあそぼう」では、一般のボランティアに加え、中学生のボランティアの協力を得られた。 ・兄弟関係にある小中台西地区部会との連絡会を定期開催し、共催の社協まつり、子育てサロンの運営等、実施にあたり連携、協力を図っている。	・今年で2年目となる地区部会、公民館共催の防災訓練を実施。 ・災害時に対応できるよう地域住民の研鑽を図った。	・ふれあい食事サービスのボランティアに入れ替えがあり、新たな担い手の確保ができたとともに、当該サービスに必要な知識の習得を図った。	・概ねすべての重点取組項目で成果が出ている。 ・重点取組項目以外では、「健康づくりの普及・啓発」「地域でできる介護予防の普及」の項目にあたる、ふれあい・いきいきサロンの体操、歌の会等が、健康づくりに最適であり、医療費削減の一助となっている。	・25年度の敬老会開催にあたり、安心カード2種<((1)冷蔵庫置きタイプ(2)首にかける携帯タイプ)>を準備し、地域内の全対象者への配布、活用と携帯の呼びかけを行ったところ、段階的にではなく、一気に導入を図ることができた。	・地域をあげて実施する各種行事においては、地区部会をはじめ、連協、民児協、学校、公民館等との良好な連携、協力関係のもとで取り組みが行われている。 ・エリア内で行事を開催するにあたり、各町内自治会で「地域をあげて」があたりまえの認識として共有されている。 ・学校と地域の関係は良好で、毎年7月には地域を知る、地域に住む人を知ることを目的に、9町内自治会長が児童に対し話をする地区児童会を開催。	・救急医療キット、あんしん登録カード、避難訓練等、「安心カードの作成と活用」「災害時に対応した地域住民の研鑽を図る」の2つの重点取組目への取り組みが図られた。 ・エリア内において、取り組みが広がりがつつあることが成果。	・「地域で活動している人・組織同士との連携・協力」の重点取組項目にあたり、青少年育成委員会主催の文化と遊びとスポーツの祭典「緑ンピック」に対し、地区部会をはじめ、スポーツ振興会、地区民児協、連協、近隣小中高校、ボランティア等々が一体となり開催、チームワークのもとで当該地区あげての恒例行事となっている。
課題	・地区部会エリアの中で、自治会として機能していないところや、自治会のない小さなアパートなどがあり、地域の中の情報共有が困難。 ・地域の情報共有が困難なエリア、アパートに転入してくる方の状況把握ができない状況にあり、対応に苦慮している。	・今後の地区部会活動継続にあたり、後進の育成、発掘が思うように進んでいない。 ・先を託せる担い手の確保が必要。	・福祉活動に関心の高い町内自治会があることから、今後は地区部会と各町内自治会がいかに連携し、活動の何を見出していくかが課題。 ・地域福祉活動については、地域の実情に合わせながら、自主的、自発的に取り組める環境づくりに努めていく必要がある。	・以前より取り組んでいる「ちょこっとボランティア」の実施にあたり、買い物やゴミ出しの担い手が見つかり難く、発掘の必要性がある。 ・買い物やゴミ出しをしてほしい方と協力者のマッチングが難しい。現在は無料で対応しているが、無料ならではの難しさもあり、有償化も検討中。	・様々な人、組織、地域活動が結びついて、はじめて福祉のまちづくりがなされるが、それぞれの活動がどのような仕組みで成り立っていくのかという話し合いを十分にしていかなければならない場合があり、課題である。	・「地域をあげて」行う取り組みが、今後途絶えることなく続けられる体制の維持、さらには先を託せる体制づくりが課題。	・エリア内の全町内会一様には進まないが、向こう三軒両隣の再構築、災害への危機意識、救急医療キットやあんしんカードへ未着手の自治会に対し、意義の説明、取組実施について、議論、検討の必要がある。 ・「無事ですすカード」を使った安否確認の取り組みは3町内自治会で実施しており、ゆるやかながらもさらに広がりがつつあるため、その拡大が今後の課題。	・活動の中核となれる人材の発掘、ボランティアの人材育成等、次の担い手となるスタッフの確保がなかなかできず、対応に苦慮している。 ・現役員、スタッフは熱意をもって元気に活動しているが、高齢化していることから、先のことを見据え、活動を託せる後進の発掘、育成が必要不可欠。

区分／地区部会名	⑨301(作草部・天台) 地区部会	⑩緑・黒砂地区部会	⑪小中台西地区部会	⑫弥生地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 8,575人、3,944世帯 2. 区域内単位町内自治会数 14 3. 高齢化率 21.5%(1,841／8,575(人)) (25年5月調査時に309地区から移動した天台2.3丁目の一部の予想数が入っている。人口400人、300世帯、高齢者100人) 4. 特徴 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5カ所、350世帯ある。	1. 人口及び世帯数 7,364人、3,661世帯 2. 区域内単位町内自治会数 7 3. 高齢化率 20.1%(1,480／7,364(人)) 4. 特徴 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目をエリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。	1. 人口及び世帯数 19,014人、8,637世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18 3. 高齢化率 20.7%(3,934／19,014(人)) 4. 特徴 小仲台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。	1. 人口及び世帯数 673人、500世帯 2. 区域内単位町内自治会数 3 3. 高齢化率 16.3%(110／673(人)) 4. 特徴 稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会、東京大学西千葉宿舎自治会の3町内自治会で構成され、総世帯数は約500世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。
主な成果	・24年度は地区部会主体で呼びかけを行い、避難所運営委員会設立準備会を立ち上げ、翌25年度には避難所の施設管理者、町内自治会長、民生委員、地区部会が連携、協力し、避難所運営委員会を開設した。 ・素早く安否確認ができるよう「無事です」ステッカーを作り、防災訓練、日常の見守りに使用。 ・救急医療情報カプセルを町内自治会経由で希望者全員に配布。	・入門V講座参加者の終了後の活動の場になったり、町内自治会回覧板による地区部会スタッフ公募の呼びかけを行った結果、スタッフの確保につながった。 ・活動への参加の手ごたえ(地域で声かけがしやすくなった。問合せがある。等)を感じている。	・23年度から取り組み始めた安心カード(救急医療情報キット)の作成と活用について、70歳以上の方を対象に現在も配布を続け、活用を呼びかけている。 ・24年度から取り組んでいる安心カード(携帯用)の配布を続けており、冷蔵庫保管用と携帯用をともに備えることで、家庭内、外出先での「もしも」の時への相互補完に努めている。	・22年度から始めた安心カードの配布を現在も続けており、配布対象も高齢者だけでなく、すべての住民とした。 ・街中や通りで会う方には声をかけたり、見守るなどの安否確認を行っている。
課題	・地域住民が必ずしも地域にある保育所(園)、幼稚園へ通っているとは限らないため、小学校入学前の幼児の把握が困難。	・安心カードの作成と活用には、以前(19年度パイロット事業)より取り組んでいるが、配布済の方の把握、毎年状況変化に対応したカードの更新作業等、新たな課題には未着手。	・自治会未加入地域への連絡が思うようにいかず、難しさに直面。	・活動の中核となれる人材の発掘、ボランティアの人材育成に苦慮。 ・人材発掘、育成を一步步ずつ進め、災害対策への取り組みや、22年度以降見直し、差し替え等を行っていない安心カードの更新作業等が必要。

第2期若葉区地域福祉計画の推進状況

(1) 第2期計画の重点項目における主な成果 (H26.3.31時点)

重点取組項目	主な成果
①向こう三軒両隣ふれあい運動の推進	○3つの地区部会で、民生委員・児童委員等と連携し、高齢者宅等を訪問して声かけや慰問品の配布を実施。
②子どもたちを見守り育てる活動の実施	○ふれあい子育てサロン ・桜木地区部会、加曽利地区部会、結・みつわ台地区部会、若松地区部会にて活動開始。 ・若松地区部会では、若松高校での子育てサロンを開催。 ・その他3地区部会で、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を実施。 ○小学生と地域高齢者の交流として給食会を実施 ・御成台、千城台西・北地区部会
③公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	○区内の公園等27ヶ所で、住民の交流の場となるラジ体操を実施。 ○6つの地区部会で、地域の各団体と連携して地域住民の交流の場となるグラウンドゴルフ大会や芋煮会等の行事を企画・開催。
④福祉施設等でのふれあい交流活動の実施	○5つの地区部会で、福祉施設におけるボランティア活動や行事への参加を通じた交流活動を実施。
⑤気軽に過ごせる拠点（ふれあいハウス・サロン・センター）の創出	○12の地区で、地区部会や町内自治会、老人クラブ等が高齢者の交流を目的にしたふれあいサロンを実施。
⑥多様な仲間づくり、市民活動の促進	○8つの地区で、地区部会や町内自治会等が、高齢者の交流や見守りを目的とした会食会や配食サービスを実施。 ○2つの地区部会で、障がいのある方向けの交流バス旅行事業や、誰でも参加できるコンサート等を企画・実施。

重点取組項目	主な成果
⑦計画を浸透させるために※仕組みづくりの啓発活動（助けあいシステムへのきっかけ施策として）	○地域住民に地域福祉計画や支えあい活動の必要性を理解してもらうために、区推進協議会委員や職員（行政、社会福祉協議会区事務所）が町内自治会等を訪問し、地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。 （75町内自治会）
⑧活動の中核となれる人材の発掘	○各地区部会で、町内自治会や広報紙を通じて、福祉活動推進員やボランティアを募集。
⑨「わたしたちのまちの福祉を考える会（仮称）」の設置	○3つの地区で、町内自治会内または有志による、地域の福祉について考える組織を設置。 ○1つの地区部会で、あんしんケアセンターや各団体と連携して、地域の福祉課題等について検討する「地域ケア会議」を設置。
⑩助けあい支えあいシステム	○たすけあい活動 ・小倉地区部会、加曽利地区部会、若松台3丁目自治会、加曽利新和自治会、みつわ台ハイツ自治会にて活動開始 ○見守り活動 ・加曽利地区部会、いずみ台ローズタウン自治会、野呂自治会にて活動開始 ・26地区部会では、連協と連携し検討開始 ○あんしんカードの実施 ・結・みつわ台地区部会、都賀地区部会、雇用促進住宅愛生宿舎自治会にて活動開始
⑪地域でできる介護予防	○5つの地区で、地区部会や町内自治会が散歩を通じた高齢者の健康保持と交流を目的とした「ふれあい・散歩クラブ」「歩こう会」等を実施。 ○6つの地区部会で、介護予防を目的とした「健康教室」や「健康体操講座」等を実施。

(2)第2期計画の重点項目における地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	向こう三軒両隣ふれあい運動の推進	子どもたちを見守り育てる活動の実施	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	福祉施設等でのふれあい交流活動の実施	気軽に過ごせる拠点(ふれあいハウス・サロン・センター)の創出	多様な仲間づくり、市民活動の促進	仕組みづくりの啓発活動(助けあいシステムへのとっかかり施策として)	活動の中核となれる人材の発掘	「わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)」の設置	助けあい支えあいシステム	地域でできる介護予防
坂月地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地域住民と小学校が連携し、子どもと地域住民のお茶摘み交流事業を実施。	・地区部会が小学校と連携し、地域住民と交流しながら花壇を整備する「花と心の通う道」を実施。 ・地区部会が地域の各団体と連携し、地域住民の交流の場となる「グラウンドゴルフ大会」を実施。		・一部の老人クラブで、高齢者の交流を目的とした「ふれあいサロン」を実施。		・3つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と、地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。			・地区部会が、散歩を通して高齢者の健康保持と交流の場となる「ふれあい・散歩クラブ」を実施。
貝塚地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・自治会が、子どもを対象とした「おはなし会」を実施。	・地区部会が、異世代交流事業である「芋煮会・風揚げ大会」を地域内の各団体と連携して実施。 ・地域内の公園等1ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。	・地区部会役員と民生委員・児童委員が協力し、乳児院で定期的にボランティア活動を行った。	・一部の町内自治会で、高齢者の交流を目的とした「ふれあいサロン」を実施。		・1つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。			・地区部会が、介護予防を目的とした「健康セミナー」を地域内の各団体と連携して実施。
桜木地区部会	・地区部会と民生委員・児童委員が連携し、一人暮らし高齢者、寝たきり高齢者を訪問して声かけ等を実施。	・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を1会場で概ね月1回開始。	・地区部会が地域の各団体と連携し、地域住民の交流の場となる「グラウンドゴルフ大会」を実施。 ・地域内の公園等3ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を3会場で概ね月1回開始。	・地区部会が、高齢者の交流の場となる会食会を実施。	・6つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。	・一部の町内自治会内で、地域の福祉について考える組織を設置。	・1つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・1つの町内自治会で、高齢者等の日常的な見守り活動を実施。	・地区部会が、介護予防を目的とした「健康教室」を実施。
小倉地区部会	・地区部会と民生委員・児童委員が連携し、一人暮らし高齢者等を訪問して声かけ等を実施。	・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、小学校の新入学児童に文房具とメッセージカードを配布。 ・地区部会が、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を1会場で概ね月2回実施。 ・地区部会が、ひとり暮らし高齢者と小学生の交流会や昔遊び会を実施。	・地域内の公園等1ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・地区部会としてモノレール小倉台駅に拠点事務所を開設。 ・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を1会場で概ね月1回実施。	・地区部会が、高齢者の交流の場となるふれあい食事サービス(会食)を実施。 ・地区部会が大学と連携し、高齢者や障がいのある方、地域の誰でも参加できる吹奏楽コンサートを実施。	・1つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・地区部会としてモノレール小倉台駅に拠点事務所を開設。 ・「小倉地区部会たすけあいの会」を設立し、ゴミ出し、草取り、買い物支援等日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(有償)を開始。	・地区部会が、散歩を通して高齢者健康保持と交流の場となる「ふれあい・散歩クラブ」を実施。
白井地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地域の各団体が連携し、子どもを含めた地域住民が交流できる「しらい町民フェスティバル」を開催。 ・地区部会が小学校と連携し、小学生と地域の高齢者との交流事業を実施。		・地区部会役員と赤十字奉仕団員が連携し、障害者福祉施設や高齢者福祉施設の行事を支援。	・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を5会場で概ね月1回実施。	・一部の町内自治会が、高齢者の交流の場となる会食会を概ね月1回実施。	・地区部会が、役員や地域住民を対象としたボランティア講座を実施。 ・地区部会役員等が、他の地区の見守り活動等の先進事例について学ぶ勉強会を実施。 ・6つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・1つの町内自治会で、モデル的に見守り体制の整備について検討し、活動を開始。 ・1つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(無料)を実施。	・地区部会が、散歩を通して高齢者の健康保持と交流の場となる「ふれあい・散歩クラブ」を実施。
更科地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、地域内の各団体と連携して、異世代交流事業である「親子風揚げ大会」を実施。 ・地区部会が、中学校と連携して中学生との対話集会を実施。			・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を1会場で概ね月1回実施。		・4つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。			
御成台、千城台西・北地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が小学校と連携し、小学生と高齢者の交流の場となる「給食会」を実施。 ・地区部会が公民館と連携し、子どもを対象とした体験教室等を実施。	・地域内の公園等3ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を2会場で概ね月1回実施。	・地区部会が、高齢者の交流の場となる「ふれあい食事サービス(会食会)」を年2回実施。	・7つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。	・1つの町内自治会内で、地域の福祉について考える組織を設置。	・1つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	・地区部会が、介護予防を目的とした「いきいき健康体操」を年3回実施。

(2)第2期計画の重点項目における地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	向こう三軒両隣ふれあい運動の推進	子どもたちを見守り育てる活動の実施	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	福祉施設等でのふれあい交流活動の実施	気軽に過ごせる拠点(ふれあいハウス・サロン・センター)の創出	多様な仲間づくり、市民活動の促進	仕組みづくりの啓発活動(助けあいシステムへのとっかかり施策として)	活動の中核となれる人材の発掘	「わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)」の設置	助けあい支えあいシステム	地域でできる介護予防
千城台東南・金親地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、子どもを対象とした体験教室を実施。 ・地区部会が、小学校の実施する「昔遊び」等に協力。 ・地区部会が公民館と連携し、子どもを対象とした体験教室等を実施。	・地区部会が、高齢者の交流の場となる「グラウンドゴルフ大会」を実施。 ・地域内の公園等6ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を3会場で概ね月1回実施。		・7つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・地区部会内にボランティア登録の仕組みをつくり、地区部会役員及び登録ボランティアによる「たんぼぼ会」「だだちゃの会」設立。 ・ゴミ出し、草刈り等、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(無償)を実施。 ・1つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・2つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	・地区部会が、あんしんケアセンターと連携し、「介護予防・介護保険講座」を実施。
26地区部会	・地区部会と民生委員・児童委員が連携し、高齢者世帯等を訪問して餅の配布・声かけ等を実施。	・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会や町内自治会が、子育て中の親同士の交流を目的とした子育てサロンを2会場で概ね月1回実施。 ・地区部会が、各町内自治会等と連携し、子どもを対象した交流事業「子どもの集い」を実施。	・地区部会が、地域の各団体と連携し、高齢者の交流の場となる「グラウンドゴルフ大会」を実施。 ・地域内の公園等1ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。	・地域住民で結成されたボランティアグループが、高齢者福祉施設で定期的にボランティア活動を実施。	・地区部会や町内自治会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を実施。	・地区部会が、高齢者の交流の場となる会食会を定期的に実施。	・3つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・2つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・2つの町内自治会で、電話による高齢者等の安否確認を実施。 ・地区部会と町内自治会が連携し、見守り体制の整備について検討を開始。 ・1つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	・一部の町内自治会で、健康保持を目的とした「歩こう会」を実施。
若松地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会や町内自治会が、子育て中の親同士の交流を目的とした子育てサロンを2会場で隔月1回実施。 ・地区部会が高校と連携し、高校生と親子がふれあう子育てサロンを実施。	・地域内の公園等5ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。	・地区部会が高校や保育園と連携し、高校生の保育体験、園児との交流事業を実施。	・町内自治会や老人クラブ等で、高齢者の交流の場となるふれあいサロン等を実施。		・7つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・2つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・3つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	
加曾利地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を1会場で概ね月1回実施。	・地区部会が、地域住民の交流の場となる「グラウンドゴルフ」を定期的に実施。 ・地域内の公園等2ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。	・地区部会が、障害者福祉施設の行事等に参加し、施設利用者等と交流。 ・地区部会が高齢者福祉施設等にボランティアを派遣し、余暇活動の支援等を実施。	・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を3会場で概ね月1回実施。	・地区部会が、高齢者との交流・声かけのきっかけとなる「ふれあい食事サービス(配食)」を実施。 ・一部の自治会が、高齢者の交流の場となる会食会を概ね月1回実施。	・地区部会が、町内自治会のイベント等へ、機材の貸し出し及び地区部会役員の派遣を行い、町内自治会との対話のきっかけづくりを行った。 ・4つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。	・地区部会があんしんケアセンターや各団体と連携し、地域の福祉課題等について検討する「地域ケア会議」を設置。 ・地区部会が地域の福祉課題等について意見交換や検討を行う「地域戦略会議」を週1回実施。	・地区部会及び1つの町内自治会が、地域の障害者福祉施設と連携して地区部会の拠点を確保するとともに、庭木の剪定や草刈り、病院の付添い等、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(有償)を実施。 ・地区部会が地域の新聞店等と連携し、高齢者の安否確認体制を整備。 ・地区部会が、町内自治会や民生委員・児童委員と連携し、見守り希望者の募集・登録及び情報の共有化を実施。 ・地区部会が町内自治会や民生委員・児童委員と連携し、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	・地区部会が、散歩を通して高齢者の健康保持と交流の場となる「ふれあい・散歩クラブ」を実施。 ・地区部会が、介護予防等を目的とした「健康講話集会」を実施。
都賀地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を1会場で概ね月1回実施。	・地域内の公園等2ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・一部の町内自治会で、住民の交流を目的とした体験教室、勉強会等を実施。		・3つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。	・一部の町内自治会内で、地域の福祉について考える組織を有志により設置。	・地区部会が町内自治会や民生委員・児童委員と連携し、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時に対応する情報カード)」を配布。 ・3つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・2つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時の対応する情報カード)」を配布。	

(2)第2期計画の重点項目における地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	向こう三軒両隣ふれあい運動の推進	子どもたちを見守り育てる活動の実施	公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	福祉施設等でのふれあい交流活動の実施	気軽に過ごせる拠点(ふれあいハウス・サロン・センター)の創出	多様な仲間づくり、市民活動の促進	仕組みづくりの啓発活動(助けあいシステムへのとっかかり施策として)	活動の中核となれる人材の発掘	「わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)」の設置	助けあい支えあいシステム	地域でできる介護予防
結・みつわ台地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。 ・地区部会が、子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を2会場で概ね月1～2回実施。	・地域内の公園等3ヶ所で、住民の交流の場となるラジオ体操を実施。		・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」を3会場で概ね月1回実施。		・16の町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・地区部会としてモノレールみつわ台駅に拠点事務所を設置するとともに、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時に対応する情報カード)」を民生委員・児童委員と連携して配布。 ・2つの町内自治会で、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービスを実施。 ・1つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード」を配布。 ・1つの町内自治会で、高齢者等の日常的な見守り活動を実施。	・地区部会が、介護予防を目的とした健康体操講座を実施。
千城小地区部会		・地区部会役員、町内自治会役員、民生委員・児童委員等地域住民が個別にセーフティウォッチャーとして子どもたちの見守りに対応。				・一部の町内自治会が、高齢者の交流の場となる会食会を概ね年5回実施。	・4つの町内自治会で、区推進協議会委員や職員(行政、社会福祉協議会区事務所)と地域の現状や将来予測、支えあい活動等について意見交換を実施。	・地区部会が、各町内自治会を通じて福祉活動推進員やボランティアを募集。		・1つの町内自治会が、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード」を配布。	

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)

区分／地区部会名	① 坂月地区部会	② 貝塚地区部会	③ 桜木地区部会	④ 小倉地区部会	⑤ 白井地区部会	⑥ 更科地区部会	⑦ 御成台、千城台西・北地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 3,751人、1,651世帯 2. 区域内単位町内自治会数 5 3. 高齢化率 22.5%(843／3,751(人)) 4. 特徴 対象エリアが広い。各自治会で自治会館を有しているが、その他の社会資源は少ない。高齢化率が高く、元気な農家の高齢者が多い。戸建て住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきている。1世帯あたり人員が区内で最も多い(2.27人)。	1. 人口及び世帯数 5,968人、3,092世帯 2. 区域内単位町内自治会数 9 3. 高齢化率 18.4%(1,099／5,968(人)) 4. 特徴 区内では高齢化率が最も低く、また、1世帯あたり人員も少ない(1.93人)。代々続く旧家の多いエリアと、賃貸集合住宅の多いエリアがあるエリアでは、二世帯、三世帯同居の家も多い。集合住宅の割合が高い。	1. 人口及び世帯数 15,068人、6,762世帯 2. 区域内単位町内自治会数 20 3. 高齢化率 22.9%(3,448／15,068(人)) 4. 特徴 対象エリアが広く、さらに幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えている。戸建・長屋住宅の割合が高い。	1. 人口及び世帯数 12,804人、5,724世帯 2. 区域内単位町内自治会数 12 3. 高齢化率 28.0%(3,589／12,804(人)) 4. 特徴 高齢化が進み、高齢者世帯、独居高齢者が増えてきているが、元気に活動している方も多い。戸建住宅が多いエリアで、新たな住宅地が作られているところもあり、区内では乳幼児のいる世帯割合が高い。	1. 人口及び世帯数 7,227人、3,412世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18 3. 高齢化率 39.7%(2,868／7,227(人)) 4. 特徴 対象エリアが非常に広い。高齢化率、後期高齢化率が高い一方で、乳幼児のいる世帯割合は低い。大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられそれぞれ異なる歴史・成り立ちを持つ。昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	1. 人口及び世帯数 2,770人、1,263世帯 2. 区域内単位町内自治会数 13 3. 高齢化率 34.6%(957／2,770(人)) 4. 特徴 対象エリアが非常に広いが、世帯数は少ない。多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くない。高齢化率は高いが、現役農家世帯も多く、元気な高齢者が多い。戸建て・長屋住宅の割合が非常に高い。	1. 人口及び世帯数 10,483人、4,721世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18 3. 高齢化率 31.6%(3,315／10,483(人)) 4. 特徴 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がり、公共施設等も多く設置されている。高齢化率、後期高齢者率が高い。対象とする自治会数や、世帯数、人口が多い。
主な成果	・地区部会が小学校と連携し、地域住民と交流しながら花壇を整備する「花と心の通う道」を実施。	・地区部会が、異世代交流事業である「芋煮会・風揚げ大会」及び介護予防を目的とした「健康セミナー」を地域内の各団体と連携して実施。	・地区部会が、主に高齢者の仲間づくりや交流を目的とした「ふれあい・いきいきサロン」及び子育て中の親同士の交流を目的とした「ふれあい・子育てサロン」を開始。	・地区部会としてモノレール小倉台駅に拠点事務所を開設するとともに、「小倉地区部会たすけあいの会」を設立。 ・ゴミ出し、草取り、買い物支援等、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(有償)を開始。	・エリア内の1自治会で、モデル的に見守り体制の整備について検討し、活動を開始。	・地区部会が、異世代交流事業である「親子風揚げ大会」を地域内の各団体と連携して実施。	・地区部会が学校や公民館等と連携し、「ふれあい給食会」や、子どもを対象とした体験教室等、異世代交流事業を実施。
課題	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。	・地区部会未加入自治会への広報・啓発。 ・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・助けあい活動を基盤とした見守り活動の検討。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・見守り活動を始めた自治会をモデルとして、エリア内の他の自治会でもそれぞれ実施に向けた検討を行う。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。	・事業の担い手となる福祉活動推進員及びボランティアの確保。 ・地区部会の拠点整備に関する調査・検討。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。

区分／地区部会名	⑧ 千城台東南・金親地区部会	⑨ 26地区部会	⑩ 若松地区部会	⑪ 加曾利地区部会	⑫ 都賀地区部会	⑬ 結・みつわ台地区部会	⑭ 千城小地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 11,370人、5,404世帯 2. 区域内単位町内自治会数 17 3. 高齢化率 33.9%(3,857／11,370(人)) 4. 特徴 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がり、公共施設等も多く設置されている。集合住宅、特に3階建て以上の集合住宅の割合が高い。対象とする自治会数や、世帯数、人口が多い。	1. 人口及び世帯数 8,154人、3,598世帯 2. 区域内単位町内自治会数 8 3. 高齢化率 43.1%(3,512／8,154(人)) 4. 特徴 高齢化率、後期高齢者率、高齢者のみ世帯の割合が区内で最も高く、一部の地域では、50%を超えている。戸建て・長屋住宅が多い。	1. 人口及び世帯数 19,761人、8,691世帯 2. 区域内単位町内自治会数 13 3. 高齢化率 24.9%(4,923／19,761(人)) 4. 特徴 対象エリアが広く、人口、世帯数とも非常に多い。戸建て住宅の多いエリアと、賃貸集合住宅のあるエリアが混在している。一部の自治会では、高齢化率が50%近くになっている。	1. 人口及び世帯数 6,557人、3,024世帯 2. 区域内単位町内自治会数 7 3. 高齢化率 29.0%(1,899／6,557(人)) 4. 特徴 古くから農業を営む世帯の多い地域、戸建住宅の多い地域、最近新たにつくられた振興住宅地がある。エリア内の学校は中学校のみ(小学校なし)。	1. 人口及び世帯数 13,590人、6,840世帯 2. 区域内単位町内自治会数 10 3. 高齢化率 26.9%(3,653／13,590(人)) 4. 特徴 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸集合住宅が多い地域がある。対象世帯数が多い。一部の地域では高齢化率が50%近くになっている。一世帯あたりの人口が少ない。	1. 人口及び世帯数 24,729人、10,609世帯 2. 区域内単位町内自治会数 36 3. 高齢化率 22.2%(5,492／24,729(人)) 4. 特徴 対象のエリアが広く、世帯数、自治会数、中学校数とも非常に多い。戸建住宅と集合住宅地が混在しているが、3～5階建集合住宅の割合が高い。高齢化率はそれほど高くなく、10%代のエリアもある。	1. 人口及び世帯数 2,917人、1,389世帯 2. 区域内単位町内自治会数 10 3. 高齢化率 39.6%(1,155／2,917(人)) 4. 特徴 古くからの農家が多いエリア。高齢化率が高く、高齢者世帯が増加しているが、元気な高齢者も多い。幼児のいる世帯割合が区内で最も低い。戸建て・長屋住宅の割合が高い。
主な成果	・地区部会内にボランティア登録の仕組みをつくり、地区部会役員及び登録ボランティアによる「たんぼぼ会」「だだちの会」を設立。ゴミ出し、草刈り等、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(無償)を実施。	・地区部会が各町内自治会等と連携し、「落語会」や「子どもの集い」「会食会」等、高齢者や子どもを中心とした交流事業を実施。	・地区部会が高校と連携し、高校生が子をもつ親との交流を通して保育や地域の子育て支援等について学ぶ「子育てサロンin若松高校」を開始。	・地区部会が、地域の障害者福祉施設と連携して地区部会の拠点を確保するとともに、庭木の剪定や草刈り、病院の付添い等、日常のちょっとした困りごとに対応する助けあいサービス(有償)を開始。	・地区部会が町内自治会や民生委員・児童委員と連携し、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時に対応する情報カード)」を配布。	・地区部会としてモノレールみつわ台駅に拠点事務所を設置するとともに、高齢者への訪問や声かけのきっかけとなる「安心カード(緊急時に対応する情報カード)」を民生委員・児童委員と連携して配布。	・平成25年11月24日、若葉区内14か所目の地区部会として設立。具体的な事業は26年度より実施。
課題	・事業の担い手となるボランティアの確保。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。 ・地区部会及び地域活動の広報・啓発。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の各町内自治会や各団体との連携を強化。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。	・地域ケア会議等を活用した福祉課題の共有化と地域包括ケアシステムの確立。 ・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の各町内自治会や各団体との連携を強化。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の各町内自治会や各団体との連携を強化。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。	・事業の担い手となる新たなボランティアの確保。 ・地域内の各町内自治会や各団体との連携を強化。 ・地域内の福祉課題を把握し、それに対応する新たな事業の企画・実施。

第2期緑区地域福祉計画の推進状況

(1) 第2期計画の重点項目における主な成果 (H26.3.31時点)

重点取組項目	主な成果
①地域の行事に参加しよう	○各種行事を回覧版や地域情報紙を使い積極的に周知した。 ○高齢者や障害者という別なく、全世代対象の事業を企画し実施した。
②核家族の子育て不安を解消	○4地区部会中3地区で子育てサロンを実施している。 ○サロンの参加者は年々増えており、スタッフの勉強会も随時開催している。
③意見を聴衆する会・講演会の開催	○障害児者やその家族の意見を聞き、仲間作りを促進するためにサロンやイベントを開催している。(おゆみ野)
④学校との交流	○福祉教育の一環で学校と地域の交流を進めている。 ○ケアハウスと子ども達との手紙交流を開始。(菅田) ○高齢者施設入居者と小中学校との手紙交流を開始。(おゆみ野) ○中学校で子育てサロンを行っている。(土気) ○敬老会での中学生のボランティア参加(椎名)
⑤子どもたちへの支援	○食育として稲刈りから脱穀体験を行い、その米を使った高齢者との食事会を行い、異世代交流につなげている。また伝承文化として鞆鼓舞を学校と地域が連携して作り上げている。(椎名)
⑥元気な高齢者によるボランティアの支援	○小学生との昔遊びを通じて高齢者の知識・経験を生かすボランティア活動の場を整えている。
⑦災害時避難誘導体制の充実	○自治会が作成した災害マップを参考に推進協の小委員会で災害マップの内容等について協議し、マップに必要な項目の整理を行った。

重点取組項目	主な成果
⑧72時間(3日間)の自給生活の徹底	○災害対策コーディネーターを講師に招き、災害発生直後から避難所での取り組み方、災害のメカニズムについて講演会を開催した。
⑨地域の諸団体、行政機関との連携	○避難所運営委員会を設置し、防災訓練等を通じて、連携強化を図っている。
⑩安否の確認	○古市場団地にて、地域住民の見守り活動に合わせて、民間事業者と見守りに関する契約を行った。 ○鎌取町内会、おゆみ野泉谷自治会で見守り活動開始。 ○「推進協見守りネットワーク検討委員会」において、先進事例の視察、見守り体制について協議しており、自治会及び民生委員にアンケート調査を実施したほか、「見守り活動に関する講演会」を開催した。
⑪まちの安全点検	○未実施
⑫地域住民の実態把握	○一部の地域で住民アンケートを実施。
⑬移送サービス事業の検討	○未実施
⑭歩道等の改善	○未実施

(2)第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目名	地域の行事に参加しよう	核家族の子育て不安を 解消	意見を聴衆する会・講演会 の開催	学校との交流	子どもたちへの支援	元気な高齢者による ボランティアの支援	災害時避難誘導体制の 充実	72時間(3日間)自給生活 の徹底	地域の諸団体、行政機関と の 連携	安否の確認	まちの安全点検	地域住民の実態把握	移送サービス事業の検討	歩道等の改善
椎名地区部会	・高齢者や障害者などの対象を選別したイベントだけではなく、一般住民が多く参加できる「福祉バザー」を開催し、広く周知。	・未実施	・未実施	・敬老会で中学生にボランティアとして参加してもらうように学校側と連携している。	・椎名小学校と連携し、ふれあい食事サービスに小学生が訪問し高齢者との交流を年数回実施。 また逆に小学校のイベントに地区部会ボランティアとふれあい食事サービス参加者の高齢者を招いている。稲刈りを通しての食育も行っている。	・ふれあい食事サービスに椎名小学校の子ども達を招き、高齢者が昔遊びを教えている。	・未実施	・未実施	・避難所運営委員会を立ち上げ、地域諸団体が連携して対応。	・古市場団地では地域住民の見守り活動の他に民間事業所と契約して地域見守りを行っている。	・未実施	・未実施	・未実施	・未実施
菅田地区部会	・町内会単位でいきいきサロンを広め高齢者の居場所作りを進めている。	・緑保健福祉センターで毎月1回子育てサロンを開催。年間12回開催。毎回25組程度の親子が参加している。	・障害者施設の夏祭りに福祉活動推進員等が参加。	・ケアハウスほんたくらぶでは、こども達との手紙交流を進めている。(推進協小委員会)	・未実施	・老人クラブの活動で地域交流としてグラウンドゴルフや芸能大会を開催。	・鎌取町内会では災害マップを作成し、地域住民に配布し第1避難所から第3避難所を示し平常時から意識できるように働きかけている。	・未実施	・避難所運営委員会を立ち上げ、地域諸団体が連携して対応。	・鎌取町内会で地域住民の見守り活動を開始。	・未実施	・未実施	・未実施	・未実施
土気地区部会	・高齢者や障害者などの対象を選別したイベントだけではなく、一般住民が多く参加できる「ウォークラリー」や「福祉フェスティバル」を開催し、広く周知。	・土気あすみが丘プラザで月2回子育てサロンを開催。 ・地元中学校と協力し福祉教育の一環として中学校で子育てサロンを実施。 ・併せて年間27回開催。毎回20組程度の親子が参加している。	・未実施	・ふれあい体験学習として子育てサロンを中学校で行うために学校側と連携している。	・未実施	・未実施	・未実施	・地区連協主催で災害時での取り組みについて自給生活の取り組みの重要性も含めての講演会を開催。	・避難所運営委員会を立ち上げ、地域諸団体が連携して対応。	・大椎台自治会区域では希望者には電話による見守り活動を行っている。	・未実施	・バス路線の見直しのために地区連協が主導で住民アンケートを実施。	・未実施	・未実施
おゆみ野地区部会	・いきいきサロンや子育てサロン以外に障害者やその家族に対して「お楽しみ会」を年2回開催。 ・他団体が主催している行事に共催。	・鎌取CCとおゆみ野公民館で開催。年間6回開催し、毎回40組以上の親子が参加している。	・障害児者やその家族のために年2回のお楽しみ会、年3回のおしゃべり会を開催。 お楽しみ会は流しそうめん等のイベント、おしゃべり会はサロンのような仲間作りと相談の場。	・泉谷中学校や小谷小学校で、高齢者施設入居者との手紙交流を進めている(推進協小委員会)。	・未実施	・有吉小・扇田小・金沢小学校で異世代交流として高齢者が昔遊びを教えている。	・おゆみ野地区連協では、緑区の地域活性化支援事業助成金を得て、おゆみ野地区全域のマップを作成し、町内自治会員全世帯に配布。	・ボランティア講座として災害時での取り組みについて自給生活の取り組みの重要性も含めての講演会を開催。	・避難所運営委員会を立ち上げ、地域諸団体が連携して対応。	・おゆみ野泉谷自治会で地域住民による声かけ等の見守り活動を開始。	・未実施	・未実施	・未実施	・未実施

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)

区分／地区部会名	①椎名地区部会	②誉田地区部会	③土気地区部会	④おゆみ野地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 4,785人、2,023世帯 2. 区域内単位町内自治会数 17 3. 高齢化率 22.5%(1,077／4,785(人)) 4. 特徴 古くからの農村地帯と住宅地で高齢化率は高い。区域内にある小中学校と地域の連携は強い。人口・世帯数が少なく、ボランティアも少ない。昨年度から市営住宅団地で見守り活動がスタート。 自治会加入率:62%。	1. 人口及び世帯数 27,959人、12,109世帯 2. 区域内単位町内自治会数 31 3. 高齢化率 26.1%(7,284／27,959(人)) 4. 特徴 古くからの農村地帯と宅地造成された地域が混在する区域。宅地開発が続いているので新しい住民も入ってきてはいるが、緑区で一番高齢化率が高い。地区部会としてまとまった活動は少なく、個々の自治会での活動が中心。 自治会加入率:60.8%	1. 人口及び世帯数 45,439人、18,039世帯 2. 区域内単位町内自治会数 45 3. 高齢化率 23.0%(10,431／45,439(人)) 4. 特徴 外房線土気駅の北側と南側で新旧の街がある。北側は古くからの土気町が中心、南側は開発が始まって20年経ち今も開発中のあすみが丘。 中学校が4つある大きな地区である。 新旧住民が融合できている。 自治会加入率:68%	1. 人口及び世帯数 48,003人、17,910世帯 2. 区域内単位町内自治会数 57 3. 高齢化率 10.3%(4,935／48,003(人)) 4. 特徴 緑区で一番新しい住宅地域。住民が一番多く、高齢化率も低く、開発から30年経つがまだ宅地分譲が続いている。特に障害児者向けの活動が活発。 自治会加入率:約44%
主な成果	・高齢者の日中の居場所づくりとして、いきいきサロンをオープンした。あんしんケアセンターと連携して専門性の高い講座を実施したり気軽な相談窓口としても機能している。 ・見守り活動推進にあたり、古市場団地で全住民にアンケートを実施し、対象者とボランティアを同時に募集して活動を進めている。	・いきいきサロンを10カ所を実施し、ふれあい食事会(配食)を通じて高齢者の見守りに力を入れている。 ・鎌取町内会では住民アンケートを行い、見守り活動がスタート。	・いきいきサロンを19カ所に増設し、全サロンに福祉活動推進員を配置。 ・若い世代も多いので子育てサロンや中学校との連携でふれあい体験学習を実施。	・障害者やその家族に対してのサロンやイベントを開催し、仲間づくりや障害者への理解を深める事業を実施。 ・災害時への対策講座を開催。
課題	・古市場団地で始まったサロンや見守り活動が他の地域でも実施できるように定例理事会で情報共有していく。 ・今年度から福祉活動推進員を増やし、まずはサロン増設から取り組んでいく必要がある。	・町の高齢化と併せて地区部会スタッフも高齢化してきているため、若い人材を発掘していく必要がある。 ・地区部会外の子育てサークルもあり若い世代も増えてきているので徐々に連携を促したい。	・地区部会として設立当初のままの区域で活動しているため、人口の増加に伴った区域の見直しが行われてこなかった。地区連協も同区域で設置されているため、区域の見直しについて、今後も適宜検討していく必要がある。	・自治会館を所有している町内自治会がほとんどないため、地域の中で気軽に集える場所がない。 ・いきいきサロンも2カ所しか実施できず1カ所に大勢の高齢者が遠方から集まってきている。 ・歩いていける範囲での会場を見出す必要がある。

第 2 期美浜区地域福祉計画の推進状況

(1) 第 2 期計画の重点項目における主な成果 (H26. 3. 31 時点)

重点取組項目	主な成果
①新しい近隣づくり活動（日頃から、あいさつに心がけ、近隣とのコミュニケーションから始めよう。）	○ふれあい食事サービス、ふれあい3事業の参加者拡充や、福祉バザー等の各種イベント及び行事を開催することにより、近隣どうしのコミュニケーションの促進が図れた。
②中学校区を中心に、地域福祉を推進する地域活動団体の連携強化（地域の現状把握と活動充実）。	○各地区とも町内自治会、地区民生委員児童委員協議会、社協地区部会、小中学校及びあんしんケアセンター等の地域の諸団体、関係機関と連携し、福祉教育や見守り活動など様々な活動を実施し、連携強化を図った。
③地域の“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	○幸町団地、他8地区で、地区独自のカードを作成・配付 ○美浜区安心カードは、対象者約5, 000人に対し3, 800人にカードを配付した。 ○真砂地区で、「ささえあいまさご」を立ち上げ。
④災害発生時の地域での対応マニュアル整備	○自主防災組織結成件数が美浜区内に174組織、結成率は80%を超えた。
⑤日頃から、地域にどんな支援を必要ながいるか、また、どんな相談窓口があるか知っておこう。	○地区民生委員児童委員協議会・あんしんケアセンター等と連携し、制度や機関の周知を図り、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。
⑥民生委員・児童委員と地域で取り組まれている「助け合い活動」などとの連携を図る。	○地区民生委員児童委員協議会の定例会に社協区事務所職員が出席し連携を図るとともに、町内自治会等による地域の福祉活動を把握し、問題を抱える方に対する助け合い活動や見守り活動の推進に努めた。
⑦あんしんケアセンターの利用促進（出張相談の利用と充実）	○あんしんケアセンターでは、認知症サポーター養成講座など各種講座を開催し、利用の促進を図った。 ○町内自治会や各種団体で開催される出張講座や体操教室において、あんしんケアセンターの出張相談等の利用が促進された。
⑧小中学校の余裕教室・空き教室活用	○空き教室の活用について、市に利用申込の申し入れを行うとともに、廃校となった学校の利用について協議が進んでいる。

重点取組項目	主な成果
⑨フリースペースの設置場所の確保と運営管理体制の検討	○地域再生リサーチによる、空き店舗を利用した「アートコミュニティ美浜」や多世代交流ステーション「にこりこ」事業を展開し、誰でも自由に気軽に集まれる場づくりが進んでいる。
⑩町内自治、公営住宅、民間集合住宅の集会所の活用	○町内自治、公営住宅、民間集合住宅の協力を得、集会所等を活用して社協地区部会の事業（ふれあいいいききサロン・子育てサロン・食事サービス）を開催した。
⑪空き店舗や、店舗の客入りの閑散な営業時間帯を活用したコミュニティスペースの提供と商店街の活性化	○地域再生リサーチによる、空き店舗を利用した「アートコミュニティ美浜」や多世代交流ステーション「にこりこ」事業が展開され、地域資源の活用による交流の場づくりが進んでいる。
⑫近所に、何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう。	○あんしんケアセンター及び民生委員により、介護保険未申請の方に主治医受診を勧め、地域、在宅医療機関福祉の促進に努めた。
⑬障害者・要援護者等の避難訓練の実施及び避難場所の体制づくり	○避難所運営委員会が、美浜区内に24委員会設立され、避難訓練のための体制整備に努めた。
⑭美浜区ボランティアセンターを活用したボランティア活動への参加推進	○美浜区ボランティアセンターにおいて、講座開催やボランティア活動の紹介を行い、ボランティア活動への参加推進に努めた。 ○美浜区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数（H24年度：568人・H25年度：598人）
⑮研修の実施などによるボランティアの養成と地域人材の活用（自分の力や特技を、地域のボランティア活動に生かそう。）	○美浜区ボランティアセンター等において、手話（初級）ボランティア講座・シニア傾聴ボランティア・ボランティア入門講座・ちょこっとボランティア事業を開催し、ボランティアの発掘・養成を行った。

(2)第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの現状(H26.3.31時点)

地区部会名／重点項目	新しい近隣づくり活動（日頃から、あいさつに心がけ、近隣とのコミュニケーションから始めよう）	中学校区を中心に、地域福祉を推進する地域活動団体の連携強化（地域の現状把握と活動充実）	地域のみんで支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	災害発生時の地域での対応マニュアル整備	日頃から、地域にどんな支援を必要とする人がいるか、また、どんな相談窓口があるか知っておこう	民生委員・児童委員と地域で取り組まれている「助け合い活動」などとの連携を図る	あんしんケアセンターの利用促進（出張相談の利用と充実）	小中学校の余裕教室・空き教室活用	フリースペースの設置場所の確保と運営管理体制の検討	町内自治、公営住宅、民間集合住宅の集会所の活用	空き店舗や、店舗の客入りの閑散な営業時間帯を活用したコミュニティスペースの提供と商店街の活性化	近所に、何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう	障害者・要援護者等の避難場所の体制づくり	美浜区ボランティアセンターを活用したボランティア活動への参加推進	研修の実施などによるボランティアの養成と地域人材の活用（自分の力や特技を、地域のボランティア活動に生かそう。）
稲毛海岸地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、子育てサロン、散歩クラブの実施。 ・グラントゴルフ大会(高齢者対象)、ちびっこグラントゴルフ大会(小学生対象)の開催。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、スポーツ振興会、老人クラブ、地域ボランティアの方が入って連携して活動を行っている。	・各自治会ごとに見守りネットワーク設立を目指している。現在、1自治会が見守りネットワークとして対象者及び支援ボランティアの募集を開始。 ・38連協では、全戸に安心カードを配布。	・自主防災組織が、13組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年2回)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、ふれあいいきいきサロン、子育てサークル事業、散歩クラブ、学校・家庭・地域連携まちづくり推進事業、男性の料理教室、敬老会、食事サービスなど実施。	・あんしんケアセンター高洲では、ラジオ体操毎週月曜日実施、ふれあい体操毎月1回実施、介護予防体操教室毎週実施、認知症サポーター講座2回実施。 ・あんしんケアセンター真砂では、認知症サポーター養成講座10回、体操教室11回、出前講座3回、イベント参加、ミニ講座、講演会等を実施。	未実施	未実施	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン会場として活用(6か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、避難所運営委員会が稲浜小・稲浜中にて設立。	・区ボランティアセンターを活用したボランティア登録者数 (H24:24人 H25:24人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
幸町一丁目地区部会	・いきいきサロン、子育てサロン、散歩クラブの実施。 ・おはようボランティア(夏休みに小学生を中心に清掃活動)の実施。 ・ラジオ体操の実施(毎日幸町公園で実施、夏休みは小学生も参加)。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、日赤奉仕団、スポーツ振興会、老人クラブ、コミュニティ委員会、グリーンフル委員会、青少年育成委員会、地域ボランティアの方が入って連携して活動を行っている。 ・モデル事業(円卓会議)に参画、支援し連携をとっている。	・モデル事業(円卓会議)に参画。事業として「高齢者の見守り安否確認体制の構築」「ふれあい電話サービス、機械による見守りサービス」に取り組んでいる。 ・安心サポートの会(助け合い活動)を支援。	・自主防災組織が、10組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年6)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、ふれあいいきいきサロン、敬老会、子育てサロン、地域内パトロールの実施、学校との情報交換会など実施。	・あんしんケアセンター幸町では、体操教室10回、ケース会議26回、連携会議5回、地域ケア会議3回、認知症サポーター養成講座1回、安心協力員会議2回、出張体操教室、講演会等を実施。	未実施	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(4か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、幸町第二中・幸町第三小にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:28人 H25:32人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
幸町2丁目地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロンの実施。 ・夕涼み会、クリスマス会、親子で楽しむ人形劇の実施。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、日赤奉仕団、地域ボランティアの方が入って連携して活動。 ・より良い街づくり協議会を立ち上げ地域福祉を推進。	・千葉県社会福祉士会による「みまも〜れ幸町」事業を、H24年10月より、あんしんケアセンター幸町が業務継承、連携を図っている。	・自主防災組織が、14組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年3)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、また、「みまも〜れ幸町」と連携して見守り支援活動を実施。 ・食事サービス、ふれあいいきいきサロン、敬老会、地域内パトロールの実施。 ・学校との情報交換会などを実施。	・あんしんケアセンター幸町では、体操教室10回、ケース会議26回、連携会議5回、地域ケア会議3回、認知症サポーター養成講座1回、安心協力員会議2回、出張体操教室、講演会等を実施。	・幸町第一、第二小学校跡地利用について協議中。	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(3か所)している。	検討中	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、幸町第一小・幸町第二小・旧幸町第四小・幸町第一中・幸町公民館にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:34人 H25:36人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
高洲・高浜地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、散歩クラブの実施。 ・こどもフェスタ(小学生対象に昔遊び、工作を行う)、ネイチャーゲルム大会(昭和の森でオリエンテーリング等を行う)の実施。 ・稲毛海岸駅前の清掃とプランターの整備活動。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、日赤奉仕団、スポーツ振興会、青少年育成委員会、コミュニティ懇談会、地域ボランティアの方が入って連携して活動。 ・美浜福祉のまちづくり会議(仮称)に参画し各団体と連携をとっている。	・高齢者の社会的孤立や孤独死問題解決を目指す、「高齢者の居場所づくりと見守りの仕組みづくり」について検討中。	・自主防災組織が、13組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年2)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、食事サービス、ふれあいいきいきサロン、敬老会など地区部会事業への参加協力。 ・地域内パトロールの実施、中学校区青少年育成委員会への協力など。	・あんしんケアセンター高洲では、ラジオ体操毎週月曜日実施、ふれあい体操毎月1回実施、介護予防体操教室毎週実施、認知症サポーター講座2回実施。	未実施	・「ちば再生リサーチ」による、「買い物支援」、空き店舗を活用した「アートコミュニティ美浜」、多世代交流ステーション「にこりこ」の実施。	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(8か所)している。	・「ちば再生リサーチ」による、「買い物支援」、空き店舗を活用した「アートコミュニティ美浜」、多世代交流ステーション「にこりこ」の実施。	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、高浜公民館にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:182人 H25:186人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
真砂地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、子育てサロンの実施。 ・ふれあい交流会(高齢者と小・中学生の交流会)実施。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、日赤奉仕団、老人クラブ、福祉施設、地域ボランティアの方が入って連携して活動。	・地区部会が主体となり、H25年3月より、地域支え合いのネットワーク「ささえあいまさこ」(支え合い支援・見守り)事業を開始。(H25派遣件数195件、のべ活動人数700人、のべ活動日数420日)。	・自主防災組織が、33組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年3)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、「ささえあいまさこ」、ふれあいいきいきサロン、敬老会、子育てサロン、食事会などを実施。 ・広報紙を発行し(年3)、情報提供を行った。	・あんしんケアセンター真砂では、認知症サポーター養成講座10回、体操教室11回、出前講座3回、イベント参加、ミニ講座、講演会等を実施。	・真砂西小学校を「いきいきサロン」の会場として使用している。	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(5か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、真砂西小にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:106人 H25:113人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
磯辺地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、子育てサロンの実施。 ・ふれあい交流会(障害者と地区部会スタッフ(地域住民)の交流会)実施。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、日赤奉仕団、地域ボランティアの方が入って連携して活動。	・磯辺福祉協力員ネットワーク(見守り活動)を展開中。見守り対象者71名、協力員187名。今後は、助け合い活動(生活支援)から災害時支援と活動のステップアップを検討。	・自主防災組織が、26組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年3)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、ふれあいいきいきサロン、子育てサロン、食事会など地区部会事業への参加協力。 ・健全育成委員会等と連携し、学校との情報交換なども活発に実施。	・あんしんケアセンター磯辺では、認知症サポーター養成講座2回、体操教室11回、出前講座3回、イベント参加、地域交流スペース12回、講演会等を実施。	・磯辺第一中学校内「磯辺地域ルーム」を利用している。	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(6か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、磯辺小・旧磯辺第一小・旧磯辺第二小・磯辺第三小・旧磯辺第一中・磯辺中・千葉西高・磯辺高・磯辺公民館にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:99人 H25:110人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
幕張西地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、子育てサロンの実施。	・地区部会役員に町内自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、スポーツ振興会、コミュニティ懇談会、地域ボランティアの方が入って連携して活動。	・高齢化率や孤独死の諸問題を懸念し、高齢者同士の交流や高齢者若年層間の交流を課題に挙げ、講演会では「絆」や「住まいの安全対策」等を取り上げて意識の醸成を図っている。	・自主防災組織が、11組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年2)、情報提供を行った。	・民生委員・児童委員と連携し、ふれあいいきいきサロン、子育てサロン、食事会、敬老会などへの参加協力。 ・地域内パトロールの実施など。	・あんしんケアセンター磯辺では、出前講座等を開催。	未実施	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(2か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、幕張西公民館にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:36人 H25:36人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。
打瀬地区部会	・ふれあい食事サービス、いきいきサロン、子育てサロン、散歩クラブの実施。 ・小学生への甘あそびの指導、保育園に餅つき指導。 ・ミニシアターの開催。	・幕張ベイタウン協議会(民生委員・児童委員、自治会、管理組合、商店会等)、円卓会議(青少年育成委員会、スポーツ振興会、自治会、商店会、小中教員・保護者会等)に参画、連携して活動。	・各街区の自治会・管理組合代表者と民生委員・児童委員及び地区部会の三者で話し合いの場を持ち、相互の意思疎通を図るなど、見守り活動の本格始動に向け動き出している。	・自主防災組織が、29組織、結成された。	・地区民児協・あんしんケアセンターと連携し、支援を必要としている方の発掘や相談体制の強化を図った。 ・広報紙を発行し(年2)、情報提供を行った。	・幕張ベイタウン協議会への参加。 ・あんしんケアセンターへの協力。 ・ふれあいいきいきサロン、敬老会、子育てサロンなど地区部会事業への参加協力。 ・学校評議員として参加し、学校との情報交換など。	・あんしんケアセンター磯辺では、体操教室11回、ラジオ体操サークル立ち上げ支援、出前講座2回等を開催。	未実施	未実施	・いきいきサロン、子育てサロン会場として活用(9か所)している。	未実施	・介護保険未申請の高齢者に対し、あんしんケアセンター及び民生委員等から主治医受診を勧めている。	・避難場所の体制づくりとして、海浜打瀬・打瀬中・打瀬公民館にて設立。	・区ボランティアセンター個人ボランティア登録者数 (H24:59人 H25:61人)	・手話(初級)ボランティア講座を1回開催・シニア傾聴ボランティア講座を1回開催・ボランティア入門講座を1回開催・ちよこっとボランティア事業、ボランティア登録者へボランティアセンターのお知らせ(ボランティア募集)を送付しボランティアコーディネートを行った。

(3) 第2期計画の重点項目における各地区部会エリアの主な成果・課題 (H26.3.31時点)

区分／地区部会名	稲毛海岸地区部会	幸町2丁目地区部会	幸町一丁目地区部会	高洲・高浜地区部会	真砂地区部会	磯辺地区部会	幕張西地区部会	打瀬地区部会
地域性	1. 人口及び世帯数 8,493人、3,539世帯 2. 区域内単位町内自治会数 12 3. 高齢化率 16.3%(1,386／8,493(人)) 4. 特徴 埋め立て前の、かつての海岸線の地区。古くからの住民地域・中層団地・新興の高層マンションや近年開発された5丁目のマンション・戸建地域と様々な時期に開発された地域。そのため、地域によって世帯の年齢層が異なっており、高齢化率も5%から26%と大きく異なっている。	1. 人口及び世帯数 13,235人、6,502世帯 2. 区域内単位町内自治会数 13 3. 高齢化率 25.3%(3,346／13,235(人)) 4. 特徴 昭和40年代から宅地開発され、主に昭和44年に入居開始した中層5階建てのUR団地群からなる。入居開始から40年を過ぎ、今後さらなる高齢化が予想される。	1. 人口及び世帯数 9,088人、4,558世帯 2. 区域内単位町内自治会数 18 3. 高齢化率 21.9%(1,992／9,088(人)) 4. 特徴 昭和40年代後半から宅地開発された高層分譲集合住宅が中心で、初期に開発された地域では少子高齢化が進展。高齢者の孤立や孤独死への不安、近隣の商店の閉店等による買い物等の不安が地域の課題。	1. 人口及び世帯数 40,475人、18,817世帯 2. 区域内単位町内自治会数 24 3. 高齢化率 36.1%(14,590／40,475(人)) 4. 特徴 高洲地区は、JR京葉線稲毛海岸駅がある。駅前には大型商業施設やコミュニティセンター・図書館・金融機関などがあり、その周りをUR団地群や高層マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。高浜地区は、人工海浜や海岸線の稲毛海浜公園に隣接した地域で、集合住宅団地が多く近年では中国人住民が県営・市営住宅を中心に急増している。また、5丁目・6丁目の戸建住宅地区は、高齢化率が40%を超えた地域になっている。	1. 人口及び世帯数 25,095人、11,649世帯 2. 区域内単位町内自治会数 30 3. 高齢化率 27.2(6,825／25,095(人)) 4. 特徴 JR京葉線検見川浜付近には、美浜区役所・美浜保健福祉センター・美浜消防署及び大型商業施設や高層マンションが集まっている。また、周辺には、UR集合住宅団地や分譲マンションが林立し、花見川沿の一部に戸建のエリアも広がっている。昭和50年代から戸建・集合住宅の建設・一斉入居された住民が多い地域。	1. 人口及び世帯数 17,215人、7,088世帯 2. 区域内単位町内自治会数 27 3. 高齢化率 34.0%(5,853／17,215(人)) 4. 特徴 JR京葉線駅より海側が磯辺地区になり、同駅の周辺に中高層マンションが立ち並び、その南側には戸建の住宅地が広がっている。海浜病院・県救急医療センターや県立高校が2校存在するが、戸建住宅地域は開発当初からの入居者が多く、特に3丁目・7丁目は高齢化率40%を超える高齢者居住地域になっている。	1. 人口及び世帯数 12,148人、4,685世帯 2. 区域内単位町内自治会数 14 3. 高齢化率 17.6%(2,135／12,148(人)) 4. 特徴 区の北西端に位置した国道14号線と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。近年開発された高層マンションや商業店舗が立ち並んでいるほか、戸建住宅も中心部に広がっており、比較的若年層の多い地域。また、浜田地区は、東関東自動車道により南北に分断されており、大規模開発された分譲マンションのほか県運転免許センターや工場などが存在する地域。	1. 人口及び世帯数 23,991人、8,327世帯 2. 区域内単位町内自治会数 20 3. 高齢化率 7.7%(1,837／23,991(人)) 4. 特徴 平成元年に幕張メッセのオープンでスタートした幕張新都心の一翼を担う住宅地区。業務研究ビル、教育・研究施設や、ホテル・商業の誘致及び幕張ベイトウンでの住宅整備の推進などにより、「職・住・学・遊」の複合機能の集積が進んだ。近年開発入居が始まった、沿道中庭式中層住宅を中心に高層マンション群からなる美浜区で一番新しい街。
主な成果	・38連協を中心に、全戸に安心カードを配布して緊急時に備えている。 ・見守りネットワーク設立を今後の目標にあげ、現在、1自治会が見守りネットワークとして対象者及び支援ボランティアの募集を開始。	・ふれあい食事サービス(配食)事業やいきいきサロンを3会場で開催。 ・サロンの情報交換会等、活発に活動。 ・今後、地区部会より発足した「より良い街づくり協議会」が「幸一、二小跡施設地元利用促進する会」を立ち上げ活動していく予定。 ・あんしんケアセンター幸町が継承した「みまもーれ(高齢者等見守りネットワーク)」とネットワーク会議を設け連携。	・いきいきサロンや子育てサロン等の活動が活発で参加者も非常に多い。 ・介護や医療に関する研究会や講演会を開くなど、地域課題に即した活動を展開。	・いきいきサロンやふれあい食事サービスなど、開催場所回数が多様。 ・調髪ボランティアや障害者のための外出支援等も継続的に実施。 ・地域の子どもたちに対する活動も盛んで、こどもフェスタやネイチャーゲーム等の事業も開催。	・いきいきサロン(4ヶ所)、子育てサロン、ふれあい食事サービスなどを活発に実施。 ・平成25年3月より助け合い活動を実施するため「ささえあいまさご」を立ち上げ活動を開始。昨年度、依頼件数約200件以上、協力員約100名の登録があった。現在、見守り活動実施に向けて検討中。	・いきいきサロン(5ヶ所)、子育てサロン、ふれあい食事サービス、福祉教育など活発に活動。 ・平成22年より見守り活動「磯辺福祉協力員ネットワーク」が構築され、磯辺地区全体で見守り活動を展開。また、あんしんケアセンターとの連携により住民に対する啓発活動も実施。	・いきいきサロン、子育てサロン、ふれあい食事サービス、車椅子の貸し出しなどを実施。 ・子どもが多い地区であり、PTAや健全育成委員会の活動が盛んである。	・エリア内の多くの場所で、いきいきサロン、子育てサロン、福祉教育等の活動を実施。 ・特に小中学校と連携した福祉教育が盛んで、子ども達の福祉意識の向上が図られている。 ・幕張ベイトウン円卓会議が組織されており、地区内の各種団体の連携が取れている。
課題	・1自治会で行っている見守りネットワークは、ゴミだし支援をきっかけに、現在、手上げ方式で対象者を募っているが、希望者がいない。 ・旧地域と新興住宅地との交流が少ない。	・民生委員・児童委員が、定数26名のところ7名が欠員状態。 ・高齢化等に伴い担い手確保に苦慮。	・高齢化等に伴い担い手確保に苦慮。 ・商店街等の閉店により買い物に不便。	・地域再生リサーチや千葉大サテライトキャンパス等の諸団体との連携強化。 ・豊富な周辺施設の有効活用、活動拠点の確保	・ささえあいまさごの事務所確保が早急な課題。	・地域全体が超高齢社会の状況にあり、担い手が不足。 ・区内でも高齢化率が高い地域であるにもかかわらず、年々見守り希望者が減ってきている。	・旧地域で活動拠点の幕張西公民館周辺は高齢化が進み担い手が不足。 ・新興高層住宅地では地域とのつながりが希薄なため、地域活動への理解を得にくい。	・マンション地域であるため、プライバシーの問題や地域の繋がりが希薄。 ・見守り体制を構築するにも自治会や管理組合の協力が不可欠だが、毎年、多くの自治会・管理組合長が変わるため、継続的な協議がしにくい。